

はじめに

いじめを苦しめた子どもの自殺、少年による凶悪事件、子どもが犯罪に巻き込まれる事件などが報道される中、二度と蘇ることのない「いのち」の大切さを、公教育の中で、取り上げなければならない時代がきていることを痛感する。誕生を育む性の営み、誕生、成長、災害、被害、事故、病、老い、死。「命を大切にすると」とは、それぞれの営みや出来事に、真摯に向き合い、「喜と楽」を真に味わい、「怒と哀」を人を傷つけない適切な表現に変えることかもしれない。

兵庫県立教育研修所心の教育総合センターは、「心の教育授業実践研究」「学校のストレスマネジメント研究」「暴力防止プログラム研究」等を刊行してきた。その集大成という試みが、「命の大切さを実感させる教育プログラム」である。このプログラムは、これまでの心の教育授業実践を包含するプログラムである。心の教育授業実践が、主に、臨床心理学の最近の知見を参考に構成されていたのに対して、命の大切さを実感させる教育は、教育そのものであると同時に、実践者の生き方そのものが問われている。

本実践事例集の内容も多岐に渡っている。小学校編は、児童間の人間関係を積極的に取り上げた実践と、保育園児との交流や子守歌をとおして育ちに注目した実践である。中学校編は、阪神淡路大震災・沖縄の歴史・死にかかわる絵本からの実践、台風23号豪雨災害での人と人の絆を取り上げた実践である。高等学校編は、犯罪被害者遺族の話や救急法のグループワークの実践である。いずれも、全15時間程度の授業実践である。

また、授業プランとして、命の絵本、ストレス、メール・ブログといった視点から構成した授業案等も織り込んだ。

今後もさまざまな実践を積み重ねていかなければならない。誕生を育む性の営みを取り上げた実践や、自殺防止教育は、まだ事例集に収められていない。また、国際的な視点からの命の大切さの実践も、これからであろう。実践事例集Ⅱをもって終わりとすることなく、「命の大切さを実感させるさまざまな教育実践」がこれからも集積されることを願ってやまない。

平成20年3月

平成19年度『命の大切さ』を実感させる教育プログラム開発研究委員会

委員長 富永 良喜

兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター所長

目 次

第1章 実践事例集の活用について

- | | |
|--|---|
| 1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧・・・・・・・・・・ | 1 |
| 2 教育プログラムの使い方のポイント・・・・・・・・・・ | 2 |

第2章 実践事例－小学校編－

- | | |
|--|----|
| 事例1 「以心伝心」の仲間をめざして (三田市立武庫小学校第5学年)・・・・・・・・ | 6 |
| 事例2 いのちへのまなざし (淡路市立大町小学校第5学年)・・・・・・・・ | 23 |

第3章 実践事例－中学校編－

- | | |
|---|----|
| 事例1 命の重みを考える－沖縄・阪神淡路大震災・生きること－
(太子町立太子西中学校第1学年)・・・・・・・・ | 37 |
| 事例2 命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして－
(豊岡市立城崎中学校第3学年)・・・・・・・・ | 54 |

第4章 実践事例－高等学校編－

- | | |
|--|----|
| 事例1 心・からだ・いのちを大切に、生き方を考える
(県立豊岡高等学校全学年)・・・・・・・・ | 70 |
|--|----|

第5章 「命の大切さを実感させる教育プログラム」授業プラン

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」授業プラン一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	90
2 授業プランの活用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	91

〈小学校編〉

1 死ってなに？生きるってどういうこと？－命に関する絵本を使って－ (姫路市立東小学校第4学年)・・・・・・・・・・・・・・・・	93
2 人間マップをつくろう (香美町立香住小学校第4学年)・・・・・・・・	97

〈中学校編〉

1 生き方から考える「命」 (明石市立江井島中学校第2学年)・・・・・・・・	101
2 ストレスと上手につきあおう (高砂市立松陽中学校第1学年)・・・・・・・・	105

〈高等学校編〉

1 言葉のひとり歩きを考える－メール・ブログをとおして－ (県立農業高等学校〈定時制課程〉第4学年)・・・・・・・・	109
2 「支援」を考える (県立新宮高等学校第1学年)・・・・・・・・・・・・・・・・	113

◇平成19年度「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会設置要項

◇平成19年度「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会委員名簿

◇平成18、19年度「小・中・高等学校『命の大切さ』を実感させる教育実践研究講座」の受講者名簿（一部）

第 1 章 実践事例集の活用について

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧

	番号	学年	テーマ	主な学習・体験	実践の参考となる教育プログラムモデル
小学校編	1	5年	「以心伝心」の仲間をめざして	名前発表会、ストレスマネジメント、いじめについて考える、構成的グループ・エンカウンター	②・④・⑤
	2	5年	いのちへのまなざし	ブックトーク、子守歌の学習、保育園との交流体験活動、絵本づくり	①・②
中学校編	1	1年	命の重みを考えるー沖縄・阪神淡路大震災・生きることー	沖縄の歴史・文化の学習、出産した母親から子どもが誕生した喜びを聞く体験、絵本の活用（『葉っぱのフレディ』）	①・②・③・⑤
	2	3年	命のつながりを実感するー「生」と「死」を見つめることをとおしてー	構成的グループ・エンカウンター、ストレスマネジメント、台風23号についての学習、大切な人をなくした悲しみにふれる体験（聞き取り活動）	③・④・⑤
高等学校編	1	全学年	こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える	エゴグラム、救急法のグループワーク、ふれあい看護体験、大切な人をなくした悲しみにふれる体験（ゲストティーチャー）	③・④・⑤

2 「教育プログラム」の使い方のポイント

小学校事例6

『命の大切さ』を実感させる教育への提言
第Ⅱ部 実践編 教育プログラムモデルの
項目に沿って実践をまとめています。

1 テーマ
かけがえのない命・つながる命

2 実践のねらい

身近な人との関わりをとおして、老いや病にふれる体験や、死の悲しみにふれる体験などから、命の有限性や死の普遍性・絶対性に気づき、自他の命のかけがえのなさに思いをはせる。さらに、死の悲しみや苦しみに向き合う人々の思いに接し、人とのつながりを感じ、強く生きようとする心について考える。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態
本校区は、淡路島の北部の自然豊かな地域で、交通の便は便利になったが、過疎化には歯止めが利かず、児童生徒の数は5名までに減少している。子どもたちの暮らしぶりも変わり、豊かな自然とそれほど大きな差はない。子どもの遊びの形態も変化し、テレビ、ゲーム、パソコン等が中心となり、「命」を軽視した様々な情報刺激もあふれている。また、農村地帯であるため3世代同居家庭が多く、祖父母を含めた地域の老人と接する機会は比較的多くあるが、高齢者はかつてのように人生の終末を自宅では迎えることは少なく

各学校の実践に至った経緯や背景・児童生徒の実態について記載しています。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・死というものを見つめ、死を身近に感じ、自分の命は両親の願いの結晶として

【感性を育む】

- ・遺された者の悲しみを通して、自分自身の命の大切さを実感させる。

【想像力の育成】

- ・すべての生き物には寿命があり、自分

実践のねらいを達成するために、どのような感動の体験をするか、子どもたちの感性や想像力にどのように働きかけるかなどの「指導のポイント」を記載しています。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなく、実践の場でも
- ・教員自身の死に対する思い
- ・家庭や地域に学習についての理解を求め
- ・現在悲嘆にある子どもが存在し、個別指導を充実させる。

・テーマに関連した資料や情報の収集
・子どもたちの状況の把握
実践に先立って必要な教師の準備について記載しています。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・理科（植物・生き物等の分野）
- ・体育（保健分野）
- ・家庭
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

道徳・特別活動・教科・総合的な学習の時間といった教育課程上の位置づけや単元構想について記載しています。

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・デジタルカメラの使用技術を習得

実践を行う前に、学習や体験の内容について、子どもたちに興味や関心を抱かせ、主体的に取り組めるようするためにはどのような準備が必要かについて記載しています。

(4) 家庭・地域との連携

- ・地域の人々に対し、アンケート調査や説明会を取り学習を実施することについての理解を求める。
- ・特別養護老人ホームで継続的に体験学習が実施されている施設と連携する。
- ・祖父母、その知人、家族に対し学習のねらいを伝える。

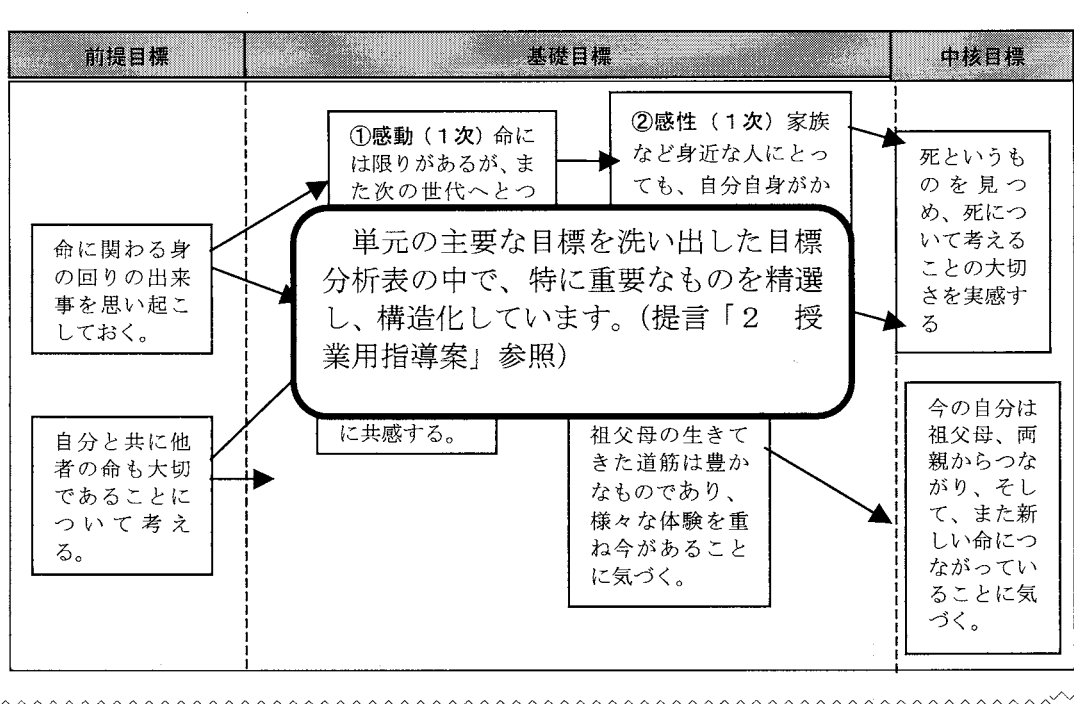
事前に家庭や地域へ依頼する事項や配慮すべき事項について記載しています。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。	○自他の命の存在に気づく。	○命に関わる身の回りの出来	○自分と共に他者の命も大切	
1次(5時間)	○「命」をテーマに写真を撮り、話し合う。 ○家族や大切な人、またはペットを亡くした体験を出し合う。	○	つながりを感じる。	を実感する。	○一つの命には限りがあるが、その命はつながっていることを理解させることができたか。

縦軸に学習の内容を、横軸に3つの指導のポイント「感動の体験」「感性を育む」「想像力の育成」を観点として配し、子どもたちにどのような力を身につけさせたいのかという目標を明確にしています。(提言「2 授業用指導案」参照)

7 目標構造図



8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。<提言 ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	○自己再発見の体験をする。<提言 P68 「私の人生の振り返り」
c	○医療施設や老人福祉施設等で行われて ・老・病・死と向き合う人々の様々な考

子どもたちに指導する前に、教員自身が実践するテーマに関して、どのような手法や内容で研修を行ったかについて記載しています。
(2) 指導の概要の中で研修の実施時期について明示しています。

(2) 指導の概要

研修内容	
事前	○ 自尊感情を高める体験をする。 (1時間) 教員研修 a
1次 (5時間)	○ 「死」を見つめる 1 季節の変化による生き物の様 2 校庭に出て子どもたちにデジ 3 家族や大切な人、ペット等を 4 「北朝鮮拉致被害者の会 有 家族の痛みと悲しみに共感する。 学校の状況、子どもたちの実態 や発達段階に応じて、計画・実施 された内容を、指導の概要として 示してあります。 (1時間) せ、発表す (1時間) (1時間) 然奪われた (2時間) 教員研修 b
2次 (10時間)	○ 自分と祖父母の伝記を作る。 1 家族から聞き取ったりして自分の (2時間) 2 自分の祖父母の今までの人生の道筋を聞き取り、まとめる。 (2時間) 3 ゲストティーチャーで来てくれた祖父の今まで生きてきた道筋を聞く。 (1時間) 4 聞き取った自分の祖父母の伝記を作る。 (3時間) 5 できあがった伝記を発表し合い、人生の豊かさと多様さを感じ、誰の人生もかけが えのない大切なものであることを実感する。 (2時間) 指導実践の内容について 詳細に記載している頁数 を示しています。

9 指導実践

【展開】

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 今の自分にとって大切な人やペット等を想いうかべ、みんなに紹介する。 ・「わたしはお母さんが大好きで、一番大切な人です。」 子どもたちの反応(発言・感想など)についても記載しています。 ・先生にもそんな悲しいことがあったんだ。 ・もし、今、先生のお父さんが生きていたら先生は何をしてあげますか。	・ 教師の説明例 ・ 板書例 など実施した授業の内容や指導上留意すべき点について記載しています。 「先生は交通事故により、突然にお父さんを亡くしました。お父さんは、大学卒業直前の弟に最後の仕送りをした後に事故にあいました。その後、しばらく電話のベルが怖かったです・・・。」
展開	親が、我が子を亡くした悲しみとはどんなものかを感じとってください。 ・親が子どもを亡くすと、こんなに悲しいんだ。ぼくのお母さんやお父さんも同じなんだろうと思う。 ・このお父さんは、奥さんを亡くして、また子どもを亡くしたんだ。心はぐちゃぐちゃになってしまうだろう。	子どもたちの気づきを促したり思考を深めたりするための教師の主要な発問を記載しています。

【子どもたちの振り返り】

振り返りカード	
年 組 名 前 ()	
学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験 ○自分を大切にすること、相手を大切にすることについて考えよう。	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 子どもたちが学習・体験の後に、自分の活動内容や心の動きを振り返るための振り返りカードを記載しています。 </div>
感性を育む ○あなたの大切な人が、とをしてくれたか考えよう。	

第2章 実践事例—小学校編—

事例 1 「以心伝心」の仲間をめざして
(三田市立武庫小学校第 5 学年)

小学校事例1

「以心伝心」の仲間をめざして

三田市立武庫小学校第5学年

1 テーマ

「以心伝心」の仲間をめざして

2 実践のねらい

自分の名前を調べることをとおして、自分の名前には多くの成長の願いが込められていることを理解する。また、子どもたちが自分自身の様々な感情に気づき、友だちの感情に共感し、共に支え合う体験をおして、自他を大切にすることを培う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、北摂三田ニュータウン開発により最初に設立された小学校で、児童数 600 人を超える大規模校である。

子どもたちの日々の生活を見ていると、「人間関係づくり」に悩む子どもたちが多くなっているように感じる。「むかつく」「きれる」という言葉が簡単に使われ、自分自身の怒りの感情をあまりにも安易な言葉（「死ね」「消えろ」等）で表現してしまったり、場の雰囲気が読めず、相手が傷つくような言葉を簡単に発したりするという実態がある。これは、自分自身の様々な感情に気づき、それを自分自身で対処する方法を体験として学んでおらず、そのため友だちとの些細な感情の行き違いが、大きな「対立」や「もめごと」に発展しているのではないかと、またそれを解決する方法を学んでいないからではないかと考えた。

そこで学級目標である「以心伝心の仲間をめざして」をテーマに、自分たちの学級がお互いの存在、命を大切にできる集団となることをめざして学習を進めた。

まず、自分自身の名前について自分で調べるという作業を行い、あらためて自分や友だちの存在の大切さに気づかせ、その後「自分の感情を受け入れる」「受容的な人間関係をつくる」「相手を傷つけないで自分の考えを言葉で表現する」という流れで指導した。アサーション・トレーニングやリラクゼーションを体験的に学ぶ活動を取り入れ、自他を思いやる気持ちを育むことをねらいとした。

さらに、「いじめ」の問題について、お互いを感じたことを語り合う中で、いじめは許されない行為であるという共通認識を持たせ、共に支え合う豊かな人間関係を築く力を身につけさせることをねらいとして実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・「名前」にこめられた家族からの願いを知るとともに、友だちの名前の由来を知ることによって、お互いが望まれて生まれた命であることに気づかせる。
- ・自分の様々な感情に気づき、それに対処する方法を身につけることにより、感情をコントロールできることを感じさせる。

【感性を育む】

- ・周りの友だちの特性に気づき、理解し合おうとする態度を育てる。
- ・いじめがいじめられる側に原因があるのではないこと、周りの者の関わりによっていじめをなくすことができることを理解させる。

【想像力の育成】

- ・相手を傷つけないで自分自身の思いを伝える方法を考えさせる。
- ・自分の思いがどうすれば相手に受け止めてもらえるか、相手の立場に立って考えさせる。
- ・友達から疎外されている人の気持ちを想像し、自分にできる援助を考えさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・学級集団の状態を把握するための調査の分析方法を知り、学級指導への生かし方を学んでおく。
- ・児童の家庭環境等の状況を把握するとともに、家庭に本実践についての理解と協力を依頼する。
- ・学級集団の状態を把握するための調査を実施、結果を分析するとともに、児童の実態について把握しておく。
- ・担任と学習・体験内容についての共通理解を図り、授業以外の場面でも本実践の趣旨を踏まえた関わりを依頼する。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・体育（保健分野）
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・漢和・国語辞典の使い方を学ぶ。
- ・いじめについて自分の考えをまとめる。
- ・自分の名前の由来について思い出す。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、豊かな人間関係を築く教育を進めていくねらいや趣旨を伝え、理解と協力を求める。

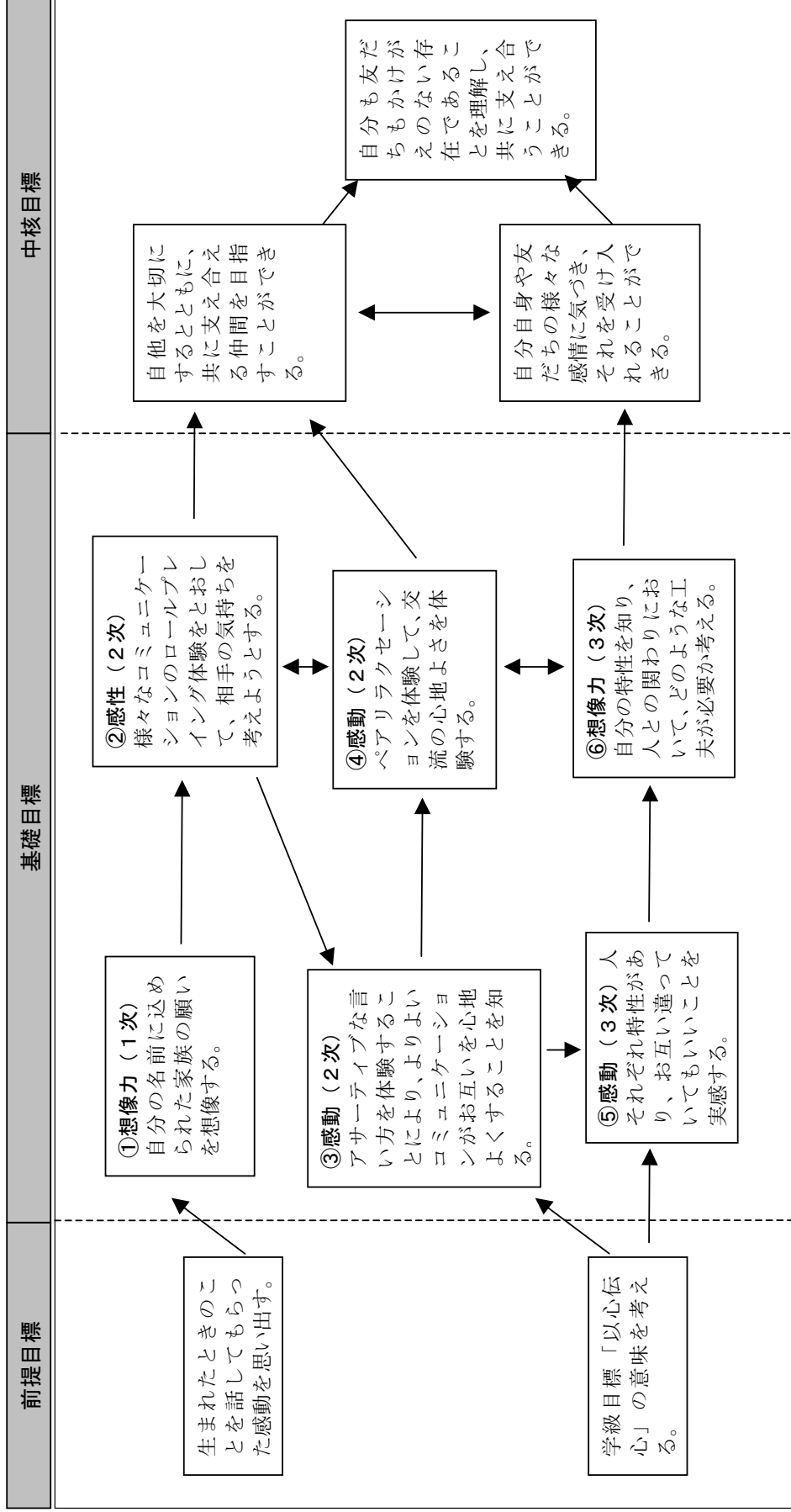
5 本校の実践の特色

- (1) アサーション・トレーニングやストレスマネジメントの体験をとおして、豊かな人間関係を築く方法について学ぶ。
- (2) 担任とのチームティーチングで取り組む。
- (3) テーマを学級目標と合致させ、児童に本実践のねらいを明確に意識させる。
- (4) いじめ防止教育を行う。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○学級目標「以心伝心」の意味を考える。 ○自分の名前について調べたことを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生まれたときのことを話してもらった感動を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前のもつ意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前の漢字や言葉の意味を想像してみる。 ○いじめについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名前の持つ重みを想像させることができたか。 ○友だちの名前にも興味をもたせることができたか。 ○お互いの存在を大切にしようという意識を持たせることができたか。
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前の意味を考える。 ○「名前発表会」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前を辞典等で調べ、その言葉や漢字の意味を知る。 ○友だちの発表を聞き、自分も友だちも大切にされている命であることを大切に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この世に生を受けて、最初に家族から贈られたものが名前であることに気づき、自分がこの世でかけがえのない存在であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前の漢字や言葉の意味から自分の名前に込められた家族の願いを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人には様々な感情があることを理解させることができたか。 ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感させることができたか。
2次（5時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のストレス対処の仕方を知る。 ○人との様々なコミュニケーションの取り方を知り、相手を傷つけないで自分の思いを伝える方法を知る。 ○ペアリラクゼーションをおして、友だちを助け、助けられるということの心地よさを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感する。 ○アサーティブな言い方を体験することにより、よりよいコミュニケーションがお互いの心地よくなることを知る。 ○ペアリラクゼーションを体験して、交流の心地よさを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ストレス帯グラフ」を書くことで、人によりストレスの感じ方が違うことに気づく。 ○様々なコミュニケーションのロールプレイング体験をおして、相手の気持ちを考えようとする。 ○自分の心を守るしくみを知ることと、より良い解決の方法を見つけようとする気持ち育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のストレス対処の仕方を知り、よりよい対処法を知る。 ○アサーション・トレーニングをおして、感情の行き違いの要因がコミュニケーションによることを知る。 ○自分の小さな支援で困っている友だちの手助けができることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人には様々な感情があることを理解させることができたか。 ○セルフリラクゼーションを体験することにより、ストレスが軽減することを実感させることができたか。 ○ロールプレイング体験をおして、よりよいコミュニケーションの取り方を実感させることができたか。 ○ペアリラクゼーションにより、友だちと交流する心地よさを感じ取らせることができたか。 ○心と体が深く関係していることを理解させることができたか。
3次（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○『十人十色なカエルの子』を読み、様々な「困難さ」を知り、関わり方や工夫の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人それぞれ特性があり、お互い違ってもいいことを実感する。 ○発達に関わる様々な「困難さ」について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「十人十色」の意味を考える。 ○作者が伝えたい思いを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の特性を知り、人との関わりにおいて、どのような工夫が必要か考える。 ○友だちがどのようなことに困っているか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友だちにある「困難さ」を理解させることができたか。 ○一人ひとり、成長に違いがあることを理解させることができたか。
4次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○『大石さんのこと』を読み、いじめの問題について対処の仕方を知る。 ○構成的グループ・エンカウンター体験により、仲間と力を合わせ助け合うことの心地よさを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの行為そのものが許せないという思いを実感する。 ○自分自身や友だちの様々な感情に気づき、それを受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめられる側にも問題がある」という考えについて、自分の意見を持つ。 ○自分も友だちもかけがえのない存在であることを理解し、共に支え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめを許さない」という思いを持たせることができたか。 ○自他を大切にするとともに、共に支え合える仲間を目指すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめを許さない」という思いを持たせることができたか。 ○今までの学習を生かすことができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○「勇気」に関する絵本を読み、自分たちができていることを考え、その思いを込めた5年2組の詩を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの言葉を集め「勇気の詩」を作ることとおして、自分が一人ではないことを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちを通じ合う喜びを感じ、そうした気持ちがいじめに立ち向かう力となることを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、どのようなクラスにしたいか発表し合う。 	

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点、「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修例（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

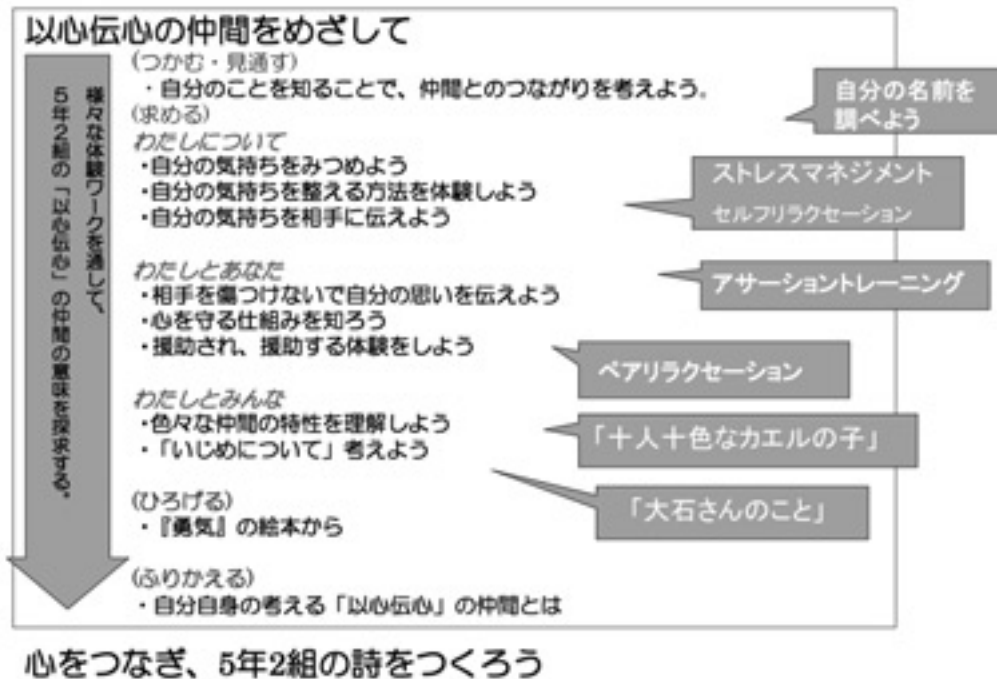
研修内容	
a	○児童の友人関係や学級の実態把握の方法を知る。 ・調査結果の分析方法について学ぶ。
b	○集団づくりや仲間意識を高めるための研修をする。 ・構成的グループ・エンカウンターの実験をする。 ・ストレスチェックを行いストレスマネジメントの実験をする。
c	○発達障害についての理解を深める。 ・『十人十色なカエルの子』の教材づくり
d	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について

(2) 指導の概要（全11時間）

内 容	
事前	○学級の実態把握のための調査を実施する。 ○「いじめ」についてのイメージマップをつくる。
1次 (3時間)	○自分の名前の意味を考える。 1 出生届や命名について知る。 2 辞典で自分の名前の意味を調べ家族から聞き取りを行って、名前に込められた願いに気づく。 3 名前発表会を開き、名前に込められた家族の願いについて交流会を行う。
2次 (5時間)	○自分の中にある様々な感情に気づくとともに、自分の思いを伝える方法を知る。 1 「喜怒哀楽」の感情について考える。 2 セルフリラクセーションを実験をする。 3 相手を傷つけないで自分の思いを伝える方法を体験する。 ・アサーショントレーニングの体験 ○困っている友だちを援助する方法を学ぶ。 1 『守るたたかう』の話を聞き、心と体が深く関係していることを知る。 2 援助したり、されたりしたときの感情について語り合う。 ・ペアリラクセーションの体験
3次 (1時間)	○様々な「困難さ」について理解し、友だちとの関係づくりについて考える。 1 『十人十色なカエルの子』を読み、カエルの子の様々な特性について話し合う。 ・「十人十色」の意味を考える。 ・登場するカエルの「困り方」を知る。 ・それぞれの特性について、自分と比べながら理解する。 ・作者の伝えたいメッセージを理解する。

4次 (2時間)	<p>○「いじめ」について考える。</p> <p>1 『大石さんのこと』について学習する。 ・「いじめられる側に問題がある」ということについて話し合う。</p> <p>○構成的グループ・エンカウンター体験により、仲間と力を合わせ助け合うことの心地良さを実感する。</p>	指導実践(3)p18~p20
事後	<p>○「勇気」に関する絵本を読み、自分たちができることを考え、その思いを込めた5年2組の詩を作る。</p>	

単元構想図



教室の中に単元構想図を掲示し、「学習の向かう先」を確認しながら授業を進めます。

9 指導実践

1次	自分の名前の意味を考える。
----	---------------

(1) 第1時

ア 本時のねらい

自分の名前について調べ、その言葉や漢字の意味から、自分の名前に込められた周りの人々の願いに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分の名前を辞典等で調べ、その言葉や漢字の意味を知らせる。

(イ) 感性を育む

この世に生を受けて、最初に家族から贈られたものが名前であることに気づき、自分がこの世でかけがえのない存在であることを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

自分の名前の漢字や言葉の意味を調べ、その名前に込められた家族の願いを想像させる。

ウ 準備物

- ・命名事典（名前の付け方）、国語辞典、漢和辞典、百科事典
- ・出生届

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと職員研修）

- (ア) 出生について調べることに問題がないか、事前に十分情報収集し協議を行う。
- (イ) 学校にある辞典だけでは不十分だと思われるので、あらかじめ、職員から命名事典等を借りておく。
- (ウ) 自分の名前からイメージしたことを絵でも表現できるので、その方法について図工専科等の教員と打ち合わせをしておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 この世に生を受けて、最初に家族から贈られた「名前」というプレゼントについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命名と出生届について 	<ul style="list-style-type: none"> ・命名についてふれるため、生活環境等、配慮すべきことに留意するとともに、子どもの表情を観察しておく。
展 開	<p>2 自分の名前について調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">自分の名前の意味を調べてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな方法で調べようかな。 ・調べたことを、どうやってまとめようかな。 ・まとめたことを、どんなふうに伝えたらいいだろう。 <p>3 「私の名前発表会」の計画を立てる。</p> <p>4 自分の名前について調べ始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一枚の画用紙に名前を書いて調べたことをまとめよう。 ・まとめたことをどんなふうに発表しようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで家族から聞いている子どもも多いと思うが、ここでは、自分で調べたことを大切にしたい。
ま と め	<p>5 「私の名前発表会」に向けて、発表の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での聞き取りを望む子どもについては認める。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 命名の意味について、ほとんどの子どもは知らなかったが、名前に込められた家族の願いを知り、新鮮に感じたようだ。
- (イ) 教師自身が自分の子どもに対して命名したときの思いを語ることで、親としての願いを伝えた。話に聞き入る子どもたちの様子から、この学習への意欲を感じた。
- (ウ) 準備した辞典類が不十分で、自分の名前が見つからないと残念がる児童もいた。また、漢字の意味から願いをくみ取ることに苦労している子どももいたので、「名前字典」や「名付け方」の本も事前に用意しておく必要を感じた。
- (エ) 出生を調べることに配慮を要する子どもについて、養育者と事前の話し合いができたことは良かった。実践中も、家庭で養育者としての思いを子どもに語ってもらうなどの協力が得られた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○自分の名前の意味を調べてどんなことを感じましたか。	
感性を育む	○命名や出生届の話を聞いてどんなことを感じましたか。	
想像力の育成	○家族が子どもの名前をつける時の気持ちを想像してみましょう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



「命名」の意味
を辞書で調べ
ると・・・



先生の子どもの
名前はね・・・



ぼくの名前の画
数は・・・

3次	様々な「困難さ」について理解し、友だちのとの関係づくりについて考える。
----	-------------------------------------

(2) 第1時

ア 本時のねらい

人には様々な特性があり、その特性による困り方も人それぞれであることを理解する。そして、お互いがその特性を理解しあうことで、互いに認め合い助け合うことができることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

人それぞれに特性があり、その特性による困り方も様々であることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

人との関係において、互いに認め合い助け合うことにより、困難さをのりこえることができることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

作者のメッセージの意味を考えることで、困難さをもちながらも一人ひとりが大切な存在であるということを感じとらせる。

ウ 準備物

『十人十色なカエルの子』（東京書籍）の絵本

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 発達障害についての研修

(イ) 『十人十色なカエルの子』の絵本から、カエルの困り方の違いを6つに分類し、各分類を紙芝居の形で作成しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 題名の「十人十色」の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなちがっているということかな。 ・人それぞれ特色があるということかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいと密接に関係している言葉なので、しっかりとおさえておきたい。
展 開	<p>2 6匹のカエルの話を聞いて、どのようなことで困っているのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">6匹のカエルは、それぞれどんなことが苦手なのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに質問することが多くて、話をじっくりと聞くことが苦手なのかな。 ・一つのことばかりじっくり考えているのが苦手なのかな。 ・自分の周りのできごとに、気づくことが苦手なのかな。 <p>3 それぞれの特性について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">みんなは、6つのタイプのどれにあてはまるかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと同じでなくてもいいんだ。 ・困り方も人によって違うんだね。 ・一人ひとりに違った特性があって、それは個性と同じだね。 ・自分のことがよくわかると、どうしていけばよいかもわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なものとして6つのタイプを選ぶ。 <p><6匹のカエルの特性></p> <ol style="list-style-type: none"> ①学び方がちがう子 ②周りとの関わり方が分からない子 ③こだわりが強い子 ④気が散りやすい子 ⑤好きなことに夢中になりすぎる子 ⑥はやとちりする子 <ul style="list-style-type: none"> ・自分もどれかのタイプに入ること気づき、その困り方は人によって違うことを理解させる。 ・絵本で登場するカエル博士の言葉から、その特性を理解することで色々な工夫ができることを知らせる。

まとめ	<p>4 話の続きを読み、作者の伝えたい「十人十色」の意味を考える。</p>	<p>・聞くだけでなく、自分で作品を読みながら考えることができるようにする。</p>
-----	---	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

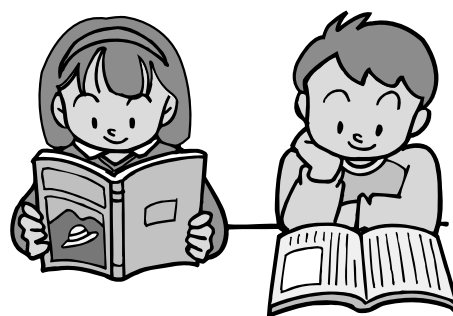
- (ア) 「発達障害」という言葉を使わず、特性という言葉で紹介したが、子どもたちから「それは個性と一緒にだね」という言葉が出た。
- (イ) 最後の「作者からのメッセージ」で子どもたちは、「違いがあるということは当たり前のことで楽しい」「一人ひとりにすばらしいところがあり、そのすばらしさを大切にしよう」等と感じたようだ。中には「十人十色」の言葉から、「苦手なことがあってもいいんだ」「なぜか安心した」と感じ、自己肯定感につながった子どももいた。
- (ウ) 授業後も絵本を貸してほしいという子どもがたくさんおり、子どもが自分自身を認め、特性をどう生かしていくのかということに興味を持たせることができた。



6匹のカエルの特性を図示

【こどもの感想から】

- 苦手なことがあったとき、だめなんだと思ったこともあったけど、だめって思わなくていいと思った。
- 不安を安心にかえる方法はたくさんあると思った。
- このお話は落ち込んでいる人を元気づけるなと思った。
- 一人ひとりにすばらしさがあるから、そのすばらしさを大切にしようと思った。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○人それぞれにある特性や様々な「困難さ」について学び、どんなことを感じましたか。	
感性を育む	○作者の伝えたい思いを感じ取ることができましたか。	
想像力の育成	○自分の特性を知り、どのような工夫ができるか、想像することができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

4次	「いじめ」について考える。
----	---------------

(3) 第1時

ア 本時のねらい

いじめについて、「いじめの行為そのものが許せない」という思いを持ち、自分にできることは何かを考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

相手を思いやる気持ちを持つことが、よりよい人間関係をつくることにつながることを理解させる。

(イ) 感性を育む

「いじめを許さない」という思いを持つことが大切であることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめを受けている友だちに対して、自分ができるところを考えさせる。
- ・相手の気持ちを想像することで、お互いがつながりあえることを理解させる。

ウ 準備物


「大石さんのこと」(『ともだち』兵庫県教育委員会)
ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

子ども達が「いじめ」に対してどのような考えを持っているか事前につかんでおく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 本文の挿絵から場面の状況をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの状況から、大石さんが疎外されていることを感じ取らせる。
展 開	<p>2 「大石さんのこと」を読み、大石さんの立場を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 大石さんは、クラスみんなから、どう思われているのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・動作がのろのろしている。 ・服の着方もどこかだらしがない。 ・すぐ怒る。 ・病気はもう治っているはずなのに…。 <p>3 「いじめられている大石さんにも問題があると考え」という「わたし」の思いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「大石さんにも問題がある」ということについて、どう思いますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人とちがうことでのけ者にしてはいけない。 ・外見ばかり見て大石さんの心を見ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大石さんがいじめられる立場にいることを理解させる。文章に書いていないことも想像させる。 ・自分の考えを明らかにし、十分討論させる。

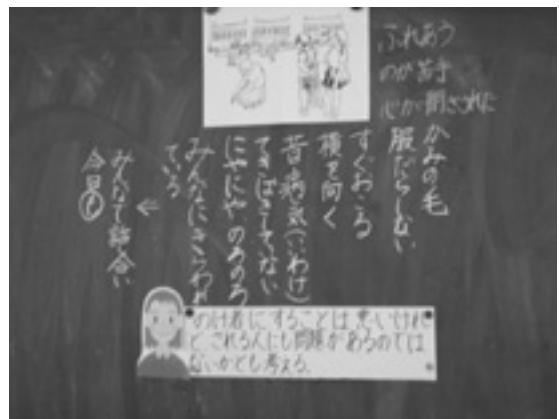
<p>展 開</p>	 <p>4 大石さんに対して自分ならどうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大石さんの気持ちを大切にしながら、自分の気持ちもしっかりと伝えたいなあ。 ・休み時間などに、自分から声かけをしたい。 ・大石さんにしてしまったことをあやまりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらが悪いということではなく、「いじめ」という行為そのものについて考えられるようにする。 ・これまで取り組んできた学習を、関連づけて振り返らせる。
<p>ま と め</p>	<p>5 「いじめ」について自分の考えをまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを自由に話し合い、発表するよう促す。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 授業前の意識調査では、「いじめられる側に問題がある」という意見があったので、大石さんを見てどう感じるかという点を中心に授業を進めていくことにした。
- (イ) 初めは「いじめられる側に問題がある」という意見に対して「異論あり 59%」であった。全員が自分の考えを発表し合う中で、「いじめることそのことが悪い」ということにみんなの思いが向かい、授業の最後では、「異論有り 88%」に変化した。
- (ウ) 子どもたちの意見の中には「一人ひとりの違いを理解していない」「一人でできないことも、二人・三人と力を集めればいい」というような、今まで学んだことを生かした発言も多くみられた。
- (エ) 「クラスで自分たちの思いを語り合い、みんながどんなことを考えているかがわかってよかった」という感想もあり、「大石さん」という架空の人物をとおして友だち関係について語り合うことにより、子どもたちがクラスのまとまりを感じることができた。
- (オ) 感想に「でもやっぱり怖くてとめられない」「自分がそんな目にあいたくない」と書いている子がいた。いじめに気づいたとき、相手を注意することだけが解決の方法ではなく、自分にできることを考えていくことが解決のスタートになること、小さな勇気の積み重ねが大切であるということ、今後作成する詩の中で表現させていきたい。

【こどもの感想から】

- 自分の意見では、大石さんはみんなからいやと思われているけれど、大石さんにだっていいところが絶対あると思うから、そんなに悪いことをいったらダメと思う。とにかく、いじめはダメ。
- このいじめの勉強をして思ったことは、いじめることは絶対ダメと思いました。
- みんなの意見をきいて「なるほど」と思えたのがうれしかった。



「大石さんのこと」板書

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○「大石さんのこと」を学習して、どのようなことを感じましたか。	
感性を育む	○「のけ者にすることは悪いけれど、される人にも問題があるのではないか」という意見について、自分の考えをまとめてみよう。	
想像力の育成	○大石さんに対して、具体的に自分はどんなことができるか想像してみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



自分の勇気の言葉を書いています

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

本学級は、授業前に行った児童の人間関係や学級の実態把握の調査では全体的に落ち着いた状態であった。しかし、個々の児童を見ると自尊感情の低い子どもや友だちとのトラブルを抱える子ども、家庭的な面で課題を抱える子ども等がいる。そのような実態から、この学習は「自尊感情」「豊かな人間関係」の2点を大切にしながら進めてきた。

5年生になると、子どもたちには「こうあるべき」という理想の姿があるが、一方で理想の姿とは違う現実の自分も実感している。そこで、もう一度名前について調べることで、名前に込められた家族の願いを再認識させ、自分も友だちも同じように大切な存在であるということに気づかせることができた。

そして、自分が怒りや悲しみを感じることは自然なことであり、「うそをつく」「人のせいにする」等も、心を守る一つの方法だということを知った。「ありのままの自分を受け入れる」ということが「自尊感情」を育てるスタートになることを改めて子どもたちに感じさせることができたと思う。

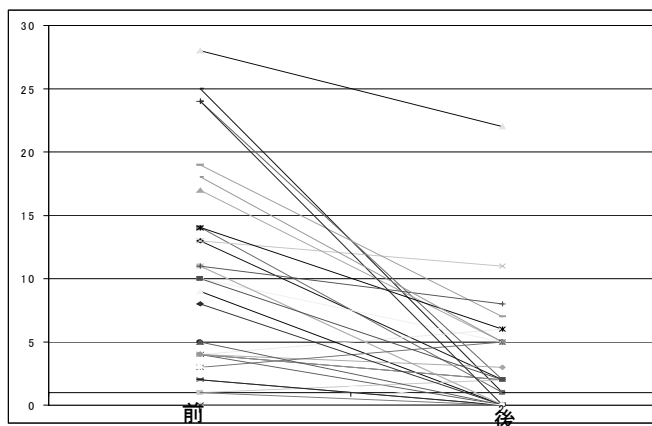
さらに、自分を受け入れたように友だちを受け入れるということの心地よさを実感させることにもつながり、『十人十色なカエルの子』の学習では、それぞれの特性を個性として受け入れ、「ありのままの自分でいいんだ」ということを実感させることができた。

ストレスチェックの変化などから、「リラクゼーション」「アサーション・トレーニング」等のワークは、子どもたちが体験的に学ぶ手段として有効な方法であるということが明らかになった。リラクゼーションについて目に見える形で実感できたようだ。このような積み重ねが、『大石さんのこと』の学習の討論につながっていったと考える。

一連の学習は、子どもたちの日常生活にも少しずつ変化をもたらしていった。トラブルに対してどのように語れば思いが伝わるのかを工夫したり、衝動性を抑えようとしている友だちの変化をみんなで認めて評価したり、日常のストレス場面でリラクゼーションを実践したりしている。これは、内容的には多種多様ではあるが、「以心伝心の仲間をめざして」というテーマを子どもたちの前に提示し、この学びが目指すところを絶えず意識させていったことによると考える。テーマが子どもたちに身近なものであることで、意識と意欲を持たせ続けることができ、子どもたちにも学習への見通しを持たせることができた。

子どもたちが「次の授業はいつになるの?」という質問をしてくるようになったことから、この学習への意欲を感じる事ができた。

セルフリラクゼーションの体験前と後のストレス反応得点の変化



(2) 今後の課題

ア 授業実践上の課題

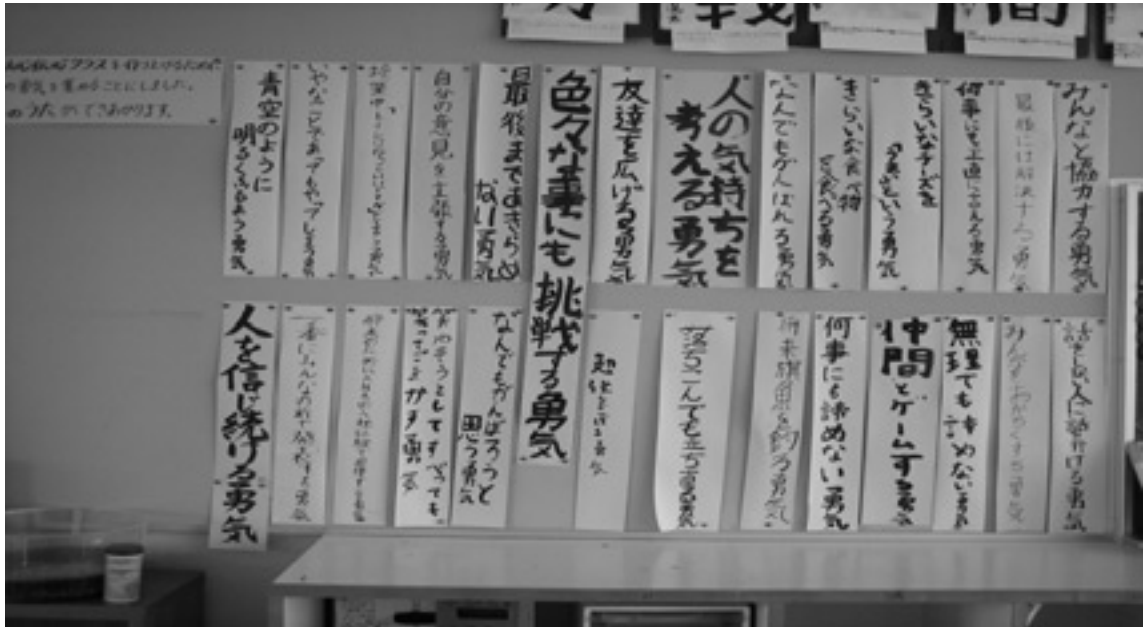
授業時間が限られているため、進め方が速い場面があり、もう少し時間的な余裕を持って進める必要があった。

イ 家庭や地域との連携についての課題

- ・子どもが抱える様々な課題を意識しながら学習を進めることで、家庭や地域と連携できたことはよかったと考える。実際に保護者と話す機会を持つことができ、そのことで子どもたちにとっても、家庭で話をする機会や配慮が得られたと感じる。
- ・授業を始めるにあたって学級通信で趣旨を伝え、授業の経過も伝えていった。保護者からも感想をいただき、各教科の学習だけでなく、学校で命や心の学習をすることを評価していただけたことはありがたかった。

ウ 学校の組織運営上の課題

教職員にも学級通信をとおして、授業の経過を報告した。特に、リラクセーションに関しては興味を持ち、研修の希望も出された。今回は一つの学級での取組であったが、今後は学年、学校全体として取り組んでいきたい。



5年2組 勇気の言葉

11 参考・引用文献

- ・兵庫県人権・同和教育研究協議会 編 『じんけんスキルブック』2001
- ・兵庫県教育委員会 『ともだち5』1978
- ・國分康孝 監修『エンカウンターで学校が変わる』 図書文化 1997
- ・教育カウンセラー協会 『教育カウンセラー標準テキスト』2004
- ・河村茂雄 『学級崩壊予防・回復マニュアル』 図書文化 2000
- ・落合みどり 『十人十色なカエルの子』 東京書籍 2003
- ・佐藤 饒 『見て分かる困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社 2006
- ・富永良喜 他 編著 『動作とイメージによるストレスマネジメント教育』
北大路書房 1996
- ・嶋田洋徳 他 『健康心理学研究』1994

事例2 いのちへのまなざし
(淡路市立大町小学校第5学年)

小学校事例2

いのちへのまなざし

淡路市立大町小学校第5学年

1 テーマ

いのちへのまなざし

2 実践のねらい

命をいつくしむ様々なまなざしに触れる体験をとおして、自他の命を大切にしようとする態度を養う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は淡路島中北部の農村地帯に位置する、各学年1学級の小規模校である。住宅の建設等により本校の児童数は過去数年の間、微増傾向にあり、地域と学校はかねてより密接なつながりがあった。また、教育に対する保護者や地域の関心も高い。教育課程の中には地域の様々な人との交流が位置づけられ、地域の人々の指導による社会教育活動も盛んである。

一方、核家族化の進行や共働きの増加など家庭の状況は大きく変化し、子どもの生活の様子も大きく変容している。テレビやゲームによる影響は計り知れず、豊かな自然の中で五感をはたらかせて遊ぶ経験は明らかに減少している。また、学校生活においては低学年の児童と仲よく遊び、思いやりを持って接する子どもたちであるが、日常の地域生活において異年齢の人とふれあう機会は決して多いわけではない。

そこで、「小さな命へのいつくしみ」に焦点をあて、感性にはたらきかける活動をとおして成長することの喜びや生きることのすばらしさを実感させ、自他の命を大切にしようとする態度を育てたいと願い、本テーマを設定した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・幼児との交流をとおして、小さな命の輝きを感じ取らせるとともに、幼児と関わり合うことの喜びを体験させる。

【感性を育む】

- ・小さな命の輝きに触れる体験活動や聞き取り活動をとおして、思いやりやいつくしみの感情を育む。

【想像力の育成】

- ・「子守歌」（眠らせ歌）を題材にした活動をとおして、歌とともに受け継がれている「命に対する思い」について考えさせる。
- ・自分自身の中で生まれた「いのちへのまなざし」を豊かに表現させる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・すべての教育活動の中で命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・命、出産、成長に関する本を読み、自分の考えを整理する。
- ・「子守歌」に関する資料を収集する。
- ・地域の「子守歌」の伝承について調べる。
- ・保育園の職員に対して活動の意図を説明し、助言を受けながら交流の打ち合わせを行う。
- ・児童の家庭の状況を把握し、十分に配慮する。
- ・家庭や地域の人々に対して活動の趣旨を伝え、協力を得る。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・音楽
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・ 自尊感情を高める体験をする。
- ・ 命、出産、成長に関わる身の回りの出来事を思い起こす。
- ・ 命に関わる読書経験を振り返る。

(4) 家庭や地域との連携

- ・ 家庭や地域の人々に対して活動の趣旨を伝え、理解と協力を求める。
- ・ 地域の保育園に協力を依頼する。

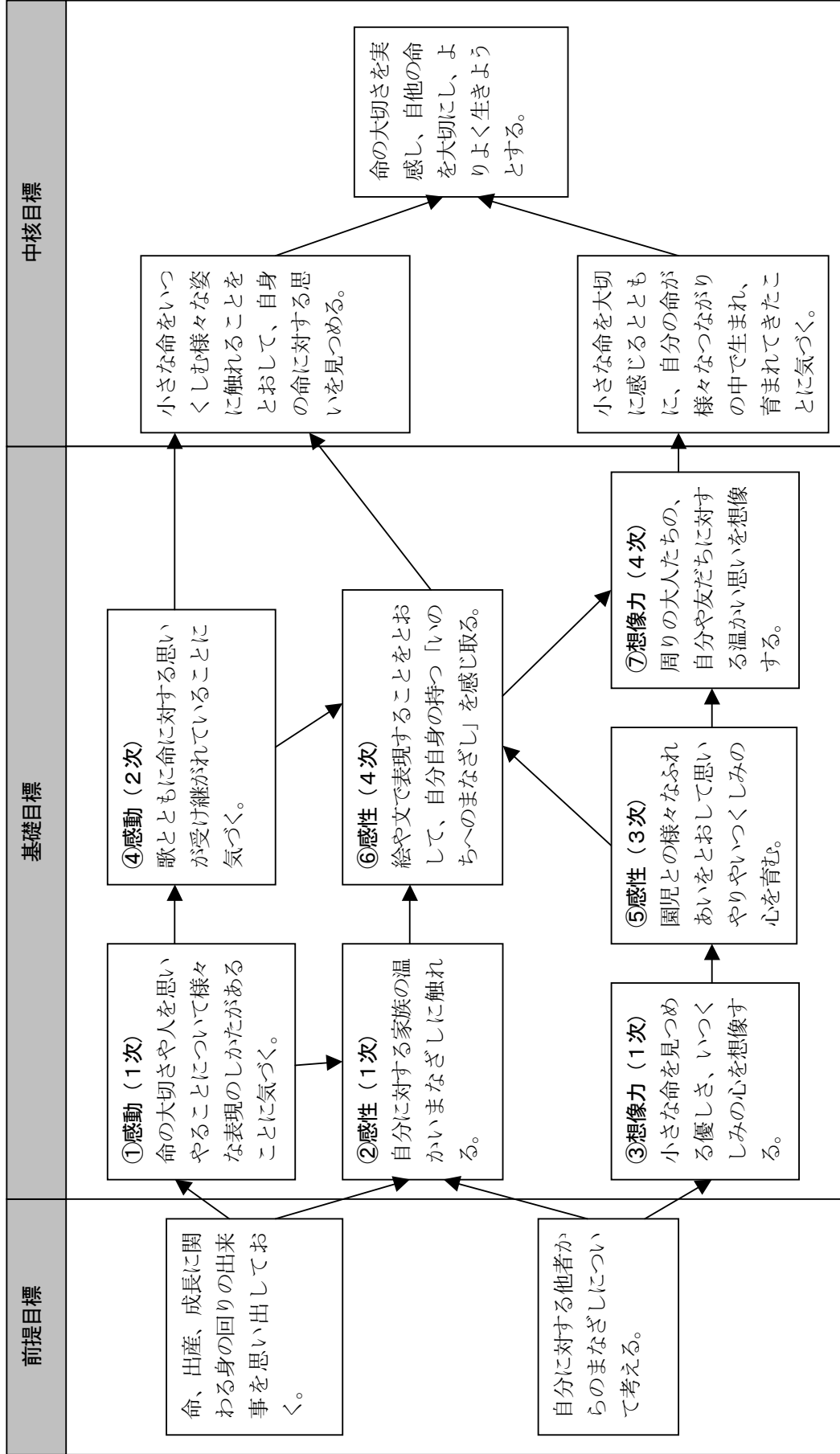
5 本校の実践の特色

- (1) 命についての見方を広げ深めるためのブックトーク
- (2) 音楽科「子守歌」の学習と関連づけた学習活動
- (3) 保育園と連携した交流体験学習
- (4) 自分自身を見つめ直し表現する「絵本づくり」の活動

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> 「命の大切さ」実感尺度に記入する。 自尊感情を高める体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の命の存在に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 命、出産、成長に関わる身の回りの出来事を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に対する他者からのまなざしについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 命に対して様々な見方やとらえ方があることに気づかせることができたか。 自分に対する周囲の温かいまなざしを見つめさせることができたか。
1次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> 「小さな命」に関する絵本を読んで話し合う。 自分自身の出生時や乳幼児期について聞き取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さや人を思いやることについて様々な表現のしかたがあることに気づく。 家族からの聞き取りをおおして、家族の愛情を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を読んで感じたことを互いに表現しあうことをとおして、命に対する自分の考えを深める。 自分に対する家族の温かいまなざしに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小さな命を見つめる優しさ、いつくしみ的心を想像する。 家族の愛情を感じ取り、自己と同様にかけがえのない他者の存在に気づく。 	
2次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> 「子守歌」について調べる。 歌に見られる「いのちへのまなざし」について追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの「子守歌」に共通している「心を落ち着かせ、眠らせる感じ」に気づく。 歌とともに命に対する思いが受け継がれていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子守歌」に込められた優しさ、いつくしみ的心を実感する。 「子守歌」が様々な人たちのつながりの中で生まれ、大切に育まれてきたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌の鑑賞や表現をおおして「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像する。 「子守歌」の歌詞や説明から、歌い手の姿を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像させることができたか。
3次（7時間）	<ul style="list-style-type: none"> 保育園児との交流体験をする。 交流体験について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児と主体的に関わることの喜びを味わう。 園児それぞれが持つ命の輝きを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児と毎日接している保育士の思いややりやいつくしみ的心を思い出す。 小さな命を大切に感じるとともに、自分の命が様々なつながりの中で生まれ、育まれてきたことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児と毎日接している保育士の思いを想像する。 小さな命の尊さについて理解を深める。 	
4次（6時間）	<ul style="list-style-type: none"> 絵本づくりをし、相互に発表し合う。 自作絵本の読み聞かせ活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの、小さな命をいつくしみ体験を振り返る。 絵本づくりをおおして、絵本に込めた自分の思いが、強くなっていくことを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文で表現することをおおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じる。 友だちが作った絵本を読んで、他者の命に対する様々な思いこふれる。 自他の命を大切にしようとする心情を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像する。 自分が絵本に込めたメッセージや願いが、他者にどのように伝わっているかを考える。 小さな命をいつくしみ様々な姿に触れることをとおして、自身の命に対する思いを見つめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本づくりをおおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じ取ることができたか。 自他の命を大切にしようとする心情を高めることができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに記入する。 「命の大切さ」実感尺度に記入する。 				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育て」、「①」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。〈提言P64：教員研修テーマ①〉 ・「わたしはわたしが好きです。なぜなら…」 ・「ここがあなたのいいところ」
b	○児童理解を深める。 ・児童の生育歴や生活の状況について、具体的な事例をもとに理解を深める。
c	○「子守歌」について調べ、教材研究を行う。 ・「子守歌」について研究を深め、学習資料を作成する。 ・地域の伝承について事前調査を行う。
d	○保育園の職員と懇談し、交流体験活動のねらいについて共通理解を図る。 ・保育をとおして小さな命を見つめる職員の思いに触れる。 ・交流のねらいを明確にし助言を受けるとともに、必要な支援について話し合う。

(2) 指導の概要（全21時間）

内 容	
事前	○「命の大切さ」実感尺度に記入する。 ○自尊感情を高める体験をする。 指導実践(1)p28～p29 教員研修 a
1次 (4時間)	○命に関する絵本を読んで話し合う。 ・「小さな命」「受け継がれる命」「大切な命」などのテーマで、グループごとにブックトークを行う。(3時間) ○自分自身の出生時や乳幼児期について聞き取りを行う。 ・出生時や乳幼児期の様子について家族から聞き取る。(1時間) ・自分に向けられてきた周囲からの「まなざし」について感じたことを表現する。 指導実践(2)p30～p31 教員研修 b 教員研修 c
2次 (4時間)	○「子守歌」について調べる。 ・各地の「子守歌」を鑑賞する。(2時間) ・自分自身が聞かせてもらった「子守歌」「眠らせ音楽」や身近な地域に伝わる「子守歌」について聞き取りを行い、わかったことを発表する。 ○歌に見られる「いのちへのまなざし」について追究する。 ・歌に込められた歌い手の思いについて、音楽をとおして考え話し合う。(2時間) 指導実践(3)p32～p33 教員研修 d
3次 (7時間)	○保育園児との交流体験をする。 ・保育園の職員との交流をとおして、小さな命を見つめる職員の思いにふれる。 ・保育園児との交流の計画を立てる。 ・計画に沿ってグループごとに準備を行い、交流体験活動に取り組む。 ○交流体験について発表する。 ・交流体験の様子やそれをとおして気づいたことについて発表し合う。(2時間) 指導実践(4)p34～p35
4次 (6時間)	○絵本づくりをして、学級で発表し合う。 ・「いのちへのまなざし」をテーマに絵本づくりをする。(4時間) ○自作絵本の読み聞かせ活動を行う。 ・作った絵本を用いて読み聞かせを行う。(2時間) ・絵本の感想について話し合う。
事後	○振り返りカードに記入する。 ○「命の大切さ」実感尺度に記入する。

9 指導実践

1次	命に関する絵本を読んで話し合う。
----	------------------

(1) 第2時

ア 本時のねらい

命に関する絵本を読んだりその感想を交換したりすることをおして、小さな命を見つめる思いを想像するとともに、命の大切さや人を思いやることについて様々な形で表現されていることに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

命の大切さや人を思いやることについて様々な表現のしかたがあることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

絵本を読んで感じたことを互いに表現しあうことをおして、命に対する自分の考えを深めさせる。

(ウ) 想像力の育成

小さな命を見つめる優しさ、いつくしみの心を想像させる。

ウ 準備物 「小さな命」を題材にした絵本

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 児童の命に関する意識を把握しておく。

(イ) 「小さな命」を題材にした絵本について調べ、収集する。

(ウ) ブックトークのテーマや効果的な進め方について検討する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時に絵本を読んだ感想を話し合う。	・感想をもとに、作者が絵本をおして伝えたかったことは何か、という絵本を読むときの大切な視点について、確認させる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">絵本を読んで、「小さな命」について考えよう。</div> 2 「小さな命」を題材にした絵本を読み深め、内容や感想をまとめる。	・「小さな命」に関する本を教室に多く用意して、いつでも気軽に開くことができるようにしておく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分の感じたことを入れながら、自分が読んだ絵本を友だちに紹介しよう。</div> 3 グループごとにブックトークを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・『せかいいちのあかちゃん』を読んで、きょうだいていいなあと思った。自分の親もこんなことを言っていたのかな。 ・『小さな小さなおとうとだったけど』は、とても悲しいお話だったけれど、両親の深い愛情を感じた。 ・『あなたの小さかったとき』を読んで、自分の小さかったときのことを思い出した。わたしもときどき自分の小さかったころを見たくて、アルバムを開くことがある。 	・絵本からどのようなメッセージを受け取ったのか表現させるようにする。

まとめ	<p>4 ブックトークの感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の本も読んでみたくなった。 ・同じ絵本を読んでも感じていることがちがっていた。 ・自分の小さいころの経験を思い出した。 ・赤ちゃんをかわいいと思う気持ちはみんな同じなんだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想や意見を交流させることにより、自分の考えを深めさせる。
-----	---	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 児童は絵本によく親しみ、のびのびと発表することができた。多様な絵本を用意することでさらに活動の効果が高められると感じた。

(イ)ブックトークをとおして、自分が誕生した時の聞き取りに向けての視点を持つことができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○絵本を読み、命の大切さや人を思いやることについての様々な表現を見つけよう。	
感性を育む	○友だちの感想を聞いて、命に対する自分の考えを深めよう。	
想像力の育成	○小さな命を見つめるときのやさしさやいつくしみの心を想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



私の読んだ絵本はね・・・



僕はこんな感想をもったよ。

2次	「子守歌」について調べる。
----	---------------

(2) 第1時

ア 本時のねらい

「子守歌」（眠らせ歌）を鑑賞することをとおして、歌手の「小さな命」に対する思いを豊かに感じとる。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

様々な「子守歌」に共通している“心を落ち着かせ、眠らせる感じ”に気づかせる。

(4) 感性を育む

「子守歌」に込められた優しさ、慈しみの心を実感させる。

(9) 想像力の育成

「子守歌」の歌手の気持ちを豊かに想像させる。

ウ 準備物 各地の「子守歌」（CD・カセットテープ）・資料「いろいろな子守歌」「子守の様子」

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (7) 「子守歌」に関する児童の学習経験を把握しておく。
- (4) 様々な「子守歌」について調べ、資料を収集する。
- (9) 題材の効果的な提示のしかたについて検討する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 1学期の「子守歌」の学習について話し合う。	・自由に発表できる雰囲気づくりに努める。
展 開	2 各地の「子守歌」を聞き、感じたことを話し合う。 （鑑賞曲）江戸子守歌／青森地方の子守歌／ 岡崎地方の子守歌／中国地方の子守歌／ 由良（洲本市）の子守歌 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">各地の「子守歌」をくらべて、どんなところが似ているか、考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねんねんよ」「ねんねこ」「ねにやもにや」など、歌詞が似ているなあ。 ・どの歌も速さがゆっくりしている。 ・静かでやさしい感じがする。 	・どの歌にも共通するゆったりとした2拍子の感覚や言葉の優しい感じに注目させ、赤ん坊を眠らせている様子を想像させる。 ・感じたことを自由に答えさせる。
	3 資料をもとに、歌手の思いにふれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">歌手は、どんな気持ちで、この歌を歌ったのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・おんぶをして子守りをしている様子を絵で見たことがある。 ・ゆっくりゆらしながら眠らせたのだろうか。 ・おどしているようなこわい歌詞もある。 ・赤ちゃんの興奮をはずめるのはたいへんだっただろう。 	・資料を手がかりに、歌手の思いを感じ取らせるようにする。 ・様々な「子守歌」の歌詞や説明を読んで、歌を歌っている様子を想像させる。

まとめ	<p>4 学習の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地にこんなにたくさんの「子守歌」があるとは知らなかった。 ・祖母が幼い妹に「子守歌」を歌っているのを聞いたことがある。 ・「子守歌」は優しさの込められた歌だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を交換し共有させ、聞き取り活動への意欲を持たせる。
-----	--	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 各地の「子守歌」を比較しながら鑑賞し、それぞれの歌に共通する歌のリズムや言葉の調子を手がかりに歌い手の様子を想像させた。また、補助資料により子守りの様子を具体的に示すことが重要だと感じた。
- (イ) 話し合いにより、聞き取り活動への意欲を持たせることができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○「子守歌」に共通する「眠らせる感じ」「心を落ち着かせる感じ」を感じ取ろう。	
感性を育む	○「子守歌」に込められた思いやりやいつくしみの心を感じ取ろう。	
想像力の育成	○「子守歌」の歌い手の気持ちを豊かに想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

3次	保育園児との交流体験をする。
----	----------------

(3) 第4時

ア 本時のねらい

保育園児との関わりの中で、自分の中の優しさをふくらませ、かけがえのない命を育てようとする喜びを感じとる。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

園児と主体的に関わることの喜びを味わわせ、「命の輝き」を感じ取らせる。

(4) 感性を育む

園児との様々なふれあいをとおして優しさや慈しみを実感させる。

(7) 想像力の育成

園児を世話する保育士の思いを想像させる。

ウ 準備物 事前交流の記録

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(7) 保育士と打ち合わせを行い、活動のねらいについて共通理解しておく。

(4) 園児の実態や配慮事項について把握しておく。

(7) 活動の参考となるように、事前交流の記録を整理しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 事前交流について振り返る。	・事前交流で経験したことを想起させる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">保育園児との交流の計画を立てよう。</div> 2 活動グループごとに、事前交流で気づいたことや感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・たこあげが楽しそうだった。 ・かるた遊びの好きな子がたくさんいたが、人数が多すぎるとたいへんだ。 ・保育園の先生が「けがをさせないことが第一」と言っていたので、気をつけないといけな。 3 交流の具体的な計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・年長組の子たちには、手作りのパズルやクイズを用意してあげよう。 ・なわとびや竹馬、めんこ遊びを教えてあげたい。 ・年少組の子たちと、ままごとや砂遊びをいっしょにしよう。 	・事前交流の経験が計画に反映されるように、十分に感じたことを話し合わせる。 ・園児の実態にあわせて主体的に交流活動が進められるように助言する。
ま と め	4 各グループの計画について発表し合う。	・続いての活動が絵本づくりであることを伝え、交流への意欲を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 事前交流を行ったことで園児の様子がよくわかり、園児の年齢に応じた具体的な計画を立てることができた。
- (イ) 多くの児童が話し合いに活発に参加し、遊びの工夫などを主体的に考えるようになった。
- (ウ) 事前に聞いた保育士の話が、交流への意欲や自信となり、園児の安全面にも配慮することにつながった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○園児とふれあうことの喜びを味わい、園児一人ひとりの輝きを感じ取ろう。	
感性を育む	○園児に優しい気持ちを持って関わったことで、感じたことを書こう。	
想像力の育成	○園児と接している保育士さんの思いについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



こうやってやるんだよ。



園児と遊ぶ児童たち

4次	絵本づくりをして、学級で発表し合う。
----	--------------------

(4) 第1時

ア 本時のねらい

これまでの学習をとおして自分の中に育まれている「いのちへのまなざし」を、絵本で表現し、命をいとおしく思う気持ちを持つ。

イ 指導のポイント

(7) 感動の体験

絵本づくりをとおして、小さな命を慈しむ気持ちを実感させる。

(4) 感性を育む

絵や文で表現することをとおして、自分自身の持つ「いのちへのまなざし」を感じ取らせる。

(9) 想像力の育成

周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像させる。

ウ 準備物 「小さな命」を題材にした絵本、これまでの学習活動の記録

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(7) 参考資料として、「小さな命」を題材にした絵本を収集しておく。

(4) これまでの学習活動の記録を整理し、児童が活動を振り返りやすいようにしておく。

(9) 絵本による効果的な表現の指導法について研究する。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	・児童が、これまでの学習活動の中で感じたことを想起できるような雰囲気をつくる。
展 開	「命」「優しさ」「思いやり」を題材にした絵本を作ろう。	
	2 制作から読み聞かせまでの見通しを立てる。 ・どんな絵本にしたら喜んでもらえるだろうか。 ・自分の好きな絵本を参考にしたらいいのかな。	・園児に読み聞かせる場面を想像させながら、自分の思いを絵や文に表現できるよう助言する。
ま と め	絵本にどんなメッセージを込めるか考えよう。	
	3 資料をもとに、絵本の構想を考える。 ・子どもの様々な表情を絵本にしたらいいのかな。 ・「大切なもの」をテーマにして作ってみよう。 ・動物の親子の様子を描きたいな。 ・「自分らしさが大切」というメッセージを伝えたいな。 ・主人公が夢を語るお話にしてみよう。	・資料を手がかりにしながらい具体的な構想を練らせる。
ま と め	4 絵本の構想について話し合う。	・それぞれの考えを交換することにより、創作活動への意欲を持たせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(7) 多様な絵本を提示したことで、児童が作りたい絵本のイメージを持たせることができた。

(4) 保育園児との交流を思い出させることで、絵本の創作活動に意欲的に取り組ませることができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○小さな命をいつくしむ気持ちを感じましたか。	
感性を育む	○絵や文で表現することとおして、自分の中にある「いのちへのまなざし」を感じ取ろう。	
想像力の育成	○周りの大人たちの、自分や友だちに対する温かい思いを想像しよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



絵本づくりに取り組む児童



こんな絵本ができたよ。

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

この実践では、「小さな命へのいつくしみ」に焦点をあて、「小さな命」を見つける様々なまなざしに触れることをとおして、生きることの喜びやすばらしさを実感させることをねらいとした。

絵本を用いた1次の活動では、教師がぜひとも児童に読ませたい命に関する絵本を幅広く収集したことにより、児童一人ひとりが生き生きと絵本に親しみ、感想の交換をすることができた。さらに、自分の乳幼児期のことを家族から聞き取る活動にも、意欲的に取り組ませることができた。

「子守歌」の学習では、淡路地域に固有の伝承を見い出すことはできなかったが、各地の子守歌の鑑賞や聞き取り活動とおして、小さな命である赤ちゃんの興奮をはずめて眠らせようとする歌い手の気持ちに思いをめぐらすことができた。親から子へ受け継がれる「いのちへのまなざし」は時や場所を超えて変わらぬものであり、それが「子守歌」という文化とともに継承されていることに気づかせることができた。この学習においては、実際に「子守歌」を歌って子守りをした人に直接お話を聞

くことができれば、さらに学習の効果が高められると考えられる。

保育園児との交流は、児童にとって貴重な直接体験の機会となった。事前交流における経験や保育士からの助言を参考にしながら、計画から実施まで主体的に取り組むことができた。これは保育園の職員から多大な協力を得ることができた成果である。事前の綿密な打ち合わせをとおして活動の意図や留意点について十分に共通理解しておくことの大切さを実感した。

絵本づくりの活動では、児童が個々の発想を生かし意欲を持って取り組むことができた。表現は様々であったが、それぞれの絵本に児童の願いやメッセージが込められており、児童の豊かな感性が映し出された。

「命の大切さ実感尺度」による調査を学習前（7月）・学習後（1月）に実施した。その結果、「連帯感」の項目で大きなプラスの変容が見られたほか、「成就感・達成感」と「自然・生命への畏敬の念」の各項目においてプラスの変容が見られた。これらは、本実践だけでなく「自然学校」をはじめとする諸行事・諸活動の積み重ねをとおして総合的に養われたものであるととらえるべきであるが、とりわけ「連帯感」の向上については、保育園交流体験への主体的な取組の成果であると考えている。

実践全体を今一度振り返ってみると、この学習活動に貫かれていた「命を大切にすること」の基本要素は、「安全」「安心」であったように思う。すなわち、「いのちへのまなざし」に「命を守り、病気やけがをしないで元気に育つように」や「穏やかに楽しく生活できるように」といった願いが込められたものとして捉えていった。この活動をとおして培われた児童の中の「いのちへのまなざし」が、一人ひとりが未来に向けて生きていく力となることを切に願っている。

(2) 今後の課題

本実践の中で、児童は自分自身の幼少時のことや「子守歌」「眠らせ音楽」について繰り返し聞き取り活動を行った。このような活動を一層充実させるためには、事前の話し合いをとおして児童自身の中に聞き取りの視点を明確に持たせるとともに、活動の意図について保護者や地域の人に十分な理解と協力を得るよう努める必要がある。

本実践は、総合的な学習の時間を中心に計21時間にわたって実施したが、持続性・発展性のあるカリキュラムとして位置づけるためには、各教科間の関連づけを工夫していく必要がある。また、事後の振り返りを丁寧に行って、体験に意味づけをしていくことも忘れてはならない。

「命の大切さを実感する」過程は、「命は大切なものである」という認識と「生きるってすばらしい」という感動が結びついていく過程であると考えられる。児童が様々な体験を通じてその結びつきを強くすることができるような学習活動に、今後も取り組んでいきたい。

11 参考・引用文献

- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2007
- ・兵庫県教育委員会『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集』 2007
- ・ケヴィンヘンクス 著『せかいいちのあかちゃん』徳間書店 1996
- ・松永伍一『日本の子守唄』紀伊国屋新書 1994
- ・越智登代子 『あなたの小さかったとき』福音館書店 2002
- ・高橋妙子 『小さな小さなおとうとだったけど』あかね書房 2005
- ・渡辺富美雄・松沢秀介 編『子守歌の基礎的研究』明治書院 1979

第3章 実践事例—中学校編—

事例 1 命の重みを考える
— 沖縄・阪神淡路大震災・生きること —
(太子町立太子西中学校第 1 学年)

中学校事例 1

命の重みを考える
—沖縄・阪神淡路大震災・生きること—

太子町立太子西中学校第1学年

1 テーマ

命の重みを考える
—沖縄・阪神淡路大震災・生きること—

2 実践のねらい

命や人権に関する諸問題について学習する中で、限りある命・かけがえのない命を実感することによって、周りの人とよりよい関係を築くとともに、精一杯生きようとする意欲を持つ。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は姫路市に隣接した太子町の西部に位置し、昭和57年に太子東中学校から分離した創立25周年を迎える学校である。平成13年に現代的でバリアフリーが整った校舎が新築され、現在446名（14学級）の生徒が在籍している。

校訓として、**Fight**（闘志）**Thinking**（英知）**Harmony**（調和）を掲げ、「共に生きる豊かな心と智慧を育む—ほんの少しを合言葉に—」を学校教育目標に定め、日々の実践に取り組んでいる。朝の読書から一日が始まることで集中力も高まっており、また部活動も盛んで多くの部が好成績を収めている。

大半の生徒は落ち着いた学校生活を送っているが、より一層命や人権に関する諸問題について学習を深め、周りの人とよりよい関係を築くために、本実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・兵庫県広域防災センターや震災モニュメントの見学をとおして、生と死について考えることの大切さを実感させる。
- ・自分が生きている生は、かけがえのないただ一つの命であるとともに、他の命とつながりあっていることを学習や体験をとおして感じさせる。

【感性を育む】

- ・命や人権に関する現代の課題を学ぶことから、命の重みを感じさせる。
- ・命が育まれていること、命が支え合っていることなどを実感する中で、精一杯生きることの大切さを感じさせる。

【想像力の育成】

- ・学習を進める中で、相手の立場に立って考えることの大切さを実感させ、周りの人とよりよい人間関係を築いていこうとする意欲を持たせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- 学年の会議や職員会議をとおして
 - ・教職員同士の情報交換を図り、生徒の状況に適した教材や資料の収集に努める。
- かけがえのない命を大切にす研修
 - ・「いじめられている君へ、いじている君へ」（朝日新聞）を読んで話し合う。
- 沖縄への修学旅行の事前の研修
 - ・沖縄の歴史や文化について学習する。
- 阪神淡路大震災からの復興についての研修
 - ・兵庫県広域防災センターの見学等、阪神淡路大震災について理解を深める。
- 命や人権に関する諸問題についての研修
 - ・新聞記事などをとおして、現代社会が抱える命や人権に関する諸問題について学ぶ。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・社会
- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自己肯定感を高める体験をする。
- ・道徳心情アンケートに回答する。
- ・阪神淡路大震災について本で調べたり、体験した人に聞き取り活動を行う。
- ・修学旅行で訪れる沖縄について事前に調べる。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え理解と協力を求める。
- ・学校だよりや学年通信、学級通信などで学習の成果を伝える。
- ・消防署や社会福祉協議会などに協力を依頼する。

5 本校の実践の特色

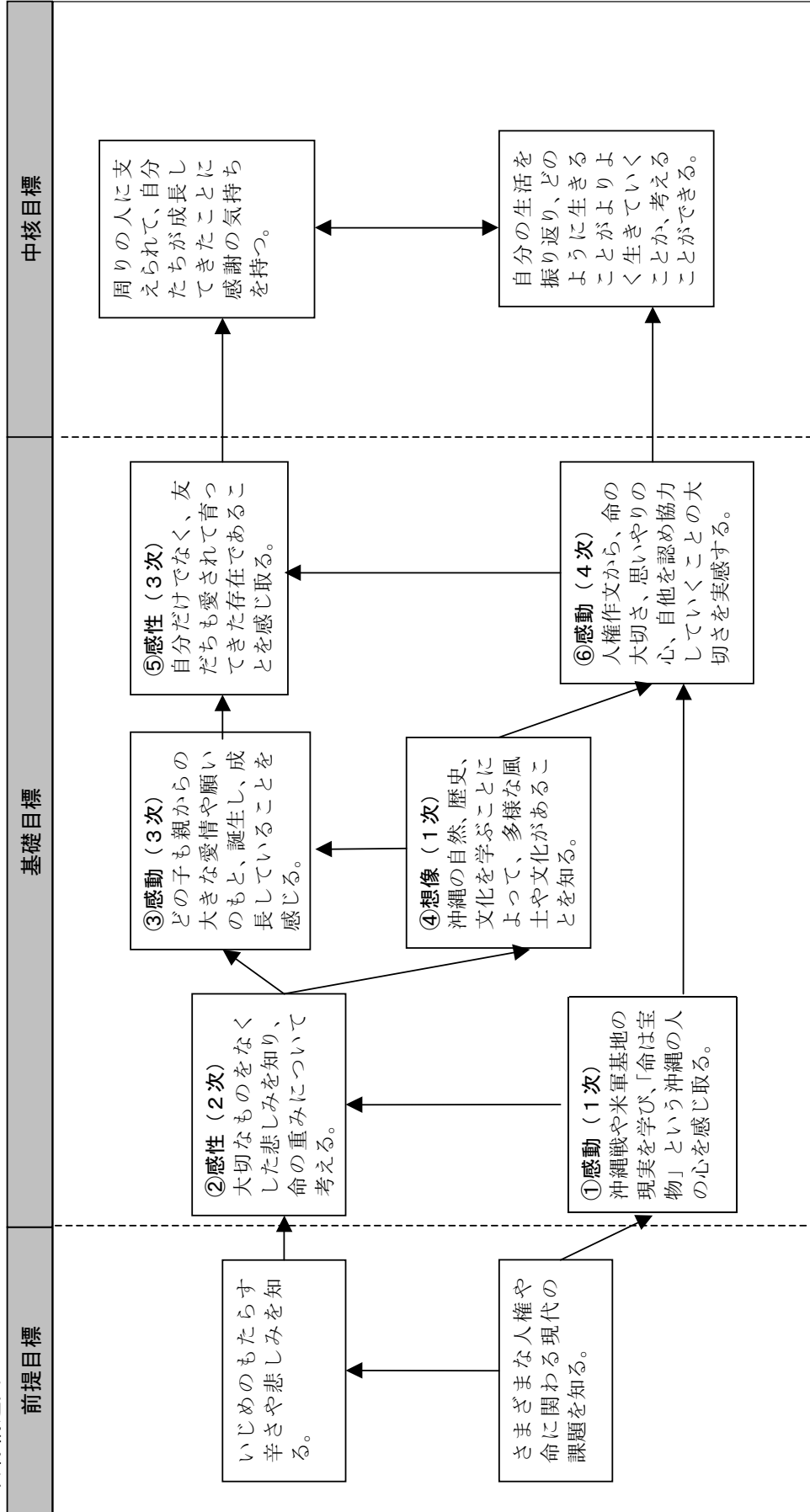
- (1) 平成 18、19 年度文部科学省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」、兵庫県教育委員会指定「道徳教育実践推進アクションプラン」の研究指定を受け、その実践を基盤に取り組みを進めた。
- (2) 沖縄への修学旅行にむけて、1、2 年生が共に事前学習を開始した。
- (3) 平成 16、17 年度日本新聞教育文化財団から「N I E (newspaper in education・新聞による教育を)」の実践指定を受け、この実践を踏まえ、新聞記事等を活用した学習に継続して取り組んでいる。

事例 1 命の重みを考える—沖繩・阪神淡路大震災・生きること— (太子町立太子西中学校第1学年)

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめられている君へ、いじめている君へ」(朝日新聞)を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめのもたらす辛さや悲しみを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを思いやる気持ちやいじめをなくすために行動に移す心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を大切にすることが、相手を大切にすることが、いじめをなくすために大きな力となることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特性を学び尊重することができたか。 ○現在の沖繩をめぐる問題を知り、平和の尊さについて理解させることができたか。
1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩への修学旅行の事前学習に取り組む。 ○沖繩の歴史や基地について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩の歴史や風土について知る。 ○沖繩戦や米軍基地の現実を学び、「命は宝物」という沖繩の人の心を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「さとうきび畑」の歌を聞いて、この歌に込められた平和への願いを感じ取る。 ○さとうきびを食べて、沖繩の風土を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖繩の自然、歴史、文化を学ぶことによって、多様な風土や文化があることを知る。 ○地域の特性を学び尊重することの大切さを感じる。 	
2次 (9時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県広域防災センターの見学、体験学習をする。 ○震災モニュメントを見学する。 ○震災関連の新聞記事を集め、感じたことを発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震体験・煙避難・消火栓や消火器の実習を行い、震災の恐ろしさを体験し、自分たちにもできることを考える。 ○13年前に兵庫県が経験した悲惨なできごとを知り、復興をめざした姿を学ぶ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習を通じて、震災の恐ろしさや命の重みについて考えることができる。 ○震災の体験から、大切なものをなくした悲しみを知り、命の重みについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○震災を体験したことにより、人はどのような思いをしたのかを想像する。 ○他の人のためにすることが結局は自分を大切にすることであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の人のためにすることが結局は自分を大切にすることを行うことを理解させることができたか。
3次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○出産した母親から話を聞く。 ○自分の名前の由来について調べる。 ○『たったひとつのたからもの』について学習する。 ○命に関する絵本の読み聞かせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母親から直接、人の誕生や出産の話聞き、大変さを実感する。 ○どの子も親からの大きな愛情や願いのもと、誕生し、成長していることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○直接話を聞くことで、親の喜びや願いを知る。 ○自分だけでなく、友だちも愛されて育ってきた存在であることを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が生まれてきた時も、このように大切にされて育ってきたことを理解する。 ○周りの人に支えられて自分たちが成長してきたことに感謝することができる。 	
4次 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○命や人権に関わる諸問題について考える。 ○人権作文の(優秀作)を読み、自分の意見をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の人権作文から、命の大切さ、思いやりの心、自己を認め協力して生きていくことの大切さを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な困難を乗り越え、力強く生きていく中学生の姿を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活を振り返り、どのように生きることがよりよく生きていくことか、想像する。 ○人権作文に表されているような心情について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を大切にすることが相手を大切にすることということが実感させることができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードに記入する。 ○命の学習についての感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の学習の中で一番感動したことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命について感じたことを作文にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの人生をどのように送っていきたいか発表する。 	

7 目標構造図



(凡例) ①感性 (1次) : 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8. 事前の教員研修と指導の概要

(1) 教員の事前研修 (実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記)

研修内容	
a	○かけがえのない命を大切にするための研修 ・「いじめられている君へ、いじている君へ」(朝日新聞)を読んで話し合う。
b	○沖縄修学旅行に向けての研修 ・『歩く・見る・考える沖縄』(沖縄時事出版)を使って、沖縄の歴史や文化について学習する。
c	○阪神淡路大震災からの復興についての研修 ・兵庫県広域防災センターの下見を含めて、阪神淡路大震災への理解を深める。
d	○命や人権に関する諸問題についての研修 ・新聞記事等をとおして、現代社会が抱える命や人権に関する諸問題を学ぶ。

(2) 指導の概要 (全23時間)

内 容	
事前	○朝の読書や学活の時間を活用して ・「いじめられている君へ、いじている君へ」(朝日新聞)を学年全員が読む。 教員研修 a
1次 (2時間)	○平和について考える。 1 3年生で実施する「沖縄修学旅行」の事前学習に取り組む。 ・「沖縄を知ろう」と題して、沖縄の歴史や基地等について学習する。 ・さとうきびを食べて、沖縄の文化について知るきっかけとする。 ・「さとうきび畑」などの沖縄の音楽を鑑賞して、歌に込められた平和への願いを感じ取る。 2 沖縄戦や原爆などの戦争に関する新聞記事を集めて、多くのかけがえのない命が奪われた戦争の悲惨さを理解する。 教員研修 b
2次 (9時間)	○阪神淡路大震災について理解を深める。 1 阪神淡路大震災による被害について知る。 2 兵庫県広域防災センターの見学をし、体験学習をする。 3 神戸での校外学習で、震災モニュメント等を見学する。 4 見学や体験学習で学んだことをまとめて発表する。 5 1月17日の震災関連の新聞記事を集めて、地域の特性を学び尊重することの大切さを感じる。 6 自分にとって大切な命が失われても、精一杯生きようとする姿にふれる。 教員研修 c
3次 (8時間)	○ <u>愛され育てられてきた大切な命について考える。</u> 1 出産した母親から話を聞くことをとおして、命が誕生することの喜びや大変さを感じ取る。 2 自分の名前の由来や誕生エピソードを発表し合う。 3 『たったひとつのたからもの』をとおして、生きることの幸せについて考える。 4 『葉っぱのフレディ』を読み、命はつながり合っていることを学ぶ。 5 『いのちのおはなし』を読み、自分にとって命を大切にするとはどういうことを考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">指導実践(1)~(4) p43~p52</div>

<p>4 次 (4 時 間)</p>	<p>○命や人権にかかわる諸問題について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 いじめの問題をとおり、自分も相手も大切な存在であることを知る。 2 「人権作文・優秀作」を読み、すばらしいと感じた点や自分になかった視点などについて考える。 3 命や人権に関する新聞記事を読み、命の大切さ、思いやりの心、自他を認め協力して生きていくことの大切さを実感する。 4 命や人権に関する新聞記事について、自分や家族の意見を書きこむ。 	<p>教員研修 d</p>
<p>事後</p>	<p>○振り返りカードに記入する。</p>	

9 指導実践

3次	愛され育てられてきた大切な命について考える。
----	------------------------

(1) 第1時

ア 本時のねらい

出産した母親の話聞くことをとおして、妊娠の喜びや大変さ、誕生したわが子への愛情等を感じとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

生後間もない赤ちゃんとも母親に出会うことで、大人に見守られながら生きる小さな命の存在を感じとらせる。

(イ) 感性を育む

母親から直接話を聞くことで、妊娠の喜びやわが子への愛情などを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

母親（自分の母親も含め）が、赤ちゃんを育てるために苦労を積み重ねながら深い愛情を持って接していることを理解させ、一人ひとりの命の重みについて考えさせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力してくれる母親との打ち合わせ

- ・妊娠の喜びや大変さ、わが子にける愛情の深さなどについて話してもらうように依頼する。

(イ) 出産や育児についての教員研修

- ・母親との打ち合わせをもとに、中学生に何を伝えたらよいかを学年の教員間で話し合い、それをもとに指導案を作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 出産したばかりの母親に質問したいことを確認する。	・質問の要点を簡潔にまとめて、学習の確実な理解につなげる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">生後2か月の赤ちゃんともにお母さんの話を聞こう。</div> 2 母親の話を聞く。 3 母親の話を聞き、質問をする。 ・「子どもができています」と言われたときの気持ちを教えて下さい。 ・赤ちゃんがお腹にいたときは、体が重く感じましたか。 ・出産の前は緊張しましたか。	・生後2か月の赤ちゃんにも会場に来てもらい、新たな生命の誕生についてより深く考えさせる。 ・妊娠の喜びや出産の大変さ、わが子への深い愛情について話してもらう。 ・赤ちゃんへの配慮を怠ることなく、集中して話を聞かせる。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・陣痛はどれくらい痛いですか。また、どんな気持ちでしたか。 ・赤ちゃんが生まれた時の気持ちはどんなでしたか。またどんな感動がありましたか。 ・お母さんになったときの心境を教えてください。 ・生まれる前と後では、思ったことに変化がありましたか。 	
ま と め	<p>4 授業の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは自分の睡眠時間や自由時間をけずって育ててくれたんだということがよくわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちも家族の深い愛情に育まれてきたことを実感させる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 可能であれば、学年全体ではなく、クラス単位で話を聞くほうが望ましい。

(イ) 実際に生後2か月の赤ちゃんとともに母親から直接話を聞くことをとおして、新たな発見や母親の愛情を感じることができて、集中した学習ができた。

（太子西中だよりより）

9月20日（木）第6校時、1年生は体育館で道徳学習会を実施しました。1年生の道徳学習のテーマは、「命を大切にする」です。お母さんと赤ちゃん（2ヶ月）をお招きして、「命を大切にする」ことのお話を聞きました。

お腹の中に、新しい命が誕生した瞬間から出産にいたるまでのことや、親になった気持ちなどを話してくださいました。「あなたがた一人ひとは、親や周囲の人たちに愛されて大きくなっています。」と話されていたことが、印象に残りました。

講演の間、赤ちゃんは、静かにみんなの様子を見ていました。



キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○生後間もない赤ちゃんと母親に出会って大人に見守られながら生きる小さな命を感じる事ができましたか。	
感性を育む	○妊娠の喜びやわが子への愛情などを感じ取る事ができましたか。	
想像力の育成	○母親が、子どもを育てるために苦労を積み重ねながら、深い愛情を持って接していることを実感できましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

【生徒の作文】

- 赤ちゃんを見たとき、2か月ぐらいでこんなに大きいんだと思いました。それにお母さんは赤ちゃんを産んだ後なのにすごく細いなと思いました。お母さんの話を聞いていて思ったのは、「命は大切だ」ということです。言われていたように最近のニュースでは、赤ちゃんを車の中に置き去りにしたり、暴行したりなど、ひどいなと思うことが山ほどあります。お母さんが言われていたように、命は大事だと思いました。

赤ちゃんが2～3時間おきに起きるなんて知りませんでした。私たちのお母さんもそんなに苦労して育ててくれていたのを、今日初めて知りました。自分の睡眠時間や自由時間をけずってでも育ててくれたことに感謝したいと思います。今日は命の大切さや赤ちゃんを産む時の大変さを分かりやすく教えて下さりありがとうございました。

(女子の感想より)

- 今日の話聞いて、びっくりしたことが3つありました。
1つは、陣痛が始まって生まれるまで13時間もかかったということでした。僕の予想では5時間ぐらいだと思っていたので子どもを産むというのは、すごく大変だなあと実感しました。僕の母からも陣痛促進剤を打ってもらってから、ものすごく痛くなったと聞きました。

2つ目は、赤ちゃんが1～2時間おきに泣くことでした。親になるということは、うれしいことはたくさんあるけど、しんどいこともあって大変だと思います。でも、しんどさよりもうれいことの方が大きいから育てていけるのだと思います。

3つ目は、体重の平均が3kgということでした。僕は2.5kgぐらいだったので、平均

事例1 命の重みを考える—沖繩・阪神淡路大震災・生きること— (太子町立太子西中学校第1学年)

2kgだと思っていました。僕は今、今日来て下さった赤ちゃんとお母さんに感謝の心でいっぱいです。ありがとうございました。赤ちゃんには、これから元気に大きくなってほしいと思っています。
(男子の感想より)

(2) 第2、3時

ア 本時のねらい

自分や友人がかけがえのない存在であることに気づかせ、自他の命を大切にしていこうとする心情を培う。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分が誕生したときの様子や、名前の由来を知ること、自分が家族に慈しまれ育てられた存在であることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

親に自分の名前の由来や誕生エピソードをインタビューすることによって、親にとって自分自身がかけがえのない存在であること、また、その時々を支えてくれた身近な人々の存在を再認識させる。

(ウ) 想像力の育成

友人の名前の由来や誕生エピソードを聞くことで、友人もまた自分と同じように大切に育てられた命であることに気づかせる。

ウ 準備物 赤ちゃん人形、命名書、インタビューカード

エ 先生の準備 (事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) インタビューカードの作成

自分の名前の由来や、誕生エピソードについて聞き取りをするためのインタビューカードを作成する。

(イ) 生徒が提出したインタビューカードを確認し、個々の名前の由来や誕生エピソードを把握する。また、個々の生徒について配慮すべきことはないか確認しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 赤ちゃん人形を抱っこする。	・赤ちゃんの正しい抱き方、あやし方を実体験させ、デリケートで小さな生命を実感させる。
展 開	2 命名書に自分の名前を書く。	・命名書の習わしを知らせ、親の願いがこめられた自分の名前を丁寧に書かせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">名前にこめられた願いを感じとろう。</div> 3 自分の名前の由来や誕生エピソードを発表する。 ・みんないろいろなことを経験してここまで大きくなったんだな。 ・陣痛が始まってから生まれるまで、こんなに時間がかかるとは知らなかった。	・親から聞き取りをした、インタビューカードの内容を発表させることで、改めて親の我が子に対する深い思いに気づかせる。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれたときは小さかったのに、今は大きくなっているんだな。 ・一人ひとりの名前には、家族の願いがこめられているんだな。 ・発表するのは少し照れくさいけれど、友だちの話を聞けてとてもよかった。 <p>4 『五体不満足』の著者である乙武洋匡さんの誕生エピソードから、命の誕生によせる親の深い思いを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子との初対面でお母さんが、喜びの感情をいだいたのはすごいと思った。 ・親の我が子への愛情の深さには驚かされる。 ・乙武さんが前向きにがんばれるのは、きっとお母さんの喜びから力をもらっているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表し自己開示することで、クラス内のお互いの距離を縮めさせる。 ・自分の話と人の話の共通点を考えさせる。 ・友人の発表を聞くことで、人もまた自分と同じく大切に育てられた命であることに気づかせる。 ・複雑な家庭環境の生徒の心情を傷つけないよう配慮する。 ・子どもと最初に出会う時の、親の我が子に対する深い愛を感じとらせる。
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>5 本時の学習の感想を書く。</p>	

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 自我に目覚め、親に対して反抗的な態度をとってしまう時期でもある中学生にとって、自分がいかに周囲から愛されて育てられたか、ということに気づく体験となった。
- (イ) 友だちの話を聞くことで、周りの人々も自分と同じように大切な存在であることを理解させることができた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○自分が誕生したときの様子や、名前の由来を知り、親の大変さを実感することができましたか。	
感性を育む	○親から聞き取りをしたインタビューカードの内容から、親の我が子に対する深い思いを感じることができましたか。	
想像力の育成	○友だちの発表を聞き、友だちも自分と同じように大切に育てられた命であることを理解をすることができましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 第4時

ア 本時のねらい

「生きる」ということについて考えることをとおして、これからの自分の人生において大切なことは何かを学びとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・短い生涯を生きた息子と共に、成長しながら過ごした両親の生き方とおして、「命の大切さ」「家族愛」「生きることの幸せ」等を感じとらせる。

(イ) 感性を育む

- ・「人の幸せは、命の長さではないのです」というお母さんを支えた言葉の意味を考えさせ人それぞれの「幸せ」を感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

- ・我が子に対する思いや人生観にふれさせ、命のかけがえのなさに共感する心を育てる。
- ・これからの人生を意欲的に生きていく為にはどうすればよいかを考えさせる。

ウ 準備物 写真、ワークシート、DVD、CD ラジカセ

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 資料の検討・作成

『たったひとつのたからもの』（文藝春秋）を読み、生徒に与える資料を精選する。

4 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 何歳まで生きられたら幸せかを考える。	・何歳まで生きられたら幸せか、理由も含めて多くの生徒に発言させ、学習への意欲を喚起する。
展 開	2 秋雪ちゃんの成長を振り返る。 ・秋雪ちゃんの病気 ダウン症 心内膜床欠損症 肺高血圧症 ・病気を知ったお母さんの気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・命に関わる病気であり、「長く生きられない」という事実を聞かせる。 ・資料や写真から母の揺れ動く気持ちを読みとらせる。
	3 両親の我が子に対する思いを知る。 お母さんが支えられてきた言葉について。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 秋雪ちゃんのお母さんを支えてきた「人の幸せは、命の長さではないのです」という言葉について考えよう。 </div>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が最初に生きたいと思った年齢と比較して、考えさせる。 ・CM ソングを流すことによって落ち着いた雰囲気をつくる。 ・息子から与えられた両親の幸せに気づかせる。 ・ゆっくりと教師が資料のエピローグを朗読する。
ま と め	4 本時の学習の感想を書く。 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「短い生涯であっても幸せな人生があるんだなということがわかる」 ・「秋雪ちゃんもお母さん・お父さんも本当にせいっぱいがんばったと思う」 ・「人の幸せは、命の長さではないのです。というお母さんの言葉の意味を考えていきたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に同情で終わらせるのではなく、その奥にある自分の考えや経験なども合わせて書いていくようにさせる。

事例 1 命の重みを考える—沖繩・阪神淡路大震災・生きること— (太子町立太子西中学校第1学年)

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 教師自身が感動した題材を生徒に与えていくことは、とても大切で意義のあることだと思う。しかし、子どもたちにそれを教材として与えていくためには、子どもの視点に立った教材研究が必要であるということを切に感じた。
- (イ) 当然のことながら、多くの生徒は長生きすることが幸せであるという考えを持っている。しかし、短い生涯であっても、その中に幸せを見いだすことができるということを学んだと思う。自分の生き方と対比させながら、さまざまな人生・生き方を学ぶことによって、「命の大切さ」を実感できることに少しでもつながっていくと感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○「家族愛」「生きることの幸せ」などについて考えよう。	
感性を育む	○「人の幸せは、命の長さではないのです」というお母さんを支えた言葉の意味を考えよう。	
想像力の育成	○人生を意欲的に生きるとはどういうことかを考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 第5時

ア 本時のねらい

かけがえのない命をいとおしみ、命はつながり合い共に支え合っていることを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

季節の移り変わりを感じ、その折々のすばらしさを思い浮かべ、一つの命の終わりが新しい命へとつながっていることを感じとらせる。

(イ) 感性を育む

この世に生を受けた葉っぱのフレディが、生きることの喜びを感じていることに気づかせる。

(ウ) 想像力の育成

命あるものが感じる死の恐怖や命の神秘性を考えさせる。

ウ 準備物 絵本『葉っぱのフレディ』（童話屋）、ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- ・メッセージプリントの作成

『葉っぱのフレディ』を読み、生徒に配布するワークシートを作成する。資料をもとに、生徒の感想を予想する。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 葉っぱの色の中で、一番好きな色について考える。	・季節の移り変わりを感じさせ、その折々の季節のすばらしさを想像させる。
	2 資料『葉っぱのフレディ』の読み聞かせをする。	・長い資料であるが、フレディの考えや感じていることをじっくり感じとらせる。
展 開	3 ワークシートの質問に答えることをとおして、生きるとはどういうことか、死とは何かについて考える。	・フレディが生きることの喜びを心身ともにしっかりと感じていることを理解させる。
	フレディは、葉っぱとしてこの世に生まれてきたことをどのように思っているのだろう。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友だちがいて、葉っぱに生まれてよかった。 ・協力して生きるとはすばらしい。 ・みんなが喜んでくれている。 	・死への恐怖感を感じながらも精一杯生きる姿を感じさせる。
	4 フレディが、次々と友だちがいなくなることをどのように感じているのか考える。	・次々といなくなるのは、悲しくて寂しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・やがて来る自分の死に対して、恐怖感を持っているのだろう。 	・かけがえのない命を大切に、楽しく有意義な人生を送ることのすばらしさを理解させる。
フレディは、自分の生きてきた道「いのちの旅」をどんなふうに振り返っているのだろう。		
5 命のつながりについて、どのように考えるか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・短かったけれど、満足のいく人生だった。 ・葉っぱとしての仕事を一生懸命行い、本当に生まれてきてよかった。 ・自分の命を大切に、楽しく有意義な人生を送ってよかった。 	・命がつながり合い、共に支え合っていることを理解させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・死を恐れるばかりでなく、生まれてきて精一杯生きていくことが大切である。 ・みんなで支え合い、生かされていると思う。 ・死んで命が終わるのではなく、新しい生のために生き続ける。 	

まとめ	<p>6 ワークシートに、葉っぱのフレディの絵を自由に描き、フレディへのメッセージを書き添える。</p>	<p>・生きることへの新たな思いを言葉で表現させることで、生と死についての理解を深めさせる。</p>
-----	--	--

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 絵本を授業に取り入れることは、生徒に対してより深い感動を与えていくことにつながり、とても有意義な学習であることと気づいた。そのためには、普段から教師自身が感性を磨いておくことが必要であるということ強く感じた。
- (イ) 『葉っぱのフレディ』の絵やフレディへの一言をワークシートに自由に描き表現する中で、生徒自身の発想の豊かさに気づくことができた。学習において、様々な考えや感想を表現できるような機会を増やしていくことが大切だと感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○『葉っぱのフレディ』の一生を通じて、感じたことをまとめよう。	
感性を育む	○この世に生を受けた葉っぱのフレディが感じた、生きることの喜びとはどんなものだろうか考えよう。	
想像力の育成	○「さよなら、フレディ」とダニエルが満足そうな微笑みを浮かべた理由を考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

この実践は、「命の大切さ」を実感するために私たちにはどんなことができるのか、ということ考えた1年間の取組の一部である。当初は戸惑いもあったが、実践を進めていく中で、私たちの様々な取組が「命の大切さ」を考えることにつながっていくということを、まず私たち教師が感じた。教師自身が感動をもった題材を生徒に与えていくことの必要性を実感したが、子どもたちにそれを教材として与えていくためには、子どもの視点に立った教材研究

が必要である。また、各クラスの取組が学年全体の取組になるような、広がりのある実践が重要である。限られた時間の中で、文字や言葉だけの理解にとどまらないように、できるだけ「体験」を重視し、実体験にせまるような経験ができるよう努力した。実践の中に新聞や絵本などを取り入れることで、子どもたちが命のかけがえのなさを実感し、より良く生きることを目指せるようになった。

(2) 今後の課題

実践を進めるためには、学校全体の理解や支援が必要であると感じた。本校では、多くの理解を得られたことが実践の大きな力となった。

また、子どもの現実をよく見据えて、「今、何が子どもたちに足りないのか。どんなことが求められているのか」ということを的確に把握して取り組むことが大切である。限られた時間の中で学習を深めていくために、各教科や道徳、総合的な学習の時間等をどのように関連づけていくか、ということも課題である。

11 参考・引用文献

- ・朝日新聞 『いじめられている君へ、いじている君へ』 2007
- ・加藤浩美 『たったひとつのたからもの』 文藝春秋 2003
- ・日野原重明 『いのちのおはなし』 講談社 2007
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
『「命の大切さ」を実感させる教育への提言』 2006
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
『「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集』 2007
- ・妹尾 彰 『新聞で総合学習 NIEワークシート・100例
—新聞を楽しく読んで考えよう—』 晩成書房 2002
- ・草場一壽 『いのちのまつり つながってる!』 サンマーク出版 2007
- ・桃崎剛寿 『中学校編 とっておきの道徳』 I, II, III, IV
日本標準 2003, 2004, 2005, 2006
- ・安斎浩美 『ビジュアルブック 語り伝える沖縄 第1巻』 新日本出版社 2006
- ・沖縄県高教組南部支部平和教育研究委員会 『歩く・見る・考える沖縄』 沖縄時事出版 1986

事例2 命のつながりを実感する
—「生」と「死」を見つめることをとおして—
(豊岡市立城崎中学校第3学年)

中学校事例 2

命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして－

豊岡市立城崎中学校第3学年

1 テーマ

命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして－

2 実践のねらい

「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝するとともに、自分の考えや気持ちを適切に伝える力を身につける。また、豊かな人間関係を築く力や思いやりをもって人と関わり合う力を身につける。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、各学年1クラス、全校生徒112名の小規模校で、但馬北部の温泉地に位置する。学校のある豊岡市は平成16(2004)年10月に発生した台風23号により、市内を流れる円山川の堤防が決壊、市街地の大部分が水没し、死者も出る等の甚大な被害を受けた。生徒の中には実際に被災した者や被災した人が身近にいる者がおり、命の大切さを実感した生徒もいるが、多くの生徒にとって、自身が支えられて生きていることを実感する機会は少ない。また、小学校から固定した人間関係にあるため、お互いよく知り合っていないながら本音でつきあえなかったり、あるいは一人ひとりの違いを受け入れられずに、ぶつかり合ってしまったことがある。

そこで、周りの人との関わり合いや生と死について考えることをとおして、命の大切さを実感させるべく本プログラムを実践した。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・自分の素直な気持ちを適切に伝え、共感できる喜びを感じさせる。
- ・自分の周りには、自分を支えてくれる人がたくさんいることに気づかせ、感謝の気持ちを持たせる。

【感性を育む】

- ・大切なものをなくした人の悲しみや心の痛みに思いをめぐらせるようにする。
- ・自他を大切にしたい表現方法を学ばせ、自他を受け入れることの大切さを実感させる。

【想像力の育成】

- ・自分を支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、前向きに生きるとはどういうことかを考えさせる。
- ・生きているのではなく、生かされているという視点に立って命をとらえさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・構成的グループ・エンカウンター等の事前研修を行い、教員自身の自己理解を深めたり共感性を高めたりしておく。
- ・身近に被災した人がいないか等、生徒の家庭環境等の状況把握をする。
- ・日頃から、命に関係する情報の収集をしておく。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・技術・家庭
- ・英語
- ・道徳

- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・自身の成長過程での体験を振り返ったり、家族に聞き取ったりしたことをまとめておく。
- ・英語科の教材「葉っぱのフレディ」の日本語訳を考える。

(4) 家庭・地域との連携

- ・家庭や地域の人々に対し、命の大切さを実感させる教育を進めていくねらいや趣旨を伝え、理解と協力を求める。
- ・生徒が参加できるボランティア活動の協力を依頼する。

5 本校の実践の特色

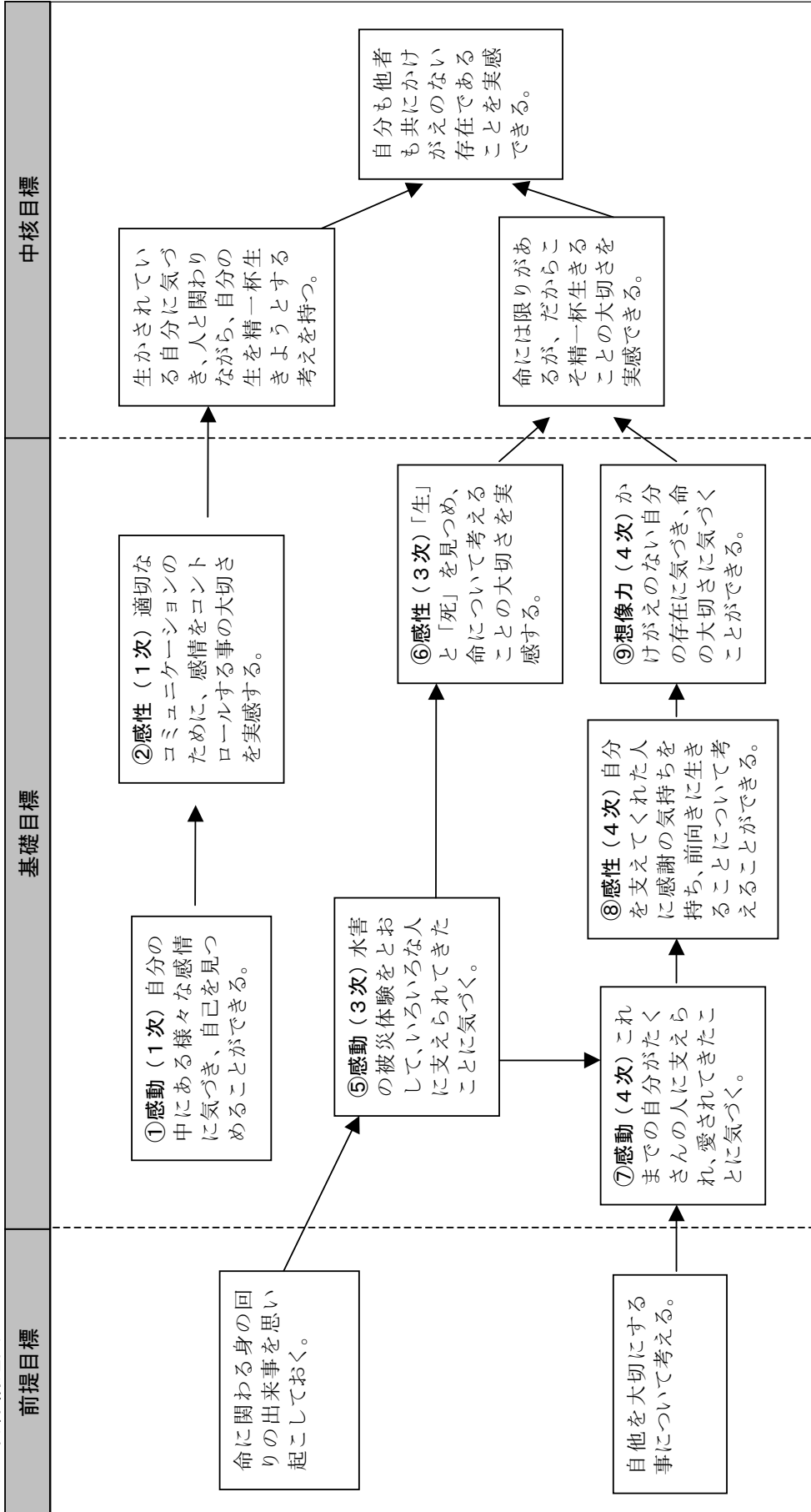
- (1) 体験活動を充実させ、生徒の自尊感情を高める工夫をする。
- (2) 小規模校の特色を生かして全教職員で生徒に関わり、細やかな指導をする。
- (3) 家庭・地域との連携を深め、「ふれあい」を大切にしたい取組とする。

事例2 命のつながりを実感する—「生」と「死」を見つめることをとおして（豊岡市立城崎中学校第3学年）

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の生活を振り返るアンケートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己発見の体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命に関わる身の回りの出来事を思い起こしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他を大切にすることを考える。 	
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○構成的グループ・エンカウンターをとおして自己理解を深め共感性を高める体験をする。 ○いろいろな感情があることを知り、感情の表現方法について考える。 ○アサーティブな表現方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な考え方や、価値観があることに気づく。 ○言葉の大切さに気づく。 ○自分の中にある様々な感情に気づき、自己を見つめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが大切であることを感じる。 ○適切なコミュニケーションのために、感情をコントロールすることの大切さを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の気持ちをお互い認めあうことができる。 ○相手の立場を考えた感情表現をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な感情表現があることに気づき、適切な感情表現について考えさせることができたか。 ○言葉の大切さを理解させることができたか。
2次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ストレスマネジメントを体験し、自己の感情をコントロールする方法を知る。 ○ストレス日誌をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活での様々な体験により引き起こされる感情を、自分でコントロールできていることを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を冷静に見つめ、自分を肯定的に受け入れることの大切さに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分も他者も共にかけがえのない存在であることを実感できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感情に流されず、自分の気持ちをコントロールできていることを実感させることができたか。
3次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」について考える。 ・命とは何かを考える。 ・死に直面した経験を持つ人や大切な人をなくした人からの話をまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水害の被災体験をとおして、いろいろな人に支えられてきたことに気づく。 ○「死」の悲しみにふれる体験をとおして、命のかけがえのなさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」を見つめ、命について考えることの大切さを実感する。 ○命は自分だけのものではなく、つながっていることを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人のために自分に何ができるとか考えることができる。 ○命には限りがあるが、だからこそ精一杯生きることの大切さを実感できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生」と「死」を見つめ、命について考えることの大切さを実感させることができたか。 ○命は一人だけのものではなく、つながり受け継がれているものであることを実感させることができたか。
4次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が支えられて生きていることを知り、これからの生き方を考える。 ・成長過程でのエピソードを家族から聞き取る。 ・命の誕生について話を聞く。 ・家族への手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの自分がたくさんの人に支えられ、愛されてきたことに気づく。 ○命の誕生の素晴らしさを感じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人に大切にされる喜びを感じ、自分を受け入れる。 ○自分を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち、前向きに生きる気持ちを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生かされている自分に気づき、人と関わりながら、自分の生き方を精一杯生きようとする考えを持つ。 ○かけがえのない自分の存在に気づき、命の大切さに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の命のかけがえのなさを実感させることができたか。 ○自分を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち、前向きに生きる気持ちを持つことができたか。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードに記入する。 				

7 目標構造図



（凡例）①感性（1次）：「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○生徒向けの生活実態アンケートの実施 ・調査項目の選定 ・調査結果の集計 ・調査結果を分析し、各学年の特徴や傾向について把握する。
b	○構成的グループ・エンカウンターについての研修 ・構成的グループ・エンカウターの理論や技法を学ぶ。 ・自己理解を深め共感性を高める体験をする。
c	○コミュニケーション能力を高めるための研修<提言：教員研修テーマ③<I>> ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力、他者の気持ちを受け止める力を身につける。
d	○ストレスマネジメントの体験 ・ストレスの概念を学び、様々な対処法を知る。
e	○「生」と「死」についての研修 ・台風23号の被害について、ビデオや資料をとおして被災当時の様子を知る。 ・鎌田実著『がんばらない』、詩「千の風になって」、絵本『葉っぱのフレディ』を読み、意見を出し合う。
f	○保護者への協力依頼について話し合う。 ・子どもの聞き取りの内容について ・子どもの家庭環境について

(2) 指導の概要（全12時間）

内容		教員研修
事前	○自分自身の生活を振り返るアンケート調査に回答する。	a
		b
1次 (3時間)	○構成的グループ・エンカウンターをとおして、自己理解を深め共感しあう心を養う。 (1時間) 1 「誕生日チェーン」 2 「質問ジャンケン」 3 「文章完成法」 ・「こんな時わたしは……」等 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">指導実践(1) p60～p62</div>	
	○いろいろな感情があることを知り、感情の表現方法について考える。(1時間) 1 嬉しい時、腹が立った時、悲しい時に自分がどのような言動をとっているか振り返る。 2 「ふわふわ言葉とチクチク言葉」 ・言われると悲しくなったりイライラする「チクチク言葉」と反対に嬉しくなったり元気が出る「ふわふわ言葉」をそれぞれ書き出し、声に出して言ってみる。 ・どんな気持ちがしたか発表する。	
	○アサーティブな（自分も他者も大切にしたい）表現方法を理解する。(1時間) ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝えるための表現を知る。	c

2次 (2時間)	<p>○ストレスマネジメント体験をし、自己の感情をコントロールする方法を知り、自他を受け入れることの大切さを実感する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分のストレス反応及びストレス対処法を知る。 2 ロールプレイング「うれしい話の聴き方」を体験する。 3 よりよいストレス対処法を理解する。 <p>・構成的グループ・エンカウンター「みんなでリフレーミング」</p>	教員研修 d
3次 (4時間)	<p>○「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝し、思いやりをもって人と関わっていくことの大切さを学ぶ。</p> <p style="text-align: right;">指導実践(2)(3) p63～p68</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 台風23号の被害状況の資料等から、被害の大きさや被災者の心情を受け止め、共に支え合って生きることの大切さを考える。(1時間) 2 死に直面した経験や大切な人を亡くした人からの話をまとめ、発表する。(1時間) 3 詩「千の風になって」をとおして、大切な人を亡くした悲しみを乗り越えることや人と人との関わりの大切さを学ぶ。(1時間) 4 英語の読み物教材「葉っぱのフレディ」から、限りある命を精一杯生きることの素晴らしさを感じ取る。(1時間) 5 命とは何かを考える。(1時間) <p>・「命があと一日しかないとしたら・・・？」</p>	教員研修 e
4次 (3時間)	<p>○自分が支えられて生きていることを知り、これからの生き方を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族から自分の成長過程での様々なエピソードを聞き取り、まとめることをとおして、自己肯定感や家族への感謝の気持ちを持つ。(1時間) 2 産婦人科医をゲストティーチャーとして招き、「命の誕生」についての話を聞く。(1時間) 3 家族への手紙を書く。 <p>・これまでの学習をとおして感じたこと、感謝の気持ちや自分の将来への思いを手紙に書き表す。(1時間)</p>	教員研修 f
事後	<p>○振り返りカードに記入する。</p>	

9 指導実践

1次	構成的グループ・エンカウンターをとおして、自己理解を深め共感しあう心を養う。
----	--

(1) 第1時

ア 本時のねらい

構成的グループ・エンカウンター体験により、自己理解を深めるとともに共感的に認め合うことをとおして、他者とのつながりを実感する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

日頃の自分自身の心のありように気づかせる。

(イ) 感性を育む

構成的グループ・エンカウンターの体験をとおして、ふれあうことの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

自分の気持ちを適切に伝えることにより、他者と共感できる喜びを感じさせる。

ウ 準備物 「こんな時わたしは・・・」ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 構成的グループ・エンカウンター体験をし、教員自身が自己理解を深め共感性を高めておく。

(イ) 子ども一人ひとりを把握し、学級内の交友関係を掌握しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自己理解を深めよう！</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加体験型の授業であることを伝える。
展 開	<p>2 構成的グループ・エンカウンターのエクササイズを行う。</p> <p>(1) 誕生日チェーン 全員で大きな輪になって並び、1月1日から12月31日まで誕生日順に無言のまま並び直す。</p> <p>(2) 質問ジャンケン 二人一組でジャンケンをして、勝った人は相手に質問し、負けた人は答える。数人の相手とジャンケンをした後、知ったことを全体の場で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり話したことがない人と話せた。 ・友達の知らないことがあったな。 ・自分のこと話せてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加しにくい生徒には強制せず、活動を見守る役割を与える。 ・無言でやりとりをさせ、場の雰囲気をやかにさせる。 ・答えたくない質問には、「パス！」と答えてもよいことを伝える。 ・少なくとも3～4人とジャンケンするよう教示する。 ・発表者に批判や否定をせず、受容的な態度で聞き合うことを伝える。 ・質問する時、どんなことを考えていたり感じていたりしたかを振り返らせる。

展 開	友人の意外な一面を知ろう！	
	<p>(3) 文章完成法</p> <p>ア 「こんな時わたしは・・・」等、未完成の文の続きを各自で考えて記入し、4～5人のグループで紹介し合う。</p> <p>イ グループで気づいたことや感想を話し合った後、全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まねしたいと思うことがあった。 ・共感できると感じるものがあつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と話し合わないで自分の考えを記入させる。 ・書けない生徒には個別に支援する。
ま と め	<p>3 授業の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさを改めて感じた。 ・意外と楽しくできた。 ・こういう機会があつて初めてわかることがあるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、感じたこと、気づいたことを自由に出し合い、自己理解、他者理解を促す。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 構成的グループ・エンカウンターを取り入れるだけで、予想以上に素直に自分を出せる生徒が多く、友人の新たな面を発見しつながりを実感できたように思う。
- (イ) 自己理解が深まるとともに、友人のよさと同時に集団である学級のよさに気づく体験となった。今後の実践の中に生かしていきたい。

事例2 命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして（豊岡市立城崎中学校第3学年）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○自分への理解は深まりましたか。	
感性を育む	○友人とのふれあいをとおして感じたことを書こう。	
想像力の育成	○友人に気持ちを適切に伝えることにより、どのようなことに気づきましたか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

3次	「生」と「死」について考え、支えられて生きていることに感謝し、思いやりをもって人と関わっていくことの大切さを学ぶ。
----	---

(2) 第1時

ア 本時のねらい

台風23号に関する映像等の資料から、被害の大きさや被災者の心情を受け止め、ボランティア活動をとおして共に支え合って生きることの大切さを考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

いろいろな人に支えられて人は生きているのだということに気づかせる。

(イ) 感性を育む

- ・被災者の心の痛みを感じとらせる。
- ・苦難に遭っても乗り越えて生きていくことの大切さについて考えさせる。

(ウ) 想像力の育成

人のために自分に何ができるか考えさせる。

ウ 準備物 台風23号に関する映像資料、「台風23号に係る防災資料」（豊岡市教育委員会）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 台風23号に関する資料収集と話し合い

- ・教員自身の体験も含め、台風23号に関する資料を集め、それをもとに話し合う。

(イ) ボランティア活動についての理解

- ・実際にボランティアを体験した人に話を聞いたり、防災資料から当時のボランティア活動についての理解を深めたりして、それをもとに指導案を作成する。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 2004年に大きな被害をもたらした台風23号について知っていることを話し合う。</p> <p>2 1分間黙祷する。</p>	<p>・実際に被害にあった生徒には、事前に話を聞いておく等の配慮をする。</p>
	<p>3 被害状況についての資料、写真、ビデオにより当時の状況・様子を把握する。</p> <p>4 資料を読み、被災者の心情について考え、意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な家がなくなって悲しい。 ・これからどうすればいいのだろうか・・・。 	<p>・被害状況の写真とビデオを見せ、被害の大きさを確認させる。</p> <p>・被害者の辛さや悲しみにふれさせるとともに、前向きな生き方をしようと心が変化したことに目を向けさせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 台風の被害をどのように乗り越えてきたのだろうか。 </div>	

<p>展 開</p>	<p>5 どのようなボランティア活動が行われたかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辛い体験だったけれど、人の温かさを感じることができたんだ。 ・「自分の意志で来たんです」と言ってくれたボランティアの人の言葉はとてもうれしかった。 ・自分も困っている人のために動けるようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・泥だらけになりながらも笑顔を見せるボランティアによって、多くの人が力づけられたことに気づかせる。 ・ボランティアの人たちの温かい支えに気づかせる。 ・愛知県のバラ愛好家より届けられた600本のバラの花が被災者を勇気づけたというエピソードをとおして、人が生きていくために何が必要か考えさせる。
<p>ま と め</p>	<p>6 本時の学習の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の恐ろしさだけでなく、「自分も役に立つことができる」「支え合っている」ことをおさえる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

実際に被災した生徒もおり、当時の様子を思い出させフラッシュバックを引き起こすのではないかと戸惑いもあったが、感想の大半は多くの人たちに助けられ支えられたという感謝の気持ちと、自分も役に立ちたいというものであった。

—被災の町に輝く笑顔—

台風の被害を受けて、間もない頃の、市長さんと復興に多大な尽力をされた職員さんのナイスショットです。連日の疲れが癒された輝く笑顔がここにはあります。



台風の復旧・復興に追われ、殺気立っていた市役所に、愛知県のバラ愛好家の方より600本のバラの花が届きました。すぐに、職員の手によって、避難所に配られ、被災者の方たちを勇気づけました。残った一部を市役所に飾ったとたんのこの笑顔です。

私たちが生きていくためには様々な物が必要です。家、食べ物、水、衣類、お金・・・。

どれもひとつ欠けても生活は困難です。しかしそれだけではなかったのだということ、この写真は、私たちに語りかけています。「台風23号に係る防災教育資料」（豊岡市教育委員会作成）

（保護者の感想）

「台風」とても辛かったです。たくさんの物や思い出、大事な物を失いました。同じ被災された方から「だいじょうぶ。」と声をかけてもらい、自分本位で気持ちに余裕のなかった私を励ましてくれました。

たくさんの人に助けられ、今の私たちの生活ができることになりました。とても辛い出来事でしたが、人の温かさをたくさんいただけることができ、自分が辛い時でも「人を気遣う」ということを教えてもらいました。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○いろいろな人に支えられていることについて考えてみよう。	
感性を育む	○苦難にあっても乗り越えていくためには何が必要なのだろうか。	
想像力の育成	○人のために自分ができることは何だと思いますか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 第3時

ア 本時のねらい

死の悲しみにふれる体験をとおして、命のかけがえのなさを感じとる。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

人の死がいかにかに悲しく辛いものかを知るとともに、絆の深さに気づかせる。

(イ) 感性を育む

死について考えることの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

命には限りがあるが、だからこそ精一杯生きることの大切さについて考えさせる。

ウ 準備物 ワークシート（死に直面した経験、大切な人をなくした経験のある人から話を聞いてまとめる）、「千の風になって」（CD）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定する等、子どもの状況や様子を細やかに把握しておく。

(イ) 自分自身の「死」に対する考えを整理しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時の学習を振り返る。	・ 支え合うことで、水害という辛く悲しい体験を乗り越えてきたことに着目させる。
	2 死に対するイメージについて自由に感じたことを話し合う。 ・ 死ぬのは怖い。 ・ 大切な人がいなくなるのは寂しい。 ・ もう戻ってこない。	・ 前時までの学習をふまえ、命に対する考えを深めさせる。
展 開	3 死に直面した経験のある人や大切な人をなくした経験のある人から聞いた話を4、5人のグループで発表する。 ・ 祖父が死んだことを体で感じたくない気がして、祖父の体に触れられなかった。 ・ 本当は寝ていて、またかえってくるのではと思った。	・ 悲しみが強くよみがえった生徒には、個別に話を聞く等の対応をする。 ・ 話の聞けなかった生徒には、今の自分にとって大切な人をなくした時の思いを想像させ、発表者それぞれの思いに共感させる。
	・ もう二度とかえってこないんだ。 ・ それだけかけがえのない人だったんだ。	

死に向き合った人の話を聞いて、感じたことを話し合おう。

大切な人をなくした悲しみを感じとろう。

展 開	<p>4 「千の風になって」の朗読を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な人をなくした悲しみを考えさせることをとおして、なくなった人への深い思いを感じとらせる。 ・命が一度きりであることを改めて確認する。 ・大切な人とのつながりの深さに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>この詩が、なくなった大切な人から自分へのメッセージだとしたら、どんなことを感じますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分への優しさや思いやりを感じる。 ・生きることの勇気が湧いてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“なくなっても心の中で生き続ける”という考え方が、残された人を勇気づけることへ思いを至らせる。
ま と め	<p>5 授業の感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルな死と違い、現実の命には限りがあることや人との関わりを大切にして生きることについて考えさせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

いい資料に恵まれたため、生徒の心を捉えることができたが、大切な人の死による悲しみは、この詩によって乗り越えるという段階でとどまってしまったように思う。お互いが思いやりを持ち、人との関わりを大切にして生きるにはどうすればよいかというところまで踏み込んで考えさせたかった。



事例2 命のつながりを実感する－「生」と「死」を見つめることをとおして（豊岡市立城崎中学校第3学年）

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○人と人との絆について考えてみよう。	
感性を育む	○「現実の死」と「バーチャルな死」とはどんな違いがあるのだろうか。	
想像力の育成	○精一杯生きることの大切さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

「命」に関わる悲しい事件が多発している。悲しく痛ましいと感じると同時に、なぜ踏みとどまることができなかつたのだろうか、という思いが悔しさとともに湧いてくる。そして、なぜ踏みとどまらせることができなかったのかと。

子ども自身が、実際に生や死に関わる体験が少なくなってきたことを感じていたが、この実践をとおして教師自身の命に対する感覚を磨いていくことの大切さを実感した。教師自身が「命」に関わる身の回りの出来事を意識し、子どもの感性に訴え続けていくことが重要である。「自分のそばで『いじめ』があっても何も感じない傍観者を育てていないか」、「今生きていることを当然のことと捉え、命の大切さに気づかない子どもたちを育てていないか」と教師自らが問い直さねばならない。教師が命に対する深い感覚を持つことで、関わる子どもたちが自分を取り巻く様々な人の存在や出来事にまず「気づく」ことにつながるのだと思う。それこそが「命」について考えるきっかけになると実感した一年であった。

わたし自身、今年一年、あらゆる場面で「命」に関わる講演、本、体験に出合え、自分を振り返るよいきっかけになり、感謝している。

(2) 今後の課題

相変わらず平気で人を傷つけたり、きつい口調で表現したりする生徒が中には見られる。深刻ないじめによる自殺の問題も心ないことばがきっかけとなっている場合が多いだろう。自分の気持ちをどんな「ことば」でどう「伝えていく」ことが、より良い人間関係を作っていくことにつながるのか、もっと深く考えさせなければいけない。「ことば」の力を意識させ、自分の家族や友だちなど周りの人とのつながりを考えていくことの必要性を強く感じた。

本校の研修テーマが「構成的グループ・エンカウンターの実践と理論」であったため、「命の大切さ」を実感させる教育へとつなげていくことに苦心したが、実践をとおして、今こそ学校、家庭、地域全体を巻き込んで取り組まなければいけない大切なテーマだと痛感した。

11 参考・引用文献

- ・新井 満 / 文 佐竹美保 / 絵 『絵本 千の風になって』理論社 2004
- ・鎌田 實 『がんばらない』 集英社 2000
- ・國分康孝・國分久子 編 『構成的グループエンカウンター事典』図書文化 2004
- ・國分康孝・國分久子 監修 飯野哲朗 編著『思いやりを育てる内観エクササイズ』
図書文化 2005
- ・ストレスマネジメント教育実践研究会(PGS)編『ストレスマネジメント・テキスト』
『ストレスマネジメントワークブック』 東山書房 2002
- ・園田雅代・中釜洋子・沢崎俊之 編著『教師のためのアサーション』金子書房
- ・豊岡市教育委員会 『台風23号に係る防災資料』

第4章 実践事例—高等学校編—

事例 1　こころ・からだ・いのちを大切に、
生き方を考える
（県立豊岡高等学校全学年）

高等学校事例1

こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える

県立豊岡高等学校全学年

1 テーマ

こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える

2 実践のねらい

自己への理解を深めるとともに、知識が実践へとつながるような体験活動をとおして、自尊感情を培う。また、自他共にかけがえのない命を今生きていることを実感し、自他の命を守っていかうとする姿勢を持つ。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、兵庫県北部に位置する歴史と伝統のある学校であり、卒業後は親元を離れ、学生生活を送る生徒がほとんどである。生徒は、心や身体、命が大切であることについての知識は持っているが、それらを大切にした生き方については実践できていない。そこで、今まで多くの人に守られ支えられてきたことへの感謝と慈しみを実感させ、自他の命を大切に生きていくことの素晴らしさを実感させるべく、本実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・人との心の交流等つながりを実感できる体験活動をとおして、人間関係の中で成長していくことを感じさせる。
- ・絵本や講演等をとおして、多くの支えの中で生きている自分の命を実感させる。

【感性を育む】

- ・救急現場の体験や、大切な存在をなくした人の話を直接聞くことをとおして、命の重みや人と支え合うことの大切さを感じさせる。
- ・自分を大切にし他者を思いやるのが、人間関係を豊かにするということを実感させ、自身のこれからの生き方を見つめさせる。

【想像力の育成】

- ・命には限りがあることを意識させ、今生きている命を大切にすることについて考えさせる。
- ・人間同士の絆によって困難を克服できることの強さを感じ取らせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・いろいろな研修や書物・講演会等をとおして感性を磨く機会を持ち、命の大切さや生きることの意味を深く見つめる。
- ・事前に関係機関との綿密な打ち合わせを行い、事後の活動に生かす。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・特別活動
- ・LHR

(3) 子どもたちの準備

- ・生徒自らが学習体験したいテーマ内容について考える。

(4) 家庭・地域との連携

- ・保健だよりや相談だよりを読み、自分の心や身体、命を大切にすることについて考える機会を持つ。
- ・取組の趣旨を説明し、理解や協力が得られるように働きかける。
- ・実際の取組の内容や感想等をまとめ、相談だよりをとおして報告することによって連携を図る。

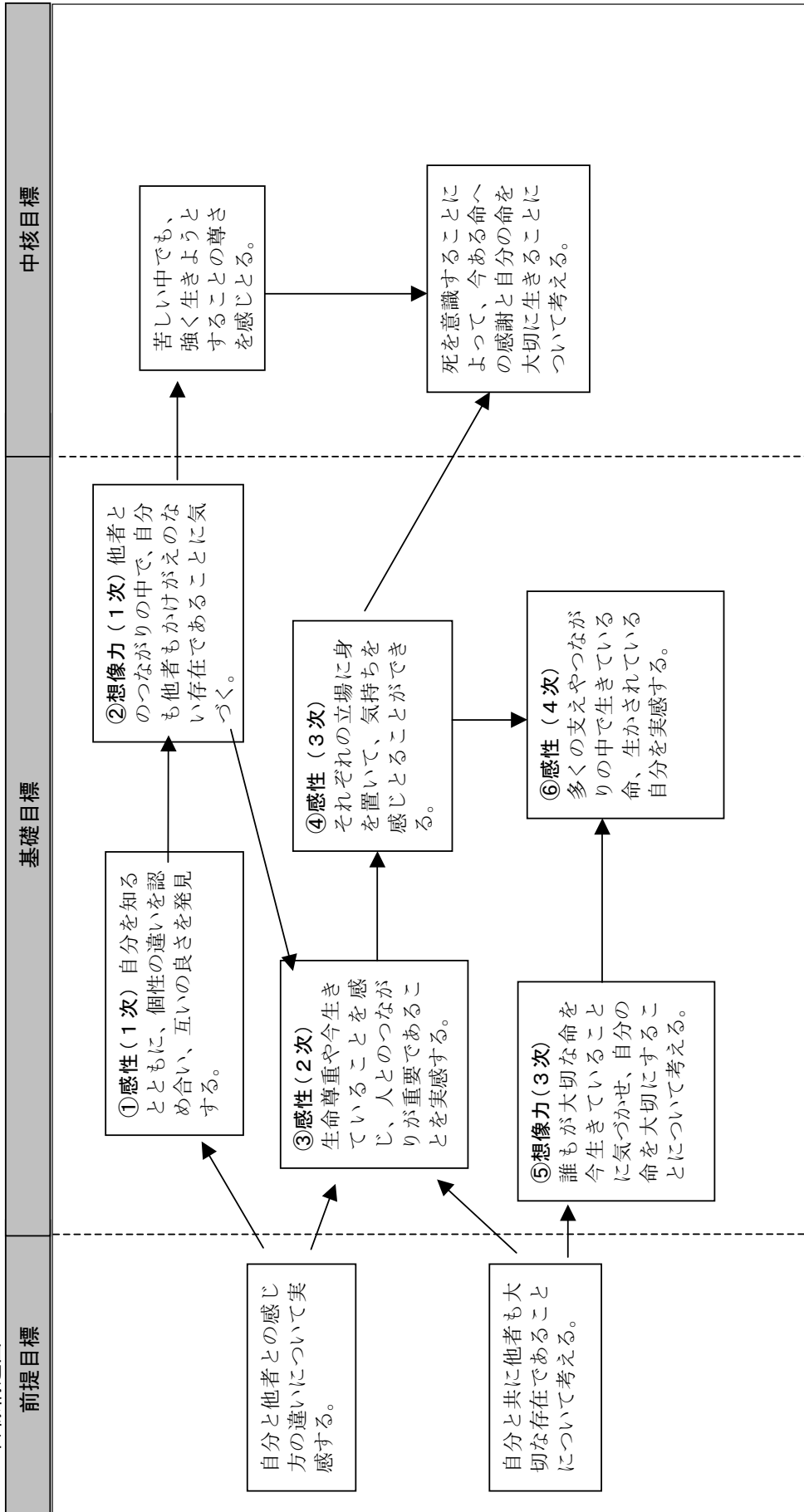
5 本校の実践の特色

知識が具体的な行動へつながっていくよう、体験活動や講演会などを企画し、生徒の主体性を引き出す。多面的な視点で物事を受け止め考えられるような工夫をする。生徒自らが自分を見つめ、かけがえのない自分のこころ・からだ・いのちを大切にしたい自分づくりに取り組み、自分らしい生き方を考えていけるように支援する。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションを豊かに（話す、きく、話し合う） ○ 自己理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のコミュニケーションの取り方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と他者との感じ方の違いについて実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と共に他者も大切な存在であることについて考える。 	<p>○ 自分を見つめる中で、様々な見方や受け止め方があることに気づかせることができたか。</p> <p>○ 他者とのつながりの中で、互いにかげがえのない存在であることを実感させることができたか。</p> <p>○ 命の重みを感じさせ、守るために人も人とのつながりが重要であることに気づかせることができたか。</p> <p>○ 個々の自尊感情を刺激し、改めて今を大切に生きることができたか。</p> <p>○ 命を大切にすることを人ごとではなく、自分や他者の視点で考えさせることができたか。</p> <p>○ 自共にかげがえのない命を慈しみ、大切に生きていくことを実感させることができたか。</p> <p>○ 人間関係のつながりを大切に、これからは生きていくことを実感させることができたか。</p>
1次（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己理解を深める。 ○ 他者からみた自分について考える。 ○ 理想の自分について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分について知っている部分と知らない部分があることに気づく。 ○ 他者と関わることで自分の知らなかった部分に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を知らるとともに、個性の違いを認め合い、互いの良さを発見する。 ○ 自分の素直な気持ちを表現することとおして、コミュニケーションの大切さを実感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と他者の受け止め方の違いについて考える。 ○ 他者とのつながりの中で、自分も他者もかけがえのない存在であることに気づく。 	
2次（7時間）	<p><体験活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急法のグループワーク ○ 保健委員会の活動 ○ ふれあい看護体験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命のかけがえのなさ、人とのつながりを意識し、生きていることの大切さを感じる。 ○ 多くの支えの中で今生きていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命尊重や今生きていることを感じ、人とのつながりが重要であることを実感する。 ○ 命の誕生を振り返り、大切に育まれた命の重みを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の尊さとそれを守るために、何が重要であるかについて考える。 ○ 命への感謝と自他共に命を大切に生きていることについて考える。 	
3次（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本をおとして、大切な存在を喪失したときの感情に寄り添う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いのちの有限性と多くの人に支えられ今を生きていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの立場に身を置いて、気持ちを感じとれることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが大切な命を今生きていけることに気づかせ、自分の命を大切にすることについて考える。 	
4次（4時間）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 犯罪被害の遺族の話聞いて自分の生き方を見つめる。 ○ 今ある命を当たり前と捉えず、命に感謝し、よりよく生きる方法を考え、自分づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの支えの中で、限りある命を私たちは生きていることを実感する。 ○ 思いどおりにならない体験から学ぶ姿勢を知る中で、自分を見つめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの支えやつながりの中で生きている命、生かされている自分を実感する。 ○ 苦しい中でも、強く生きようとするこの尊さを感じとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 死を意識することによって、今ある命への感謝と自分の命を大切に生きていることについて考える。 ○ 理想の自分や成長させたいところについて考える。 	
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 素直な気持ちや気づいたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの自分の感じ方と違うところに目を向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな自分を感じこれからの自分の生き方を考える。 	

7 目標構造図



(凡例) ①感性(1次) : 「①」は指導の順序、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、(2)「指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	○子どもに寄り添うことについて考える。 ・リレーションづくり（信頼関係をはぐくむコミュニケーションについて） ・自己理解を深める。
b	○自尊感情を高める。 ・エゴグラムの活用、ストレスマネジメント、アサーション・トレーニングの体験
c	○生命の尊さについて再考する。 ・人生の障壁を感じながらも、自分の生き方を模索している人やそれを支える人の姿に学ぶ。
d	○よりよく生きることについて考える。 ・死を見つめることをとおして、今の生き方を見つめ直す。 ・今を大切に生きるとは？人生を豊かにするものは何か？等について考える。

(2) 指導の概要（全14時間）

内 容	
事前	○コミュニケーションを豊かに（話す、聞く、話し合う） 教員研修 a
1次 (2時間)	○自己理解を深める。 エゴグラムのチェック、自分自身の特徴や傾向を捉える。 教員研修 b
	○他者からみた自分について考える。 長所・短所を出来るだけ肯定的で違った視点から見る訓練 ○理想の自分になるために エゴグラムを使い、具体的な目標を設定しながら、話し合いの中からの気づきを促す。
2次 (7時間)	○体験活動① 指導実践(1) p 75～p 78 救急法のグループワーク 災害や救急の現場から命の大切さに関する実体験を聞き、知識のみでなく、実践できる具体的な方法を体験することにより、自らの行動の変化への意欲につなげる。
	○体験活動② 委員会の活動を通して（保健だよりの作成、救急法グループワーク、献血の啓発活動など）自分の人生を振り返り大切に育てられた命を、次は自分で守り育ていけるように委員会の活動を通して、メンバーで話し合いながら、自分とは違う考え方を知り、コミュニケーションで関係性が深まり、人とのつながりを大切に感じていく体験を行い、そして改めて自分の命を大切にしていけるために自分たちに出来ることについて考えさせる。
	○体験活動③ 指導実践(2) p 79～p 81 ふれあい看護体験 医療現場における多様なケアを学び、命の大切さを改めて深く見つめさせる。その中において、自尊感情や自己信頼感を高め、仲間や人とのつながりの大切さに気づき、主体的な行動へとつなげていく。
3次 (1時間)	○絵本をとおして限りある命について考える。指導実践(3) p 82～p 84 絵本『さよなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』を用い、いろいろな立場に立って考えることをとおして、命には限りがあることを実感し、命のかけがえのなさに気づく。 教員研修 c

4 次 （ 4 時 間）	教員研修 d
	<p>○人生の意味について考える。（手記など） 死生観から、今生きていること、出来ることの大切さを再認識する。 思い通りにならない体験を、そこからどういう人生の意味を見つけられる人になるか？ 自分の命を輝かせるとは…？（相談日よりなどを通して考えさせる）</p>
	指導実践(4) p85～p87
事後	<p>○ゲストティーチャー：大切な人を喪失された方の話を聞く。 頭で自分が考えていたことと、現実自分がそうであったならどうしただろうか？と自分に置き換えて考える。 かけがえのない大切な命を、自分たちが今生きていることを実感する。 これからの生き方を見つめて感想を書く。</p>
	<p>○これからの自分の生き方を考えさせ、今、出来ることは何かについて話し合う。 身近なところに潜む危険から自分をまもる。自己コントロール…行動選択について場面を想定して考える。どうして危険な行動に走ってしまうのか？ 危険な行動をさけるために、ワークシートを使って自分を見つめる。</p>

9 指導実践

2次	体験活動① 救急法のグループワークを行う。
----	------------------------------

- (1) 第1・2時 対象者（1，2年各クラス保健委員、部活動代表者、希望者約50名）
- ア 本時のねらい
 災害時の救急活動についての話を聞くことをとおして命の大切さを実感し、危機に直面した時に冷静に判断しようとする姿勢を身につける。
- イ 指導のポイント
- (ア) 感動の体験
 自分にも救える命があることに気づかせるとともに、命のかけがえのなさを実感させる。
- (イ) 感性を育む
 講話やグループワークから、命を救うために自分にできることを考える機会をもたせるとともに、人とのつながりの重要性を実感させる。
- (ウ) 想像力の育成
 ・命を守るために、何が重要であるかについて考えさせる。
 ・今ある命に感謝し、自他の命を大切にしたい生き方について考えさせる。
- ウ 準備物
 事前配布の救急法についての冊子、救急用具のセット、「命の大切さ実感尺度」シート（「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集Ⅰ P213 参照）
- エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）
- (ア) 協力いただく救急救命士との打合せ
 実際に命のかけがえのなさを実感した体験について話していただくよう依頼する。命について考えさせる機会としたいことをあらかじめ伝えておく。
- (イ) グループワークの進め方について救急隊員や保健委員と打ち合わせをする。
- (ウ) 災害時の救急隊の活動や心情を演じた演劇作品を鑑賞するなど、他の視点から命の大切さについて深く見つめる。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 救急法のグループワークをとおして、命を大切にするために自分たちに何ができるのかを考える。 （「命の大切さ実感尺度」シートの記入）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に資料を配布し各自が予習するよう指示する。 ・研修会の進行も生徒に行わせ、主体性をもって参加させる。
	<p>2 救急隊員より災害時の救急活動についての話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これまで学習した知識を活かし勇気と自信を持って、みんなで協力して大切な命を救おう！ </div> <p>3 救急法のグループワークを体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> グループワークの事例 （1）皆さんは野球部員です。フリーバッティングの練習中、ライナー性の打球が野手の胸部を直撃し、その場に倒れ込んでしまいました。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・救えた命、救えなかった命、生死を分けたものについて考えさせる。 <p>〈グループワークの進め方〉 ①自分にできることを考えさせる。</p>

展 開	<p>(2) 皆さんはバレエ部員です。一人の部員がブロックをして着地した時、相手の足を踏み転倒してしまいました。転倒した際、右手を激しく床に着いており、左足首と右腕・右肘部の痛みを訴えています。</p> <p>(3) あなたは陸上部員です。7月の異常に蒸し暑い日のこと…炎天下で 200mインターバル走を繰り返していた一人の部員が、突然意識を失い倒れてしまいました。</p> <p>(4) 騒ぎ声が聞こえるので行ってみると、そこには血まみれの先生が倒れていました。学校に侵入した不審者にサバイバルナイフで切りつけられたとのこと…前額部・右前腕からの出血があり、腹部にはナイフが刺さったままで、刺さったナイフを抜いてほしいといっています。</p>	<p>② 4～5人のグループになって実際に応急処置を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで協力し合って最後まで処置に当たらせる。 <p>③ 応急処置終了後に救急隊員より講評を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人やグループでの気づきを促す。 <p>④ 4つの事例を順に体験させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にしようという、今後への意欲に結びつけられるように、自分たちの行動を振り返らせる。
	ま と め	<p>4 全体を通しての講評や感想を聞き、感謝のことは救急隊員に伝える。</p> <p>5 本時の感想を書く。 （「命の大切さ実感尺度」シートの記入）</p>

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) これから自分にできることとして、「誰かがやるのではなく、自分がする」「ただ見ているだけじゃなくて、積極的に行動する」「生きること、息をして今を精一杯生きること。人を大切にすること、相手を思いやること。人間はひとりじゃないことを知った。」等の感想が生徒から出されたが、これらは体験活動をとおして得られた貴重な言葉であると実感した。
- (イ) 知識を実践へとつなぐこの体験活動は、生徒の主体的な行動の原動力となることに気づいた。
- (ウ) 「命の大切さ実感尺度」は、救急法グループワーク体験後に自己肯定感、自己有用感、自然・生命への畏敬の念、連帯感の領域における得点が体験前に比べ高くなった。しかし、成就・達成感の領域においては、うまく行動できなかった思いからか、低下の傾向が見られた。こうした結果から、この救急法のグループワークを行うにあたっては、うまく処置することだけに目を向けさせるのではなく、大切な命を救うため自分にできることを皆で協力して考えることが大切である、という点を特に強調することが必要である。

振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○大切な命を守るために、自分たちにもできることは何だろうか？	
感性を育む	○命を救うために重要な人とのつながりについて考えよう。	
想像力の育成	○命を大切にした生き方について考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



処置について役割分担を指示しています



協力して手足の固定をしています



AED を使い心肺蘇生法を実践しています



どうすればいいのか…？

☆救急法グループワーク後の感想☆

①大切な命について感じたこと、②色んな関係の中で生きている自分の命、③これから自分に出来ることは何かについて、考えて書いてみてください。

参加者の感想

- ・「何で命が大切なのか」「何で生きなくちゃいけないのか」という質問を改めてされると、はっきりと答えられませんでした。一人ひとりに大切な役割があって生きていると教えていただいて、改めて命を大切にしないといけないと思いました。自分に出来ることはそんなにたくさん無いかもしれない、そんなに大きなことも出来ないかもしれませんが、しかし今、自分に出来ることを少しずつやっていきたいと思っています。
- ・大切な命を亡くしたとき、とても悲しむであろうと思います。自分でこの命を投げ出そうとしたとき、周りの人々のこともしっかり考えたい。一人ひとり何らかの役割があるとおっしゃったが、確かにそうだった。よく言われるのは、人は自分ひとりでは生きていけない。周りの人がいてやっと生活できるようになる、とよく聞きます。周りのことをやはり考えていかないと、これから自分の人生様々なことがあると思いますが、今日学んだことを活かしていきたい。

①大切な命について感じたこと

- ・命はこの世にたった一つであり、よく考えてみれば奇跡だと思うので、絶対大切であり、無駄にはしたくないと思います。
- ・たった一つしかなくて貴重で、言葉には表せないものだと思う。大切なものであり、重たいものだと思う。
- ・この体験で以前よりも命の大切さがわかったし、知識も増えました。
- ・自分の力で結果が変わる命があるなら、出来るだけの努力を尽くしたい。
- ・命は本当に1つしかなくて、当たり前ですが大切だと思った。

②色んな関係の中で生きている自分の命

- ・お父さん、お母さんがいて、そのまたお父さん、お母さんがいて・・・今私が生きていることは幸せなので、みんなに感謝したい。
- ・何かのために、誰かのために、そして自分のために今、生きているのだと思う。
- ・今まで知らなかったことを沢山学び自信がついた。何かあったときにはこの体験で覚えたことをフルに使って命を救いたい。そして救える命を自分の力で増やしていけたらいいと思います。
- ・自分ひとりの命ではないということを頭に置き、日々感謝。
- ・自分の命は周りの助けによって生かされていると思う。

③これから自分に出来ること

- ・これから生きていく中で、自分に出来ることは自分の命も大切に他の人の命も大切にすることだと思います。困っている人がいたら必ず助けに行けるような人になりたい。
- ・4つの体験をしてなかなか出会えないことでも体験できたので、すごく自信がついて何かあったら先頭に立って行動していきたい。
- ・知ることだけではなく、行動できることを考えたい。
- ・いざ誰かがケガをしたら助けるようにしたいと思う。見ているだけじゃなくて行動だと思った。



救急隊員の講話を聞いています

2次 体験活動③ ふれあい看護体験に向けてトラストウォークの体験をする。

(2) 第6時 対象者（全学年の希望者約40名）

ア 本時のねらい

ふれあい看護体験に向けて、違った視点でものを見ることや今を大切に生きることについて考える。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

自分のサポートの仕方についてトラストウォーク体験をとおして見つめさせ、対人援助における対応のあり方について気づかせる。

(イ) 感性を育む

トラストウォークを体験して、普段いかに視覚に頼って生活しているかに気づかせ、視覚以外の感覚から様々なものを感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

トラストウォークの体験から、相手の立場に立って考えることの重要性を感じるとともに、どのように援助するかといった人との関係のあり方について考えさせる。


ウ 準備物 「命の大切さ実感尺度」シート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 協力していただく担当教員との打合せ

- ・トラストウォークの目的や必要とされる指導時間、効果的な進め方等について話し合う。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 体験活動の前に「命の大切さ実感尺度」シートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の日常生活が充実しているか振り返らせる。 ・今どのように感じているのか、自分に素直に問いかけさせる。
展 開	2 トラストウォークの体験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり一人は目を閉じて、もう一人は目を閉じた人を誘導する。その際声を出さずに案内する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 実際にトラストウォークを体験してみよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・役割を交代して反対まわりをしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室から廊下に巡回するコースを設定する。 ・危険なものがないよう留意する。 ・けがのないように十分注意させる。 ・お互いを信じ合い、思いやりの心を養う体験となるよう、精一杯の優しさを発揮させる。
	3 お互いの感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・してもらって良かったこと、安心できたことを先に伝えさせる。 ・次に、こんな風にしてもらっていたらより安心できたと思うことを伝えさせる。

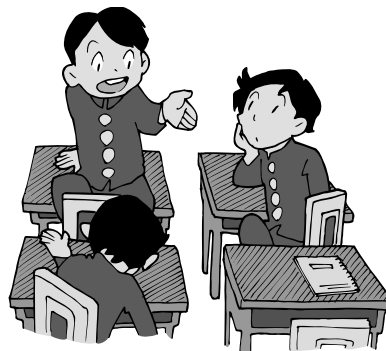
ま と め	<p>4 本時を振り返り、感じたことや考えたことを自由記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が思っていることと、相手が思っていることが違ったりして、相手の気持ちを考えて接するのは難しいと感じたが、実はそれが一番大切なことだと思った。 実際に患者の立場や看護する立場を簡単な方法で体験してみて、相手の思いを感じとることの大切さを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことを自由に記入するように促す。 これからの体験活動においても、自分の五感をフルに活用し、自他を大切にするための、感性を高めて欲しいことを伝える。
-------------	---	---

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) ふれあい看護体験の事前指導として他者をサポートするトラストワークを実施したところ、生徒たちは人を援助することのむずかしさを強く感じた。
- (イ) 「いきなりの体験でびっくりしたが、不安だったこと、安心したことについて分かり合えた。それを友だちに伝えるのは何となく恥ずかしかったけれど、互いに分かり合える体験ができたことはよかった」と人とのつながりの大切さを意識し始めた言葉が出ており、次の体験活動が充実したものとなることが期待できた。
- (ウ) 「命の大切さ実感尺度」については、体験の前後で値が高くなる変化がみられたものは、自己肯定感、自然と生命への畏敬の念の領域であった。反対に低下したのものには、愛する、愛される喜びの領域があった。安定感が揺らいでいるのか、ゆっくりと自分のことを話す相手や、家族との会話が少なくなってきたと感じているようである。人とのふれあいの大切さを実感した機会であったと思う。



大丈夫だよ、僕を信じて



キ 振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○サポートしている時、されている時、あなたは何を感じましたか？	
感性を育む	○視覚以外のどんな感覚をあなたは働かせましたか？	
想像力の育成	○違った感性を持つ人との関係の中で生きている自分、大切にしていきたいものは？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

☆ふれあい看護体験後の感想☆

- ・最近、自分と同じくらいの年の子が事故でなくなったり、5月には身近な人を亡くしたり、死や命、生きることについて考える機会があった。自分はたくさんの人に支えられていること、生と死はいつも隣り合わせであることを感じた。明日、何が起こるかわからない世の中、生かされていることに感謝し、命を大切に精一杯生きていきたい。そして自分の周りの人たちを大切に、将来看護師になって病気の人の支えになれるよう頑張っていきたい。
- ・今日この体験を終え、「生きること」って本当に素晴らしいことだと思った。自分の命は決して自分だけのものではないと思う。大切な家族や友達みんなに支えられて私は生きているということ、たくさんの人々の支えがあって、よりよい生活が出来ていると思った。私がこれから出来ることは、たくさんの人と支え合っていくことだと思う。たくさんの人が幸せに暮らせるように、自分も誰かのために役に立ち、周りを笑顔いっぱいになりたいと思っている。



病室で説明を聞く生徒



赤ちゃんを抱く生徒

3次

絵本をとおして限りある命について考える。

(3) 第1時 対象者（1，2学年全員）

ア 本時のねらい

絵本『さようなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』を用い、誰もが経験する大切な存在をなくす体験について考えることをとおして、命には限りがあることを実感し、命のかけがえのなさに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

大切な命を失った時の感情に寄り添う体験をとおして、命のかけがえのなさに気づかせる。

(イ) 感性を育む

死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・「自分がその立場であったなら…」と、それぞれの立場に自分を置いて感じとらせる。
- ・誰もが大切な命を今、生きていることに気づかせるとともに、限りある生を精一杯生きることの素晴らしさを実感させる。

ウ 準備物 絵本『さようなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』（岩崎書店）、絵本の朗読テープ、ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

- (ア) 命を大切にした生き方を生徒が見つめられるよう、様々な状況にある人の思いを想像する必要性について、相談日より「いのちのともしび」をとおして知らせておく。
- (イ) 各学年への取組の趣旨説明と授業の進め方についての打ち合わせ
 - ・次の講演会へつないでいくための理解と協力を要請する。
 - ・各家庭においても命のかけがえのなさについて話し合う機会を持つことを依頼する内容の保健だよりを配布する。
- (ウ) 配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前の個別指導や事後のフォローを充実させる。



オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 本時の学習のねらいを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大切な存在をなくす喪失体験について「自分がその立場であったなら・・・」と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、極端に悲しい経験等をした生徒がいないか把握する。 気分が悪くなるようであれば遠慮せず知らせるように指導する。
展 開	<p>2 絵本の朗読テープを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">大切な存在をなくした人の気持ちを想像してみよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> 感情を込めてゆっくりと読み聞かせる朗読テープを使用する（15分間）。
	<p>3 朗読テープを聞いた後、感想を書く。</p> <p>(1) 自分がもし主人公の立場であればどんな思いを持つか。</p> <p>(2) 主人公の立場であればどんな思いを持つか考える。</p> <p>(3) 亡くなったラッキー(犬)の思いを想像してみる。</p> <p>3 4つのグループを作り話し合い、発表する。</p> <p>(1) 感想</p> <p>(2) 主人公の気持ちを考えるグループ</p> <p>(3) 父親の気持ちを考えるグループ</p> <p>(4) ラッキーの気持ちを考えるグループ</p> <p>4 グループで出た意見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表を聞く時は、自分と違った意見をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単に悲しいだけでなく、自分であればどのような行動をとるか、どんな言葉をかけるか。残されたものへのメッセージを想像させる。 気持ちを自由に考え、発表できるよう小グループ（4～5人）に分ける。 各グループで素直な意見が出しやすいように配慮する。 グループの意見だけでなく、他の人の意見に耳を傾け、自分との違いに注目させる。 他のグループや友人の意見に耳を傾けさせる。
ま と め	<p>5 各グループの意見を踏まえ、改めて自分の感想を書く。</p> <p>次回の講演会の予告（本時で考えたことを思い出しながら、講師の言葉を聞くように伝える）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 命には限りがあるが、その限りある命を精一杯生きることの素晴らしさについて確認する。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 人生において誰もが経験するであろう喪失体験について、それぞれの感じ方や受け止め方があるため、それを素直に表現させたいと思い、教材として絵本を使ってみたところ、想像以上の反応があったように思われた。すぐれた絵本は素晴らしい教材となり得ると改めて実感した。
- (イ) 各ホームルームで実施した朗読は、放送部の生徒が朗読したものをテープに録り一斉に流した。その後は各担任が次の講演会へつながるまとめを工夫し、その主体性・独創

性に感激した。企画者の一人として大変嬉しく思う機会であった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○大切な存在をなくした時の感情について感じたことは？	
感性を育む	○いろんな立場から感じたことを話し合う体験をとおしてどんなことに気づきましたか？	
想像力の育成	○今改めて命を大切にすることについての、あなたの考えは？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

4次 第2・3時	犯罪被害者遺族の声を聞くことにより、かけがえのない命を失った悲しみや怒りに ふれ、命のかけがえのなさについて体験的に実感する。
-------------	--

(4) 第2・3時 対象者（1，2学年全員、保護者、職員）

ア 本時のねらい

犯罪被害者遺族である山下京子さんの話を聞き、自己中心的に物事を考えるのではなく、多面的な視点でこれからの自分の生き方をしっかりと見つめ考えることと、今自分たちが生きている命について再考する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

かけがえのない存在を失い、思い通りにならない体験から、今自分の生き方を模索している姿を知る。

(イ) 感性を育む

被害者、遺族（母親・父親・兄妹）の立場として、あるいは加害者の立場や第三者としてなど、それぞれの立場に自分を置き換えて感じ、受け止めさせる。いろんなつながりの中で、豊かに生きること、生かされている存在であることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

死を意識することとおして、今ある命へ感謝の思いを持たせ、自分の命を大切に生きることについて考えさせる。

ウ 準備物 神戸市須磨区児童連続殺傷事件の概要を記した相談日より「いのちのともしび」感想記入用ワークシート

エ 先生の準備（事前の打ち合せと教員研修）

(ア) 相談日よりで、ゲストティーチャーが執筆した手記や、事件の概要について事前学習できる資料を作成する。

(イ) 各学年に取組の趣旨説明と進め方についての打ち合わせを行う。

- ・講演会后、各自の生き方を考える手だてとなるように、各担任へ理解協力を要請する。
- ・家庭とのつながりを深めるために、学年通信や相談日よりを介して感想文を掲載できる準備をする。

(ウ) 配慮を要する生徒が存在する可能性もあるので、キャンパスカウンセラーにも同席を依頼する等、個別指導や事後のフォローについて検討しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 講演会の趣旨説明を聞く。 犯罪被害に遭った方より直接話を聞くこととおして、命の大切さを深く見つめる。	・事前に、極端に悲しい経験をした生徒がいらないか調べておく。 ・気分が悪くなるようであれば知らせるように伝える。
展 開	2 「彩花が教えてくれた ^{しあわせ} 幸福 ～絶望の中に希望を拓くとき～ …約70分間	・真剣な態度で話を聞くよう指示する。
ま と め	3 講演会后、感じたことを感想としてまとめる。 後日、ゲストティーチャーからの手紙“高校生のみなさんへ”を相談日よりの中で紹介する。	・「命を大切にすることについて、自分なりの意見をまとめさせる。

カ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 3次で絵本を使い素直に感情を表現したり、様々な状況に想像をめぐらすことができつつあると感じられた後に今回の講演会を持つことができたことで、生徒の「命の大切さ」についての考えの深まりを感想等とおして推察することができた。
- (イ) 本時の後半部分を各ホームルーム単位で実施できたことで、担任それぞれの工夫が見られた。例えば、講演会のまとめや感想文を学年通信や学年のホームページに掲載する等である。さらに、行事の関係で講演を聴講していない3年生に対しては、ショートホームルームや授業の中で折にふれ講演の概要を伝えた。「命の大切さ」について考える働きかけが学校全体へと広がっていったことは、思いがけない展開であり嬉しく感じた。
- (ウ) 今後も、生徒の感想を相談日よりなどで繰り返し紹介し、生き方をみつめさせ、題材として取り上げていきたいと考えている。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○犯罪被害に遭うなど、思い通りにならないことに遭遇したら、あなたは何を考え行動しますか？	
感性を育む	○今までに支えやつながりを意識したことがありますか？	
想像力の育成	○今改めて命を大切にしたい生き方について、どのように考えていますか？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		



☆山下京子さんの講演を聞いて☆

「命を大切にすること」とはどのように生きていくことだと思いますか？

- ・私は今まで自分なんていなくなっても何が変わるわけでもないし、生きていて何の意味があるのかな、と考えることがありました。毎日学校には来ないといけないし、毎日悩んだり嫌な思いをしたりして、本当に嫌で仕方ないようなときもありました。でも、今日の講演を聞いていて、自分の悩みなんてほんの小さなことだったんだと、すごく思いました。自分の子どもを亡くしてしまった人が、あんなに強く生きているのに、自分はくだらないことを考えていたんだなあ自分が馬鹿らしく思えました。命を大切にすることは、私にとって人生を無駄にしないことです。これを実行するためにも、毎日頑張りたいです。
- ・自分の心を大切にすること。きれいな心を持って人に接すること。この世界にはどんな人も自分という人間は一人しかいないことは頭では分かっていた。「いのちを大切にすること」これも何度も何度も聞いてきた言葉だった。でも今日新しく感じたことは「心」ということだ。「心」にある自分の気持ち、相手の気持ち。これはもうひとつの「いのち」だと思った。人は傷つくこともあれば、励まされ一歩前に気持ちが前進することもある。自分の気持ち、相手の気持ちを考えるということは、「いのちを大切にすること」につながっていると思う。そうすれば自分のいのちも、誰か他の人の命も傷つけることなんてないと思う。「いのちの大切さ」まだまだ分かっていないことばかりだろう。もっと重いものなのだと思う。それでも今日の講演で学んだことを忘れたくはない。
- ・今日の講演会で、自分がどのような存在か、親がどのように自分を見ているかが分かった。今、自分は命を大切にしていないと思う。好きなことは頑張っているが、親を困らせてばかりで、親のためになることを何一つできていない。そんな自分がひどく情けなく思えた。これから先、自分にどんな悲しみが待っているか分からない。でも、「逃げる」のではなく、「挑む」態度でその悲しみを乗り越え、一度きりの人生を大成させたいと思う。
- ・今当たり前に過ごしている毎日。明日もあさっても当たり前にあると思っていた。でも、今日の山下さんのお話を聞いて、もっと一日一日を大切に、意味のある毎日を過ごしていこうと思った。講演を聴きながら、色々なことを考えた。自分がどれほど親に愛されているか、どんなに幸せなのか……。生きることの意味、命の意味を真正面から考えることができた。私は今まで、身近な人の「死」を経験したことがないので、どれだけ苦しく、悲しいか分からない。でも、今自分がどう生きていくべきか、何をすればいいのか、わかった気がする。この先絶望的な壁にぶち当たったとき「逃げる」のか「挑む」のか自分の気持ちで180度変わる”という言葉思い出したい。「いのちを大切にすること」とは、私を支えてくれている家族、友達、先生、いろんな人に感謝し続け、生きていく限り、恩返しをし、私がもらった沢山の愛を、私が沢山のの人に届けられる生き方をしたい。限りある残りの人生を精一杯楽しみ、笑顔いっぱい過ごしていきたい。改めて…私を産んでくれてありがとう！精一杯生きていきたい。

☆山下京子さんの手紙を読んで☆

・私は普段の生活の中で、いのちについて考えることはありません。今こうしてなんの不自由もなく生活していることが当たり前のことだと思っていました。きっと他の人も同じだと思います。でも3年生になって卒業という事実を目を向けるようになってから「時間」の大切さや速さが気になり出しました。後悔したってもう戻れないんだと、改めて思うようになりました。それと同じで、人は「死」を意識しなければ「生きる」ことについて本気で考えることはないと思います。限られた時間の中でしか生きられない。そう思うと1秒がとても大切なもののように感じられます。いのちを大切にすること、それはこの日常がすべて当たり前のことなんかでなく、確実に終わりに向かっている、ということをお忘れずに生活することだと思います。こんな貴重な時間の中に誰かを傷つけたり、殺したりする暇はないはずですよ。

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

本校に転勤して間もない私にとって、組織的な教育活動の中に、いかにこの「命の大切さを実感させるプログラム」を組み入れていくかということが、最も大きな課題だった。

しかし、保健室で接する生徒の内面的な姿から、自尊感情のあり方にふと疑問を感じ、何としてでも実践に取り組みたいという思いが募った。

保健室で出会う生徒が、自分のことを大切に思えないなど、自尊感情の持ち方に疑問を覚えるとともに、これまで、共に成長することができた生徒の姿が思い出された。心理的な不安定さから自傷行為を繰り返す姿、自己万能感からなかなか抜け出せず周りを巻き込み振りまわしていく姿、死と隣り合わせの疾病を抱えながらも学校生活を楽しむことを望み最期まで病と闘った尊い姿、事故で亡くなる前日に頑張っていることを笑顔で報告に来てくれた生徒・・・

“今を大切に、生きていくこと” 多くの人に守られ支えられてきた、かけがえのない命というものを自分がどう使っていくのか？ 自らの生き方を考えさせる機会をつくるために、私に何ができるのか？・・・まさに私自身に課せられた大きな課題であると感じた。

そして、次世代を担う彼らと共に、また殆どの生徒が卒業後親元を離れ生活していくことを考え合わせ、保護者とともに考える機会を是非とも創りたいという強い意志が、自分の中に存在していることに気づいた。そこで自分にできるところから始めてみよう、まずは教育相談係として相談日より「いのちのともしび」を定期的に発行するようにした。

次に、既存の教育活動を命の大切さを実感させる教育として、見直すことができないかを検討しながら、養護教諭の立場で展開できる生徒保健委員会活動と、それを基盤とし対象者を広げた体験活動を計画し、就業体験事業担当者に理解と協力を得て、事前指導を加えた教育プログラムの実践を行っていった。

さらに生徒指導部と連携し実施するための協力を依頼し、人権教育のホームルームと講演会を学校全体の取組として実施することにこぎつけることができた。

講演会開催に至るまでは、特に“死”を扱うことに対する抵抗や不安がかなりあり、生徒指導部の担当者とは何度も話し合い、職員の理解や協力が得られるように、企画書の提出から講師選定の理由など、具体的な検討資料を作成し、各学年の教師に指導の流れを順序立てて説明していくことを繰り返し行った。

振り返ってみると、私自身を動かしているものは、他者を傷つける誹謗中傷や陰湿ないじめ等、心無い行動を自らの気づきから予防していく動きへと導けないか、生徒たちにもう一度、自分の大切な時間の使い方、命の使い方について考えさせる機会をつくりたい、そして人とのつながりや、思いやりの心を大切にすることを、見守る私たち大人のまなざしのもとで、自分自身の生き方を考えさせたいと思う一心からだったように思う。

講演会に来られた保護者の方からのメッセージ

大変貴重なお話をありがとうございました。
何気ないこの瞬間を… こどもたちとの、多くの人たちとの時間を、大切にしていきたいと改めて感じました。
また、人の幸せとは… 忘れかけていたものを、考えさせられました。

この実践が、自らの命を守り、自分の生き方をみつめていく機会にどれだけ役立ったのかは目に見える形では分からないが、生徒の感想文から、こちらの予想を上回る反応がうかがえ、生徒が今の自分を真摯にみつめ、これからの生き方を考えていこうとする素直な気持ちが伝わってきた。実践を行った担任からも、自身の生き方を考えさせられ、忘れかけていた純粋さに気づかされたなどの感想がよせられ、繰り返しこの取組を続けていきたいと実感した。

(2) 今後の課題

今回体験的活動の前後に実施した「命の大切さ実感尺度」の結果から、自己肯定感・有用

感の低さがうかがえた。その他、感情を何かで表現することの少なさや自然のすばらしさに目をむけ感動する機会の少なさ等、生徒の実態が推察された。このことから、今後も生徒には、人とのつながりを大切にしたい体験活動や感動体験を積み重ねていくことが大切である、ということを実感した。

ア 授業実践上の課題

今後、彼らに命の大切さを実感させる機会は益々必要となってくる。本校では教育課程上どこに位置づけられるかを考え取り組んでみたが、学年を追うごとに深まっていく取組にはなっていない現状がある。学校の教育活動の中で、養護教諭としてどのような取組が可能かを考えての実践に留まっている。しかしながらこのテーマは学校全体であらゆる教育活動で実施することが可能であると今回の実践を通じて認識した。そのためにも少しずつ「命の大切さ」を実感させる教育の拡がりを目指し、職員研修を行うなどの働きかけを続けていくことが、実践につながる力になっていくのではないかと考えている。

イ 家庭・地域との連携についての課題

家庭においては、学年通信・相談日よりなどによって引き続き対話の機会を持つことを心がけていきたいと考えている。また地域においては、自尊感情を高める上でも、体験的な活動を取り入れて実施したいと考え、ボランティア活動も考えてみたが、なかなか時間が合わず実施できなかった。今後も積極的に地域とのつながりを築いていきながら、できることを模索し続けたい。

ウ 学校の組織運営上の課題

養護教諭の立場から学年や学校全体に働きかけるためには、教員間の理解や協力を十分得ながら進めていく必要がある。死と向き合うホームルームや講演会の企画は趣旨説明や調整に時間がかかるので、組織で役割分担して実施していくことが不可欠であった。他の教員と共に働きかけることの重要性と意義を実感させられた嬉しい機会となった。

今後も生徒や教員が自身の生き方をみつめ大切に考えていける環境づくりと、『いのちの大切さ』を各職員が自らの言葉で語り、実践へとつながるような研修の機会を設定することが必要であると実感している。

11 参考・引用文献

- ・アルフォンス・デーケン 『よく生き よく笑い よき死と出会う』新潮社 2003
- ・エリザベス・キューブラー・ロス 他 『ライフ・レッスン』角川書店 2001
- ・藤井理恵・藤井美和共 『たましいのケア』いのちのことば社 2000
- ・日野原重明 編著『死をみつめ、今を大切に生きる』春秋社 2002
- ・兵庫県立教育研修所『命の大切さを実感させる教育プログラム』実践事例集 2007.3
- ・兵庫県高等学校生徒指導協議会 編『高校生 ―いまをどう生きるか―』
兵庫県高等学校生徒指導協議会 2007
- ・河原まり子他『さよなら、ありがとう、ぼくの友だち ペットを失ったあなたへ』
岩崎書店 1998
- ・山下京子『彩花がおしえてくれた幸福』ポプラ社 2003
- ・CD【講話集】いのちを見つめて 全12巻 制作 NHKサービスセンター

第5章「命の大切さ」を実感させる教育プログラム

授 業 プ ラ ン

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」 授業プラン内容一覧

章	番号	学年	テーマ	学習・体験	実践の参考となる教育プログラムモデル
小学校編	1	4年	「死」について考えよう — 命に関する絵本を使って —	絵本や詩をとおして命の大切さを考える。	③
	2	4年	人間マップをつくるう	今の自分の姿を紙でかたち取り、自分の紹介文を貼り付けた「人間マップ」を制作し成長を実感する。	②
中学校編	1	2年	生き方から考える「命」	星野富弘氏の詩画から「いのち」を考える。	③
	2	1年	ストレスと上手につき合おう	ストレスについての理解を深める。	⑤
高等学校編	1	4年	言葉のひとり歩きを考えるーブログ・メールをとおしてー	インターネット上のコミュニケーションについて考える。	④
	2	1年	「支援」を考える	支援について考えるロールプレイング体験	④

2 授業プランの活用について

子どもたちの状況や学校での指導計画に基づいて実践された「命の大切さを実感させる教育プログラム」より、授業の進め方を中心とした詳細な内容を授業プランとして提示しています。また、子どもたちに「命の大切さ」を実感させるための教材・資料等の活用例についてもまとめています。

ストレスと上手につきあおう 第1学年

授業プランの概要を示しています。

養護教諭によるストレスについての概念や対処法等を学習したあと、スクールカウンセラーによるリラクゼーションを体験し、セルフコントロールの大切さを学びます。

- 実践のねらい
 - ◇感動の体験
 - ◇感性を育む
 - ◇想像力の育成
 - 事前の教員研修
 - 準備
- ストレスについての理解を深め、人や物を傷つけないストレス対処法を知る。
- 人には様々な感情があり、然なことであると気づかせ
- ストレスは誰にでもあり、適切な対処が大切であることを理解させるとともに、自分に合ったストレス対処法を考えさせる。
- ストレスマネジメント 第3章 教職員
- 授業を実施するにあたって必要となる教員研修及び準備物等について記載しています。
- ・関連する内容について保健等の教科書を確認しておく。
・スクールカウンセラーと打合せを行い、役割分担をしておく。

授業のねらい及び授業のねらいを達成するために、どのような感動の体験をするか、子どもたちの感性や想像力にどのように働きかけるかなどの「指導のポイント」を記載しています。

【教育プログラムの概要】

1次	<ul style="list-style-type: none"> ○構成的グループ・エンカ ・「いいとこさがし」 ・「私は私が好きです。な 	授業プランの前後にどのような学習・体験を行ったか、教育プログラム全体の流れがわかるように概要を示しています。
2次	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉学習 ・キャップハンディ体験（ハンディキャップのある人の状況を体験する）をするとともに、バリアフリーについて考える。 ・障害とともに生きる人の話を聞く。 ・自分の命を「一生懸命に生きる」ことについて考える。 	
3次	<ul style="list-style-type: none"> ○ストレスマネジメント体験 ・自分のストレスを知り、様々なストレス対処法を理解する。 ・スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験をする。 	授業プラン

●授業の展開
(導入)

児童生徒の学習活動を太字で示しています。

1 学習のねらいについて知る。

この時間はストレスについて学びます。ストレスとは何なのか、ストレスに上手に対処するための方法について学習します。

(展開)

2 ストレスについて考える。

どんな時にストレスを感じますか。

(留意点・ポイント)

- 日常生活の中で、「**緊張したこと**」「**緊張したこと**」等を思い出し、**教師の指示や説明、発問**を思い出し、**ストレスを感じて**います。
- 厚生労働省等のストレスについての調査結果を示し、自分と比較させてみる。

- 二人一組になって話し合う時間を設定し、自由に発表できる雰囲気づくりをする。

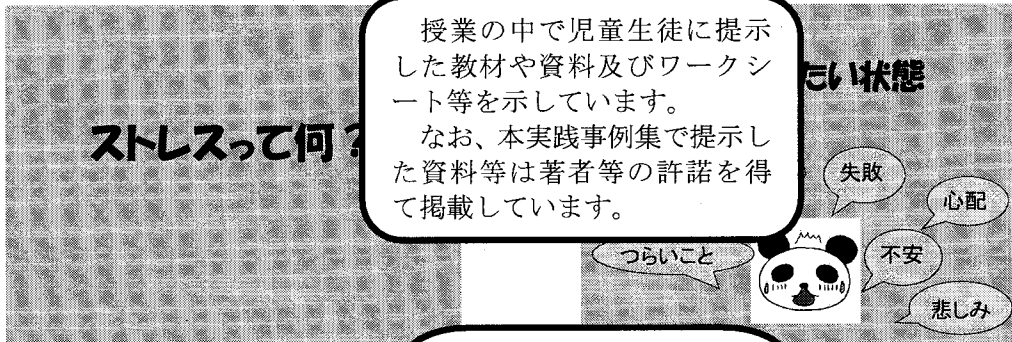
3 自分のストレス反応を知る。

ストレスを感じると、心や体はどうなるでしょうか。

(留意点・ポイント)

- 最近「嫌だな」「腹たつ」「悲しい」など、ストレスを感じたとき、**注意を要する子どもの反応や先生の振り返りに基づいた指導上の留意点等**について示しています。
- 身体面(落ち込)と精神面(落ち込)の両面から、**暴言**などの**ストレス**反応を理解させる。
- 自分がストレスだと感じていることや、ストレス反応について理解させる。
- ストレスの感じ方には個人差があることを

●授業で使用した提示資料・ワークシート等



授業の中で児童生徒に提示した教材や資料及びワークシート等を示しています。
なお、本実践事例集で提示した資料等は著者等の許諾を得て掲載しています。

●授業プラン実践者の感想

「今、本校の子供たちに必要なこと」
われている「自尊心の低さ」と「コミュニケーション課題を抱えている。そこで「命を大切にすることを大切にする」ことから始めようと考えた。

学校の状況や子どもたちの実際の反応、教育課程上の位置づけ、授業プラン実践の成果や反省点等を記載しています。

した。それは、最近よく言われる。本校もまさにそうした。まず一番基本となる「自分

【参考・引用文献】

- 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレス』
- 富永良喜・山中 寛 編著『動作とイメージによる ストレス』北大路書房 1999

授業プランを実施するに際して引用、参考にした文献等を記載しています。授業プランの全体を理解する上で参照してください。

死ってなに？生きるってどういうこと？—命に関する絵本を使って—

姫路市立東小学校第4学年

死って、なに？生きているってどういうこと？ なぜ人は死ぬのだろう。
死ぬってどうなることだろう。命の大切さとかけがえのなさについて考えます。

●実践のねらい	命には限りがあることを考えることをとおして、今ある命の大切さを実感する。
●指導のポイント	
◇感動の体験	・死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。
◇感性を育む	・病気で亡くなった子どもについての話から、命の重みを感じさせる。
◇想像力の育成	・すべての生き物には寿命があり、自分の命も例外でないことを理解させる。
●事前の教員研修	教員自身の命の有限性に対する思いをまとめておき、子どもが理解しやすいように準備しておく。また、生きたくても生きられなかった子どもに関する本や絵本などを読み、命の重みを実感する。
●準備	絵本『「死」って、なに？—かんがえよう、命のたいせつき』（文溪堂） 「電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ」（角川書店）より 詩「命」

【教育プログラムの概要】

1次	○人の一生について考え、自分の存在や自分の命について振り返る。 ・自分の一生を図で描き、どのような一生を送るかイメージする。 ・人間誕生の神秘を感じ、自分が生まれた時の様子を家族から聞き取る。
2次	○高齢者への理解を深め、老いることの意味を考える。 ・地域のデイサービスセンターや特別養護老人ホームを訪問し、高齢者と交流を深める。 ・寿命について話し合い、過去と未来の自分の生き方を考える。 ・様々な「老い」を考え、高齢者へのいたわりの気持ちを持つ。
3次	○死について考える。 ・死に関する絵本や詩を読み、必ず訪れる死について考える。
4次	○命に関する様々な本を読む。 ・自分が読んだ本の内容や感想を、他者にわかりやすく紹介する。 ・命の大切さについて、自分が伝えたい人へのメッセージを作る。
5次	○これまでの学習を振り返る。 ・命や死について、さらに知りたいこと、他者に伝えたいことを自分で調べ、深める。

授業プラン

●授業の展開

(導入)

1 学習のねらいについて知る。

人が生まれてから死ぬまでの時間を寿命と言います。人によって寿命は違い、時間の使い方や感じ方もそれぞれ違ってきます。

今日は、寿命の終わりである死について考えます。

(留意点・ポイント)

- ・寿命は人それぞれであるが、生きているものは必ず死を迎えるということを見つめさせる。

(展開)

2 絵本『死』って、なに？—かんがえよう、命の大切さ—を読んで生と死について話し合う。

みんな、今生きているよね。では、生きているってどういうことか、考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・「心臓が動いている」「息をしている」「話している」「楽しんでいる」等、あたりまえと思っていることが生きていることであることをおさえておく。

人は生まれたときに命がはじまり、やがて死を迎えます。みんなの命もいつか死を迎えます。死ぬってどうなることだと思いますか？

- ・「遊べなくなる」「話せなくなる」「会えなくなる」「何もできなくなる」等のいろいろな意見が予想される。
- ・子どもたちは、自分にとって大切な人（家族や友だち等）のことを思い浮かべていると思われるので、死が大切な人との別れであることに気づかせると同時に、つらく悲しい機会であるからこそ、今生きていることに感謝し時間を大切にしたい、という考え

につながっていくよう、児童の発言を大切にしながら板書等でまとめ整理していく。

人は必ず死にます。つらくても、悲しくても誰もがみんな死んでしまうのです。どうしてみんな死んでしまうのだと思いますか。

- ・命があるものには、すべて終わりがある。生を受けたものには、必ず訪れる老い「老化」について、具体的な例をあげて理解させる。

ここにみんなと同じ歳に病気になった宮越由貴奈さんの詩があります。一緒に読んでみましょう。

みんなと同じ歳なのに病気になって、生きてくても生きられなかったのです。この詩を読んで、どんなことを感じましたか？

- ・病気に負けず闘病する人や、それを支える周りの人々について知り、人間の勇気やたくましさを感じさせる。
- ・自分の命を精一杯生きることの大切さに気づかせる。
- ・同年齢の子どもが死と向き合っているという事実を知ることにより、死は決して自分にとって遠い存在ではない、ということを実感させる。

(まとめ)

4 本時を振り返り、感想を書く。

今日の学習から、わかったことや感じたことを書きましょう。

(留意点・ポイント)

- ・直接的な「死」についての授業内容であるため、児童がどのように感じているか個々の状態を把握し、不安感が大きい等の課題があれば、個別に指導する。

1 死ってなに？生きるってどういうこと？—命に関する絵本を使って—（姫路市立東小学校第4学年）

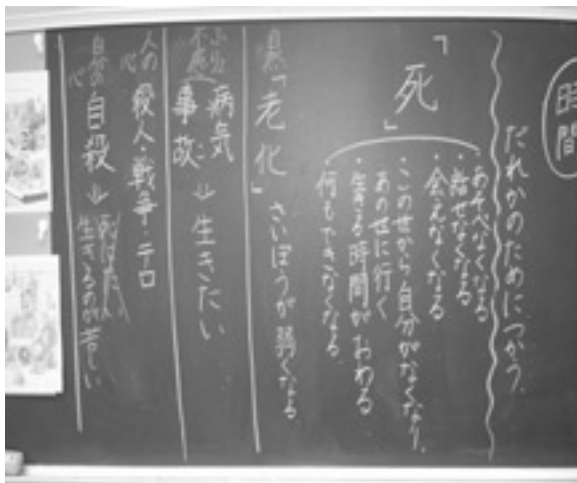
●授業で使用した提示資料等

命

宮越由貴奈（小学四年）

命はとても大切だ
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたつてやつと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいららない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

『電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ』より引用



死ぬってどういうこと？



いのちについて考える

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○命に限りがあることについて、自分の考えをまとめよう。	
感性を育む	○命をむだにしないということはどういうことか、書いてみよう。	
想像力の育成	○あなたにとって、せいっぱい生きるということは、どうすることですか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

「命が大切か？」と児童にきくと、ほとんどの児童は「そんなの分かりきっている」「当たり前だよ」と答えるであろう。しかし、子どもたちと毎日接していて、本当に命を大切であると心から実感しているのだろうか？と疑問に感じていた。そこで、命の大切さについて死をとおして考えてみようと思ったのである。

死を学習し命の有限性に気づくことは、児童の不安をあおるように考えられているかもしれないが、実際に学習してみると、命には限りがあることを明らかにしてすることにより、その不安をぬぐうことを実感した。いつ、どのような形で死ぬかもしれない、限りある命だからこそ、生きていることの大切さを理解できていたように思う。また、生と死は切り離すことができないものであり、一対のものとして正しい認識を持つことが大切であると感じた。そのためにも、教師が正確な情報を与えること、可能な限り個人的または断定的な考えを押しつけないこと、などが重要であると考えた。毎日の生活の中で、自分たちの周りには様々な死があるが、それらをより身近なものとして感じる事ができれば、自分自身の命の大切さを考えることにもつながっていくのではないかと思う。

●参考・引用文献

- ・すずらんの会 編『電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ』角川文庫 2006
- ・ローリー・クラスニー・ブラウン/マーク・ブラウン
『「死」って、なに？—かんがえよう、命の大切さ—』 文溪堂 1998

人間マップをつくろう

香美町立香住小学校第4学年

今の自分の姿を紙の上にかたち取り、その中に自分の紹介文を貼り付けた「人間マップ」を作成します。自分が家族から大切にされて成長してきたことや、友だちも同じように大切な存在であることを学びます。

- 実践のねらい
 - ◇感動の体験
 - ・自分の等身大の人間マップを作り、命の始まりの時や誕生時の姿を想像し、10年間の成長を実感する。また、これまで支えてくれた多くの人への感謝の気持ちを持ち、命を自分自身の大きさと表現することにより、命の重みやかけがえのなさを理解する。
 - ◇感性を育む
 - ・命の始まりは0.2ミリの針の穴位の大きさであったが、今の自分の大きさと比較し、10年間の成長を実感させる。
 - ・自分の身体から生きている証（脈・心臓の音等）を探し、生きていることを実感させる。
 - ◇想像力の育成
 - ・一人しかいない自分、かけがえのない自分に気づかせる。
 - ・保護者からの手紙を読み、自分は愛されて生まれ、育てられたのだということに気づかせる。
 - ・自分だけでなく、友だちも周りから愛され生きていることを理解させる。
 - ・将来の自分への思いを綴り、これからの生き方を見つめさせる。
- 事前の教員研修
 - ・自己再発見の体験をする（「命の大切さ」を実感させる教育への提言、教員研修テーマ③）。
 - ・助産師や養護教諭から生命誕生、二次性徴の話聞く。
 - ・保護者に協力を依頼することについて話し合う。
- 準備
 - ・保護者への協力依頼文書、ワークシート、包装紙、はさみ、のり、3cm画の黒の画用紙（中央に針で穴を開けたもの）、赤ちゃんの型紙、聴診器、『赤ちゃんの誕生』（ニコル・ティラー著 あすなろ書房）

【教育プログラムの概要】

1次	○妊婦との交流をとおして、命の重みを感じる。 ・妊娠をした時の喜びや苦勞についての話を聞く。 ・これから生まれてくる赤ちゃんと妊婦にメッセージを書く。
2次	○与えられた命を大切にし、より良く生きる方法を考える。 ・エゴグラムを活用し自分の特徴に気づき、良いところを伸ばそうという気持ちを持つ。 ・ストレスマネジメント体験により、感情をコントロールする方法を知る。
3次	○人間マップをつくる。 授業プラン ・自分の身体から、音や動き等、生きている証を探しだし、友だちと確認する。 ・等身大の自分を写し取り、命のはじまりの時や誕生時の自分と大きさと比べる。 ・自分の紹介文を書き、写し取った等身大のマップに貼り付ける。 ・人間マップの展示会を実施する。

●授業の展開

(導入)

1 学習のねらいについて知る。

この時間は、これまでの成長の軌跡である人間マップを作ります。

(留意点・ポイント)

- ・家族から聞き取った話をもとに、自分の成長について考えさせる。
- ・子どもを育てる家族の思いに気づかせる。

(展開)

2 命という言葉からイメージするもの考える。

命という言葉から、どんなことをイメージしますか？ イメージする言葉をあげてみましょう。

(留意点・ポイント)

- ・考えたり感じたりしたことを、自由に話し合い発表するよう促す。

3 自分の身体から生きている証を探す。

同性同士ペアになって、自分の身体から生きている証を探してみよう。音、動き、働きなど身体の中で、生きていることがわかるものを探してみよう。そして探したものを、隣同士で確かめてみよう。

(留意点・ポイント)

- ・どんな音が聞こえてくるか考えることにより、自分の身体に関心を持たせる。
- ・脈、呼吸、心臓の音、目の動き等をペアで確認させる。
- ・一番確認しやすい脈の取り方について説明する。
- ・耳で心臓の音を聴いたり、聴診器を用いて心臓の音を聴いてみたりさせる。

4 自分自身の10年間の成長について理解する。

今の自分の姿を紙に写し取り、命の始まりの時、誕生した時と、成長の様子を比べて見ましょう。そして見比べてわかったことを、ワークシートに書きましょう。

(留意点・ポイント)

- ・ペアになったもの同士で、お互いの「今の自分」を紙に写し取らせる。
- ・「命の始まりの時」「誕生した時」「今の自分」を切り取り、並べることで、成長の様子をしっかりと観察させる。
- ・違いの確認にとどまらず、その変化から、一人しかいないかけがえのない自分を実感させる。

5 西川雅巳氏の詩を読み、「ひとりにならずのいのち」について知る。

元気のない友人を勇気づけるために書き始めた指文字の詩です。この詩にあるように、命にはスペアはありません。そして同時に命は自分一人のものではなく、たくさんのつながりの中で生きているのです。

6 人間マップを完成する。

今の自分の等身大マップに、自己紹介文や家族からの手紙を貼り付け完成させましょう。

(留意点・ポイント)

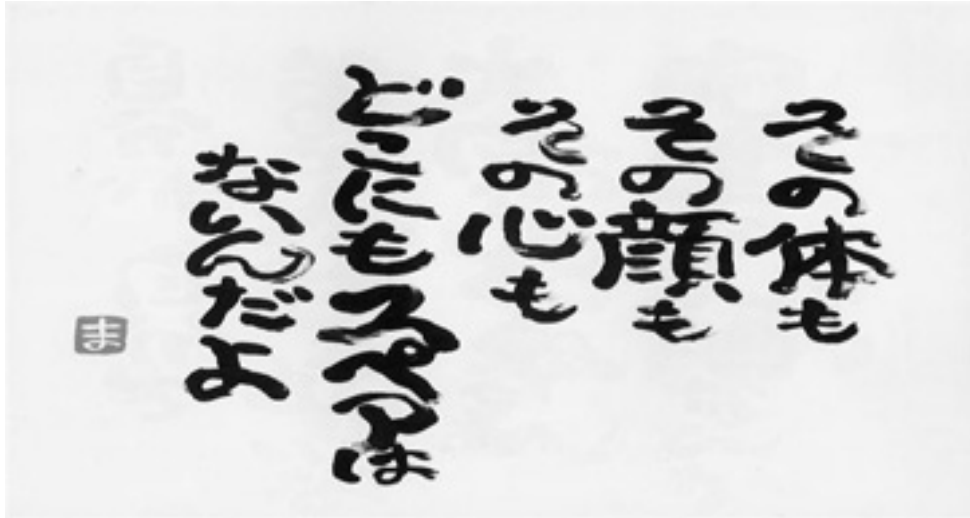
- ・自己のいのちを見つめ直し、自尊感情を高めるように配慮する。
- ・自分の人間マップを完成させるまでの作業過程の大切さに気づかせる。
- ・自分の誕生は家族にとっての喜びであり、自分の命は多くの人のおかげによって誕生し、愛情に包まれて育てられたことを実感させる。

7 人間マップの展示会を行う。

(留意点・ポイント)

- ・一人ひとりがかけがえのない存在であることともに、自分も友だちも、今を生きていることを実感させる。

●授業で使用した提示資料



『まちごうてもええ』西川雅巳より

私を紹介します！ワークシート

私の名前は _____ 私は _____ 歳です。

私の誕生日は _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日です。

私の名前は _____ がつけてくれました。

私の名前はこんな時、こんなふう _____ 決まりました。

私の名前にはこんな思いが _____ こめられています。

私の生まれたときの身長は _____ 私の生まれたときの体重は _____ cmです。 _____ kgです。

私が好きなものは _____ です。

私は次のとき「しあわせ」 _____ です。

私は次のとき「かなしく」 _____

型紙は自分の好きな包装紙を持ってくる児童や両親の新婚旅行時のお土産の包装紙を大事に持ってきた児童もいました。



大きな声で泣いて生まれてきたそうです。同じ日に友だちのY君も生まれました。



●振り返りカード

振り返りカード 年 組 名前（ ）		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○人間マップを完成させ、自分も周りの友だちも大切な存在だということを感じよう。	
感性を育む	○家族からの手紙を読み、自分がどれだけ大切に、愛情をもって育てられてきたか感じとろう。	
想像力の育成	○自分のいのちはたった一つしかないのだということを考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

本実践は、保健の授業に位置づけて行った。児童たちは、学級の友だちの人間マップを見て、一人ひとり違うことを実感し、それぞれ大切に育てられてきたことを感じとったようである。人間マップの展示会では、自分のものと見比べながら、「並べてみると、一人ひとりの違いがよくわかるなあ」や「一人として同じ人間はいないんだね。これが今の自分です」などの感想を述べる児童がいた。

人間マップの作成については、大変リラックスした雰囲気の中、児童も教師もお互い楽しみながら取り組むことができた。命の始まりの時を示す黒い画用紙は、自分が誕生した時の型紙の中に自由に貼り付けさせた。「命の始まりの時」「誕生の時」「現在の自分」の三者を比較させることで、成長の過程を強く感じさせることができ、そこから自分の成長を支えてくれた周りの人たちへの感謝の気持ちにつながっていった。命について考える時、抽象的になりやすいが、このように目に見える形で表すことで、より鮮やかに感じられるのではないかと思う。

今後の課題として、自分の紹介文を作成する際、児童は大変意欲的に取り組むことができたが、紹介文の中に書かれている子どもたちの様々な思いを、もう少し引き出すことができたなら良かったと感じた。また、命の誕生は奇跡的なことであること等、命に関する知識を正確に伝え、理解させることが必要であると思う。

【参考・引用文献】

- ・兵庫県教育委員会 「『命の大切さ』を実感させる教育への提言」 2006
- ・今野喜清 安達 昇 編 『いのちを考える授業プラン48 いじめ・不登校・学級崩壊を防ぐ—（教育技術MOOK）』 小学館 2000
- ・ニコル テイラー 『赤ちゃんの誕生』 あすなる書房 1996
- ・西川雅巳 『まちごうてもええ』 自費出版 1999

生き方から考える「命」

明石市立江井島中学校第2学年

困難に向き合いながらも、命の限り精一杯生きようとする星野富弘氏の生き方にふれることをとおして、これからの自分の生き方を考えます。

●実践のねらい	困難があっても自分の命を精一杯生かそうとする姿勢を学ぶ。
●指導のポイント	
◇感動の体験	星野富弘氏の生き方や感性にふれ、命の限り精一杯生きることの素晴らしさに気づかせる。
◇感性を育む	人は一人で生きているのではなく、多くの人のつながりや支えがあって生きているのだということを実感させる。
◇想像力の育成	困難な中でも、それに打ち克とうとうとしている人々の思いを押し量らせる。
●事前の教員研修	『愛、深き淵より。』(立風書房)、『鈴の鳴る道』(偕成社)を読み、星野氏の生き方について理解を深める。
●準備	星野富弘氏のプロフィール、ワークシート

【教育プログラムの概要】

1次	○働くことについて考える。 ・昨年度の「トライやる・ウィーク」のビデオ映像を見たり作文を読んだりする。 ・働くことについて話し合い、自己の有用性について考える。
2次	○「トライやる・ウィーク」体験をする。 ・お礼の手紙を書くことをとおして、地域とのつながりを考える。 ・「トライやる新聞」作りをし、活動内容や活動場所の様子をクラスで紹介する。
3次	○人とのつながりについて考える。 ・「いいところさがし」をする。 ・「100万回生きたねこ」(『ともだち』(兵庫県教育委員会)をとおして、人を愛し大切に思う気持ちや自他愛することについて考える。
4次	○ <u>生き方について考える。</u> 授業プラン ・星野富弘氏の詩集『鈴の鳴る道』(偕成社)を読むことで、その生き方を知る。 ・星野富弘氏の生き方から、自分が社会に対して何ができるかを考える。

●授業の展開

(導入)

1 星野富弘氏の「いのち」の詩と絵を見て、感じたことを話し合う。

この詩と絵を見てどんなことを感じましたか。自由に感じたことを発表しよう。

(展開)

2 学習のねらいを知る、

この詩と絵は、星野富弘さんが口に絵筆をくわえてかいたものです。今日は、星野富弘さんの生き方から、命について考えます。

3 星野富弘氏について知る。

これは星野富弘さんのプロフィールです。

(留意点・ポイント)

- ・知っている生徒には、自由に発表させる。
- ・氏のプロフィール (p103) を配布する。
- ・星野氏の生き方自分も他者もそれぞれが、かけがえのない命を生きていることに気づかせたい。

4 星野富弘氏の考える「いのち」に思いをめぐらす。

星野さんが、「いのち」という言葉にどのような思いを込めたか考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・作者の考える「いのち」に思いをめぐらせる。
- ・自分にとって、「生きるのが苦しいと感じる時」や「生きているのが嬉しいと感じる時」のこと考えさせることをとおして、「いのち」という言葉に込めた作者の思いを想像させる。
- ・「いのち」を「生きること」や「自分」に置き換えて考えさせる。

5 随筆「鈴の鳴る道」を読み、星野富弘氏の生き方について、考えを深める。

星野さんは小さな鈴をもらって車椅子にぶらさげました。それまでは道にでこぼこや小石があると避けてきた星野さんが、ある時、「チリン」と心にしみるような澄んだ鈴の音色を聞いてから、道のでこぼこを通るのが楽しみとなったそうです。小さな鈴の澄んだ音色が星野さんの気持ちを和やかにしてくれました。

(留意点・ポイント)

- ・「人生のでこぼこ道にさしかかった時に、揺れて鳴る鈴」という表現から困難があっても、自分の命を精一杯生きようとする姿に着目させる。
- ・星野氏が「口で字を書きたい!」と思ったエピソードを紹介し、自分のためだけでなく「人のために」自分を生かすことについて考えさせる。

6 これからの自分の生き方について考える。

自分にとっての「鈴」は何か?理由も考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・自分の考えを自由に発表できるような雰囲気を作る。
- ・教師自身の「鈴」について紹介し、生徒の考えるきっかけ作りをする。
- ・作者の生き方に思いをはせ、自分のこれからの生き方と重ね合わせて考えさせる。

7 本時を振り返る。

(留意点・ポイント)

- ・困難があっても、「心の中の鈴の音」を聞きながら前向きに生きようとする作者の姿をおさえる。

●授業で使用した提示資料

<星野富弘氏プロフィール>

1946年	4月	群馬県に生まれる。
1970年	3月	群馬大学教育学部保健体育科卒業。
	4月	高崎市立倉賀野中学校に体育教師として赴任。
	6月	クラブ活動の指導中受傷(頸髄損傷)手足の自由を失う。
1972年	12月	口に筆をくわえて、文字を書き始める。
1974年		手紙のすみに、花の絵を描き始める。
	10月	車椅子に初めて乗る。
1979年	5月	最初の作品展を開く。
	9月	退院、自宅に帰る。

【制作に当たって】

- 一つの作品を作るのに、10日から15日かかる。
- 一日に2時間ぐらいしか筆をくわえられない。
- 筆につける絵の具や水の量などを私が細かく指示したものを、妻が何度も別の紙に塗り、私に見せながら色を作る。

『鈴の鳴る道』(1986) 偕成社より



1986 (おだまき)

●振り返りカード

振り返りカード 年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○星野さんの生き方からどのようなことを感じとりましたか。	
感性を育む	○自分を支えてくれている周りの人の思いについて考えよう。	
想像力の育成	○「いのち」を大切にすることは、どうすることなのだろうか。自分の考えを書こう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

「命の大切さ」とはなんだろう。「命」は決して自分だけのものではない。誰かから「必要とされる」こと、それは生きる糧になる。そこから今回のテーマを考えてみた。一人ひとりの命を取り巻く環境として、身近な「他者」として「親」や「家族」がおり、「友人」がいる。そしてそうした人々が暮らす「社会」がある。その「社会」を支える「仕事」や「地域」等があり、それらも含めて「命」に対する考えを深めさせるため、社会体験活動の「トライやる・ウィーク」をプログラムに組み込んだ。「社会に対して何ができるか」ということを考えさせ、そこから「生きること」の尊さを考えさせたのである。「社会」で必要とされるということで、「生きることが素晴らしい」という気持ちにつなげることは短い実践の中では強引に感じる。ともすれば「社会の歯車になれ」とも聞こえる。それが非常に悩むところであった。

そこで、星野富弘氏の詩画集を用いて、困難があっても、前向きに生きようとする星野氏の生き方について考えるというプランを考えた。すると自分の中で、「社会」と「命」が繋がった気がした。決して強引ではなく、自分の大切な命をどう燃やすか。それを考えさせることができるような気がした。

これで終わりではなく、これからも取組の中で、自らがまず「命の大切さ」をもっと深く理解し、生徒たちに伝える実践を続けていきたい。

【参考・引用文献】

- ・星野富弘『愛、深き淵より。』立風書房 1981
- ・星野富弘『鈴の鳴る道』偕成社 1986

ストレスと上手につきあおう

高砂市立松陽中学校第1学年

養護教諭によるストレスについての概念や対処法等を学習したあと、スクールカウンセラーによるリラクゼーションを体験し、セルフコントロールの大切さを学びます。

●実践のねらい	ストレスについての理解を深め、人や物を傷つけないストレス対処法を知る。
●指導のポイント	
◇感動の体験	ストレスを感じている時の自分の心や体の状態を理解させる。
◇感性を育む	人には様々な感情があり、その場の状況に応じて人それぞれ違った感情を抱くことが自然なことであると気づかせる。
◇想像力の育成	ストレスは誰にでもあり、適切な対処が大切であることを理解させるとともに、自分に合ったストレス対処法を考えさせる。
●事前の教員研修	ストレスマネジメント体験（『学校のストレスマネジメント研究』2004 第3章 教職員研修参照）
●準備	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する内容について保健等の教科書を確認しておく。 ・スクールカウンセラーと打合せを行い、役割分担をしておく。

【教育プログラムの概要】

1次	<ul style="list-style-type: none"> ○構成的グループ・エンカウンターを使って自尊感情を高める体験をする。 ・「いいとこさがし」 ・「私は私が好きです。なぜならば」（国分康孝編『構成的グループエンカウンター事典 2004』）
2次	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉学習 ・キャップハンディ体験（ハンディキャップのある人の状況を体験する）をするとともに、バリアフリーについて考える。 ・障害とともに生きる人の話を聞く。 ・自分の命を「一生懸命に生きる」ことについて考える。
3次	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>ストレスマネジメント体験</u> 授業プラン ・自分のストレスを知り、様々なストレス対処法を理解する。 ・スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験をする。
4次	<ul style="list-style-type: none"> ○アサーション・トレーニング ・自分の話し方の特徴とその時の気持ちを知る。 ・怒りをコントロールする方法について考える。
5次	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害を体験した人の話を聞く。 ・「生きること」や「死」について考え、自分の人生を大切に生きていくことを考える。

●授業の展開

(導入)

1 学習のねらいについて知る。

この時間はストレスについて学びます。ストレスとは何なのか、ストレスに上手に対処するための方法について学習します。

(展開)

2 ストレスについて考える。

どんな時にストレスを感じますか。

(留意点・ポイント)

- ・日常生活の中で、「嫌だったこと」「緊張したこと」等を思い出させ、普段自分がどのような時にストレスを感じているかを振り返らせる。
- ・厚生労働省等のストレスについての調査結果を示し、自分と比較させてみる。
- ・二人一組になって話し合う時間を設定し、自由に発表できる雰囲気づくりをする。

3 自分のストレス反応を知る。

ストレスを感じると、心や体はどうなるでしょうか。

(留意点・ポイント)

- ・最近、「嫌だな」「腹たつ」「悲しい」など、ストレスを感じたことについて思い出させ、自分のストレス状態を振り返らせる。
- ・身体面（どきどきする、お腹が痛くなる等）、精神面（落ち込む、イライラする等）、行動面（物にあたる、暴言を吐く等）に分けて整理し、ストレス反応を理解させる。
- ・自分がストレスだと感じていることや、ストレス反応について理解させる。
- ・ストレスの感じ方には個人差があることをおさえる。

4 ストレス対処を理解する。

ストレスを感じた時、どのように対処しますか。

(留意点・ポイント)

- ・自分のストレス対処の方法について4～5人のグループになって話し合い、考えをまとめて発表させる。
- ・意見として出された対処法を、「支えてくれる仲間」「プラス思考」「気分転換」「リラクゼーション」等に整理し、様々なストレス対処があることを理解させる。
- ・「やりすぎてはいけない対処」（ゲーム、暴飲暴食等）、「やってはいけない対処」（人を傷つける、薬物の使用等）をおさえ、自分に合った適切な対処法を考えさせる。
- ・体と心はつながっており、「栄養を取る」「十分な睡眠」「規則正しい生活を送る」等、体調を整えることは心の調子も整えることにつながることを確認する。

(まとめ)

5 本時の学習を振り返り、感想を話し合う。

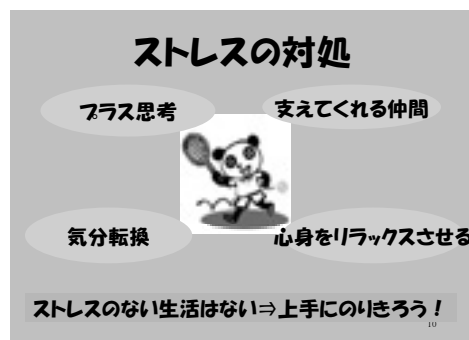
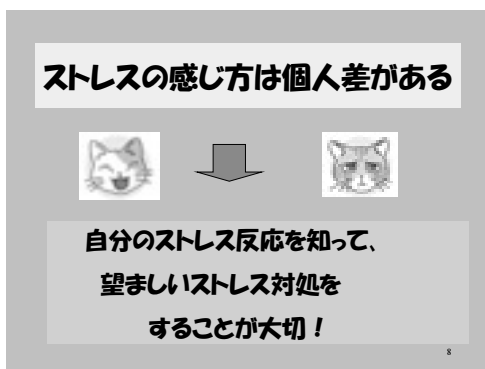
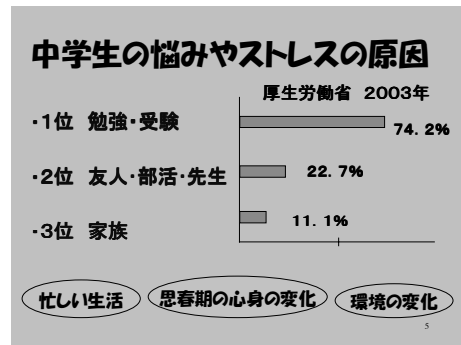
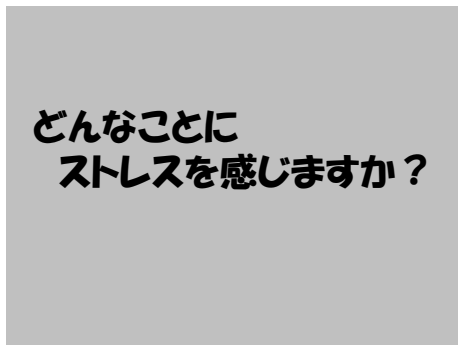
(留意点・ポイント)

ストレスの全くない生活はありません。私たちはストレスと上手につきあうことが大切です。

また、ストレスは人を苦しめるだけではなく、成長させることがあります。うまくストレスを活用して自身を成長させるきっかけとしましょう。

そして忘れてはならないことは、ストレスで疲れてしまった時には、体を休めるように、心を休めることが必要です。次の時間には、スクールカウンセラーの先生によるリラクゼーション実習を行います。

●授業で使用した提示資料



(イラストについては、成美堂出版編集部 編『CD-ROMつき そのまま使えるイラスト・カット大全集』を使用)

●振り返りカード

振り返りカード 年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○ストレスを感じると、心や体はどうなるのだろうか。	
感性を育む	○人にはいろいろな感情があることに気づきましたか。	
想像力の育成	○自分に合ったストレス対処法についてまとめてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

「今、本校の子供たちに必要なこと」を考えて、今回のテーマを設定した。それは、最近よく言われている「自尊心の低さ」と「コミュニケーション能力の低下」である。本校もまさにそうした課題を抱えている。そこで「命を大切にする」ことを学ばせるために、まず一番基本となる「自分を大切にする」ことから始めようと考えた。

今までは、養護教諭という職務上、健康教育としてのアプローチが中心であったが、本授業プランの「ストレスと上手につきあおう」は、養護教諭がストレスの概念や対処法等について授業をした後、スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験を実施し、理論と体験を結びつける試みを多くの人の協力を得て行うことができた。

この体験をとおして、「子供たちを変えたい。」という思いは「変わらなければいけないのは、私なのだ。」と変わっていった。自分を好きになり自信を持つこと、仲間としっかりコミュニケーションをとること、仲間を信頼し共に頑張ること、そして共通の目標をもつこと、これらが出来ていなかったのは実は私自身だったということに気づいた。その気づきが、子どもたちへの予防的な支援につながるということに、遅まきながらたどり着いたというのが実感である。

これからも、同僚の教員と共に考え、共に悩みながら、子どもたちにぶつかっていき、さらに実践を深めていきたいと思っている。

【参考・引用文献】

- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレスマネジメント研究』2004
- ・富永良喜・山中 寛 編著『動作とイメージによる ストレスマネジメント教育 展開編』北大路書房 1999
- ・国分康孝編『構成的グループエンカウンター事典』図書文化 2004

言葉のひとり歩きを考える—メール・ブログをとおして—

県立農業高等学校定時制第4学年

便利だけれど思わぬトラブルも起こりやすいインターネット。自分も他者も大切にしたいインターネット上のコミュニケーションについて考えます。

●実践のねらい	ネット社会でのマナーや様々なコミュニケーションについて考え、望ましい人間関係を築く力を培う。
●指導のポイント	
◇感動の体験	・普段、当たり前のように使っているメールのやりとりには落とし穴があることに気づかせる。
◇感性を育む	・一般に、メールやブログ等では感情はきちんと伝わらないことを実感させるとともに、相手を思いやることがコミュニケーションの基本であることに気づかせる。
◇想像力の育成	・ネット社会の長所と短所を知り、有効に活かせることを理解させる。
●事前の教員研修	・携帯電話やパソコンの所持等の調査結果について検討し、実態把握をする。
●準備	・「悟の失敗」ワークシート (『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』参照 (社団法人 日本教育工学振興会))

【教育プログラムの概要】

1次	○自己理解・他者理解を深める。 ・「誕生日チェーン」 ・「自己紹介・他己紹介」
2次	○言葉のひとり歩きを考える。 ・「言葉の力」やコミュニケーションの難しさを理解する。 ・自他を大切にしたいインターネット上のコミュニケーションを考える。
3次	○よりよく生きるために必要な他者とのコミュニケーションのあり方を考える。 ・自分のコミュニケーションの特徴を知り、よいところを伸ばすための方法を考える。 ・自他の存在を尊重した話し方や行動について学ぶ。

授業プラン

●授業の展開

(導入)

1 学習のねらいについて知る。

この時間は、メールやインターネット上のコミュニケーションのあり方について考えます。

(留意点・ポイント)

- ・インターネット、ブログ等の危険性について書かれた資料を配布し、これまでの体験を振り返らせる。

(展開)

2 インターネット、ブログ、メールで困った事や、失敗した体験について思い出す。

これまで、インターネット、ブログ、メールを利用する中で、困ったことや失敗したことはありますか？

(留意点・ポイント)

- ・現在、トラブルに巻き込まれている生徒がいないか配慮する。
- ・メールでは、相手の表情が見えないことに留意させる。

3 メール“落とし穴”について考える。

「悟」の失敗を読んで、質問事項に答えましょう。

(留意点・ポイント)

- ・悟、健太それぞれの気持ちになって考えさせる。
- ・自分なら、どのようなメールを送るか考えさせる。

4 メールの使い方やマナーについて理解する。

自分の体験と重ね合わせて、悟の送ったメールの何がいけなかったのか考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・メールの文字だけでは、声のトーンや気持ちが伝わらないことを理解させる。
- ・そのため、誤解を招いたり、相手を傷つけたりすることがあることに気づかせる。

5 トラブルの対処方法を考える。

メールでのトラブルに対処するためには、どうすればよいのか、話し合ってみよう。

(留意点・ポイント)

- ・数人のグループで意見交換する。
- ・「相手の気持ちになって考えてみる」というコミュニケーションの基本は、インターネット上やメールにおいても変わらないことをおさえる。
- ・「直接顔を見て、相手の気持ちを確認する」など、メールでは伝わらないものがあることに気づかせる。

(まとめ)

メールは大変便利な情報伝達の手段ですが、危険性も併せ持っています。時には相手に誤解を与え、人間関係を壊してしまう場合もあることをわきまえて使う必要があります。

メールや言葉に「いのち」を吹き込むには、使う人の心構えが大切なのです。それは、「相手に対する思いやり」です。

●授業で使用した資料・ワークシート



教材(資料)「悟の失敗」

サッカー仲間の大の仲良しの二人(悟と健太)は、いつも「ボールいくぞ」「おお」「何やってんだよ、どじだなあしっかりとれよ。」「何言ってるんだ。悟こそ弱チヨロボール。ちゃんと届くような玉を送れよ」などと、大声で言いながらサッカーを楽しんでいる。「ひどい言い方、けんかになるよ。」とまわりから言われても、心が通じ合っているから平気平気と言って、あいかわらず楽しそうにサッカーをやりながら大声で話している。そんなある日試合があった。悟が送ったパスを健太が取ろうとしたが、ころんで敵に取られてしまう。試合は悟達のチームの負けで終了した。

落ち込んでいる健太を励まそうと悟はメールを送った。ところが返事も来ないし、次の日から健太の態度がどうもおかしい。ろう下の向こうから健太がやって来たので、悟は声をかけようとした。いつもならすぐにあいさつしてくれるのになぜか悟を見ないようにしてさっさと行ってしまい避けている。悟は遊びに来た友達の実司にメールの画面を見せて相談した。実司はメールを見るなりあきれて「これがはげましのメール? これじゃ健太が悟と会いたくないのも無理ないよ。落ち込んでいる時にこんなメール来たら、ますます落ち込むのは当然だよ。ぼくだってこんなメールいやだよ。」と言った。悟は驚いて「えっ、いつも話しているように打ったんだけどなあ……。失敗したな。」と言い、もう一度メールを読んで考え始めた。

悟から健太への電子メール 「ちゃんとやれよ 健太！」

「健太へ 今日の試合は残念だったな。せっかくおれがいいパスを回してやったのに、かんじんなところでころぶなんて、どじだよな。試合にもまけちゃうし。ころんだけど、足、けがしなくてよかったな。次の試合ではちゃんとやれよ。悟より」

『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』(社団法人 日本教育工学振興会)より

- ① 日頃、悟と健太はどのような関係だったと思いますか?
- ② 健太にメールを送っている時の悟の気持ちはどうだったと思いますか?
- ③ メールをもらった時の健太の気持ちはどうだったと思いますか?
- ④ 実司から「僕だってこんなメールいやだよ」と言われた時の悟の気持ちはどんなだったと思いますか?
- ⑤ あなたが悟なら試合後、健太にどのようなメールを送信しますか?メール文を考えて下さい。
- ⑥ この後、悟は健太にどのように接したらよいと思いますか? (行動や内容を詳しく書いて下さい)
- ⑦ このようなお互いの気持ちのすれ違いはなぜ起こると思いますか? (行動や内容を詳しく書いて下さい)
- ⑧ あなたにも同じような体験があれば書いて下さい。(行動や内容を詳しく書いて下さい)

() 番 名前 ()

●振り返りカード

振り返りカード		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○言葉がひとり歩きすることについて、自分の考えをまとめてみよう。	
感性を育む	○メールやブログ等でコミュニケーションする際に気をつけなければならないことは何だろうか？	
想像力の育成	○ネット社会で生きるために必要なことについて考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●実践者の感想

現在、本校の生徒の大半は携帯電話を所持している。ホームページを開設している者もいて、不特定多数の者とメールやチャットの書き込み等を行っている。携帯電話やパソコン等の情報機器は便利である半面、トラブルに巻き込まれる危険性も多く実際にネット上でトラブルを経験した者もいる。

こうした実態を踏まえ、情報モラルについてだけでなく、生徒たちが仲間を大切に、人を大切にする心を培うための授業プランの作成・実践に取り組んだ。

実践をとおして、生徒たちがコミュニケーションについて真剣に考えるようになったと実感した。それほど大きな変化ではないかもしれないが、他者のことを意識し、人にはそれぞれいろんな背景や事情があることを考えて関わろうとするといった変化があったように感じている。自分のことだけを考える小さな世界を抜け出て、自他共に認め合えるような広い世界へと踏み出せるような実践を積み重ねていきたい。

●参考・引用文献

- ・『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』(社団法人 日本教育工学振興会) 2007
- ・NHK週間こどもニュースホームページ (2004年7月17日放送、2005年10月29日放送)

「支援」を考える

県立新宮高等学校第1学年

人を支援するとは？一人ひとりをかけがえのない存在として尊重した支援のあり方とは？
体験ワークをとおして支援のあり方について学びます。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●実践のねらい | <p>支援のあり方について考えることをとおして、自他を大切にすることについて考え、一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感する。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ●指導のポイント | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◇感動の体験 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を支えることができる自分自身の可能性に気づかせる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◇感性を育む | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況で生きる人を知ることとおして、生命の尊重、命の尊厳に思いをめぐらせる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◇想像力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者の思いや気持ちを汲み取り、自分にできることや支援のあり方、支え合うことについて考えさせる。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●事前の教員研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や老人福祉施設等の関係者から、「支援について」というテーマで話を聞く。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。 |

【教育プログラムの概要】

授業プラン

1次	<p>○支援を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支援のあり方」について体験的に考える。 ・様々な障害に負けず全力で生きる姿（DVD等の資料）を見て、意見交換をする。
2次	<p>○県立西播磨リハビリテーションセンターを見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験をする。 ・障害者スポーツを体験する。
3次	<p>○高齢者宅を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の高齢者から戦争体験についての話等を聴き取る。 ・聴き取ったことをクラス全体で発表する。

●授業の展開

（導入）

1 学習のねらいについて知る。

この時間は、人を支援するという事について考えます。支援のあり方について考えることをとおして、他者を大切にしたい関わりについて、また人を支えるということはどういうことなのかを考えます。

（留意点・ポイント）

- ・真剣に取り組ませる雰囲気作りをする。

（展開）

2 自分が他者に支えてもらった体験について思い出す。

自分が他者に支えてもらったときのことを思い出してみましょ。その人とのどのような関わりによって、支えてもらったと感じましたか。

（留意点・ポイント）

- ・人と人とのつながりの素晴らしさに気づかせる。
- ・言葉がけなどの言語的なコミュニケーションと、相手の思いを感じ取るなどの非言語的なコミュニケーションに分けて整理する。
- ・つらい体験そのものを思い出させるのではなく、支えてもらった関わりに焦点をあてて話し合わせる。

3 支援のあり方について、体験をとおして考える。

けがにより、利き腕が自由に動かせない友人A（三角巾で腕を固定する）を支援することを想定し、自分ならどのような援助をするかを考えてみましょう。

〔方法〕

- (1) 4人グループを作る。
- (2) 支援を必要としている友人役（A）は、

何をしようとしているか、何をしたいか、どうしてほしいかについて記されたメモ（下記〈ケース〉に例示）を黙読し、その内容を他のメンバーには伝えることなく演じる。

- (3) A以外の方は、Aの様子から何を望んでいるかを想像し、ワークシートに記入する。

また、自分がAに対してどのように行動するかについてもワークシートに記入する（他のメンバーとは話さず、思うままを記入する）。

〈ケース〉

A1：『今日の荷物は重たいなあ。どうやって運べばいいかな』

A2：『友人に自分の気持ちを聞いてもらいたいな』

A3：『明日提出のレポートが、まだできていないなあどうしよう』

A4：何も支援を望んでいない。

- (4) ワークシートに記入したことを、実際の行動に移す（言葉かけも含めて）。

- (5) Aは自分の求めていた支援をメンバーに伝える。また、支援を受けた感想をメンバーに伝える。

- (6) 全員が交代してAの役割を体験し、(1)～(5)を繰り返す。

- (7) この体験ワークをグループで振り返る。

- (8) グループごとに、代表的な感想をまとめ、発表する。

（留意点・ポイント）

- ・体験ワークをとおして、感じたことを自由に発表させ、多様な援助方法があることに気づかせる。
- ・気持ちが伝わったときの喜び、相手の立場に立って気持ちを考えることの大切さに気づかせる。
- ・それぞれが大切な一人の人間として尊重される支援のあり方を考えさせる。

4 本時を振り返る。

（留意点・ポイント）

支援のあり方は多様であること、人として尊重した関わりをすることの大切さをおさえる。

●授業で使用したワークシート

ワークシート

名前：_____

○自分が他者に支えられた体験を思い出そう。

--

○自分の演じた役割内容（_____）

○支援を受けた感想を書こう。

--

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？

●自分の行う援助

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？

●自分の行う援助

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？

●自分の行う援助

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○他者を援助する体験をとおして感じたことをまとめよう。	
感性を育む	○相手の主体性を尊重した関わりとはどのようなものだろうか。	
想像力の育成	○人と人が支え合うために必要なことについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

人との関わり方には2通りの方法があると思う。一つは「指示的」な関わり方で、あと一つは「支援する」関わり方である。福祉の基本姿勢は「支援」だと思う。心の通い合うコミュニケーションを考えることをとおして、支援のあり方を考える授業プランを作成し実践した。

心の通い合うコミュニケーションとはどのようなものか、それを考えさせるため、今回の体験ワークを設定した。前者の「指示的」な関わり方は、上から下へのコミュニケーションを図ること、つまり、「こうしなさい」等のような言葉かけが多くなる。それに対し、「支援する」関わり方は、相手の主体性を尊重しながら、相手が「どう思っているのか」「どうするのか」を支えていく。人を支援する時には、この視点をもつことが重要である。

生徒はこの体験ワークをとおして、支援の基本を学んでいった。最初は「きつこうだろう」「これに違いない」といった思いこみによる援助になっていたが、何度かメンバーが交代し繰り返していく中で、少しでも相手の声（話は出来ないが、身振りや表情など）から傾聴・共感することが自然に出来るようになっていったように思う。

また、自分の思いがどうすれば相手に受け止めてもらえるかも考え出した。自分の気持ちが相手に伝わり受け止めてもらったときの笑顔、また、それを目指して支援することが大切なことであると実感したように思う。

一人ひとりが大切な人間として尊重される「支援」を目指すこと、それが相手を大切にすること、ひいては「命を大切にすること」につながると気づいたと感じている。これからも、福祉を学ぶ生徒と「支援」について共に考え、さらに実践を深めていきたい。

平成19年度「命の大切さ」を実感させる教育プログラム開発研究委員会 設置要項

1 目的

激しく変化する社会の中で、時代を超えても変わることのない「命の大切さ」を、子どもたちに実感させるための教育プログラムを研究・開発するとともに、子どもたちの発達段階に応じた実践的研究を推進し、学校における「命の大切さ」を実感させる教育の充実に図る。

2 組織

(1) 委員会は、次の委員により構成する。

- ・ 教員委員 6名程度
- ・ 学校委員 3名程度
- ・ 事務局委員 6名程度

(2) 各委員は、県立教育研修所長が委嘱する。

(3) 事務局は、県立教育研修所心の教育総合センターに置く。

3 期間

この委員会の設置期間及び委員の任期は、要項の施行の日から平成20年3月31日までとする。

4 任務

各委員は以下の任務を行う。

- (1) 教員委員は、事務局委員との研究協力体制のもとに、各校種ごとの「命の大切さ」を実感させる教育プログラムを実践し、その実践の成果をまとめる。
- (2) 学校委員は、地域との連携のもと学校全体で実践を行う観点から、教員委員の実践案を検討し、助言を行う。
- (3) 事務局委員は、委員会の研究・実践方針を立案し、委員会の活動を統括する。

5 経費等

予算の範囲内で経費等を支出する。

附則

この要項は、平成19年6月1日から施行する。

平成19年度「『命の大切さ』を実感させる教育プログラム開発研究委員会」委員名簿

区分	氏名	所属・職名	
教員委員	小学校	酒井 俊子	三田市立武庫小学校 教諭
		日下 芳宏	淡路市立大町小学校 教諭
	中学校	米村 貴之	明石市立江井島中学校 教諭
		坂本 孝夫	太子町立太子西中学校 教諭
	高等学校	井本 有二	県立新宮高等学校 教諭
		岸本久美子	県立豊岡高等学校 養護教諭
学校委員	小学校	山田 和廣	芦屋市立浜風小学校 校長
	中学校	山本 雄幸	三木市立別所中学校 校長
	高等学校	常陰 則之	県立多可高等学校 校長
事務局委員	富永 良喜 (委員長)	心の教育総合センター 兵庫教育大学大学院 所長 教授	
	古川 雅文 (副委員長)	心の教育総合センター 兵庫教育大学大学院 主任研究員 教授	
	藤井 雅英	県立教育研修所 教務部長	
	市橋 真奈美	心の教育総合センター 指導主事	
	黒河内 雅典	心の教育総合センター 指導主事	
	大畑 賢志	不登校対策推進研修員	

平成18、19年度

「小・中・高等学校『命の大切さ』を実感させる教育実践研究講座」の受講者名簿（一部）

区分	氏名	所属・職名
小学校	辰巳 智子	姫路市立東小学校 教諭
	西村 眞佐乃	香美町立香住小学校 養護教諭
中学校	高田 真里	高砂市立松陽中学校 養護教諭
	丸谷 富士子	豊岡市立城崎中学校 教諭
高等学校	今津 有里	県立農業高等学校<定時制> 講師

「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例集Ⅱ
http://www.hyogo-c.ed.jp/%7Einochi/index_jirei.html

発行日 平成 20 年 3 月
事務局 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター
〒673-1421
加東市山国 2006-107
電話 0795-42-3100
発行 兵庫県教育委員会
〒650-8567
神戸市中央区下山手通 5-10-1
装丁協力 株式会社 I・M・D (アイ・エム・ディー) 佐々木良介
印刷 高橋総合印刷株式会社
〒670-0992
姫路市福沢町36
電話 079-292-1100 FAX 079-293-2040



古紙配合率70%再生紙を使用しています。